

令和5年度 藤沢市子どもと子育て家庭の 生活実態調査・ニーズ調査結果の概要

～ 調査結果から把握した現状と課題 ～

藤沢市子ども青少年部子育て企画課

目次

1. 調査の概要	P.3
2. 調査結果について	P.15
① 世帯の生活状況	P.16
② 保護者の悩み事・相談相手	P.28
③ 保護者のウェルビーイング	P.40
④ 子どもの生活状況	P.50
⑤ 子どもの学校生活・学習状況	P.62
⑥ 子どもの悩み事・相談相手	P.80
⑦ 子どものウェルビーイング	P.88
⑧ 子どもの意見	P.98
3. 調査結果から把握した課題・今後の方向性	P.106

1. 調査の概要

- 二一ズ調査

(未就学児、5歳児・小学1～4年生世帯)

- 実態調査アンケート調査

(5歳児、小学5年生、中学2年生)

- 支援者ヒアリング調査 (16分野・24団体)

- 社会資源調査

(子ども・若者の居場所の運営団体等)

1. 調査の概要 – ニーズ調査

- 調査内容：幼児期の教育・保育や放課後児童クラブ等の子育て支援事業に関する利用状況や意向を調査
- 実施時期：2023年10月下旬～ 11月中旬
- 実施方法：郵送配布・郵送回収（5歳児・小学1～4年生
保護者調査は郵送回収とウェブ会頭との併用）
- 調査対象・回収状況：

調査対象（無作為抽出）	対象者数	有効回収数（率）
市内在住の0～4歳児の保護者	6,000件	2,687件（44.8%）
市内在住の 5歳児・小学1～4年生の保護者	6,000件	2,771件（46.2%）

1. 調査の概要 – 実態調査アンケート調査

- 調査内容：子どもの生活や学び、保護者の暮らしや子育ての悩み等の様々な観点から生活実態を調査
- 実施時期：2023年9月下旬～10月下旬
- 実施方法：5歳児保護者は郵送配布・郵送回収し、小中学校は学校を經由して配布し郵送で回収
- 調査対象・回収状況：

調査対象（全数）	対象者数	回収率※1	有効回答数
市内5歳児の保護者	3,749件	58.9%	2,198件
市立小学校の小学5年生と保護者※2	各3,913件	42.1%※3	1,644件※3
市立中学校の中学2年生と保護者※2	各3,615件	31.6%※4	1,143件※4

※1 回収率は、回収数を配布数で割った割合

※2 市立特別支援学校の小学5年生と保護者、中学2年生と保護者を含む

※3 小学5年生子どもの有効回収率、無効回答を除いた有効回答数

※4 中学2年生子どもの有効回収率、無効回答を除いた有効回答数

1. 調査の概要 – 分析の視点

- アンケート調査結果は、様々な困難を抱える子どもを以下の3つの視点から分析

1. **経済的な生活困窮の視点** … 経済的困窮が子どもの育ちや家庭に及ぼす影響とは、気付くためのシグナルとは

2. **ひとり親世帯の視点** … 世帯に大人が一人のひとり親世帯（2世代同居）の子どもや世帯が抱える課題とは

NEW
3. **生活満足の視点** … 「ウェルビーイング」の観点から、親子の身体と心、周囲を取り巻く身近な環境を分析



用語解説 ウェルビーイング

- 「ウェルビーイング」は、身体的・精神的・社会的（バイオサイコソーシャル※）に幸せな状態にあることを指す。また、包括的な幸福として、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など生涯にわたる持続的な幸福を含む。
- このようなウェルビーイングの向上を、権利行使の主体としてのこども自身が、主体的に実現していく視点が重要である。なお、ウェルビーイングは、生涯にわたる全ての時期を通じて高めることが重要であり、おとなも含めてウェルビーイング向上の実現を同時に目指すことが必要。

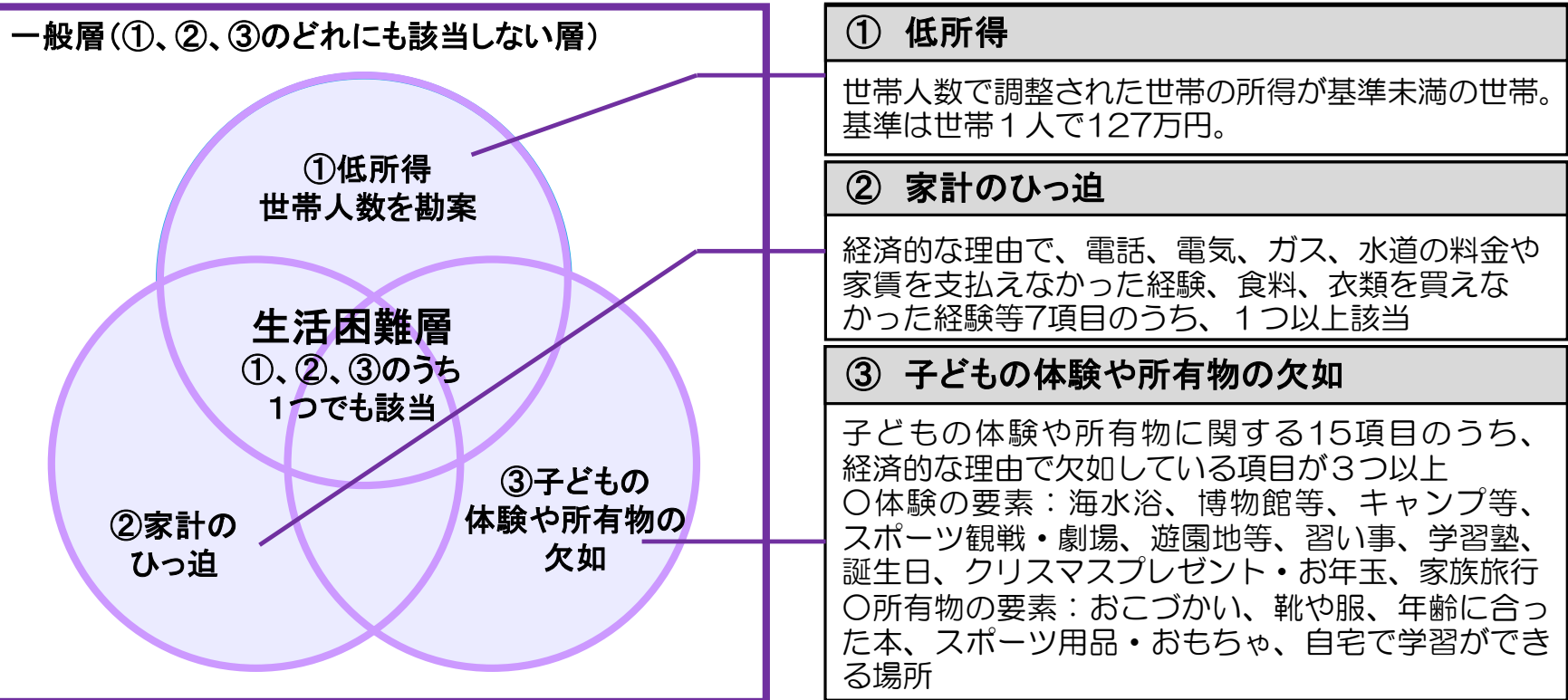
（こども家庭庁「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」より）

※バイオサイコソーシャルとは、「バイオ（身体的）」、「サイコ（精神的）」、「ソーシャル（社会的）」の3要素から成り立っており、相互に影響しあう要素を多角的、包括的に捉える視点。

1. 調査の概要 – 分析の視点



生活困難層の分析に使用する用語

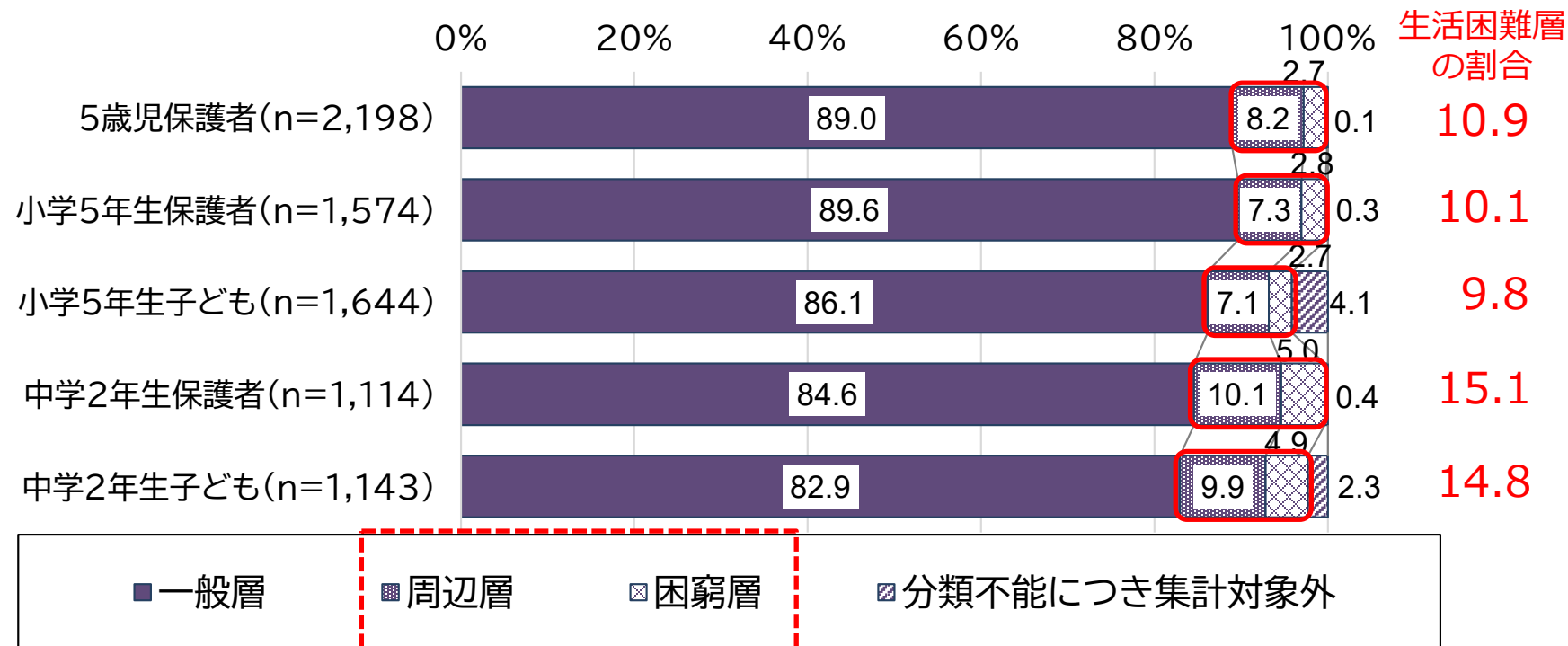


- 生活困難を判定する3要素に1つ該当する場合「周辺層」、2つ以上該当する場合「困窮層」、「周辺層」と「困窮層」を合わせて「生活困難層」

1. 調査の概要 – 分析の視点



生活困難層別の構成割合



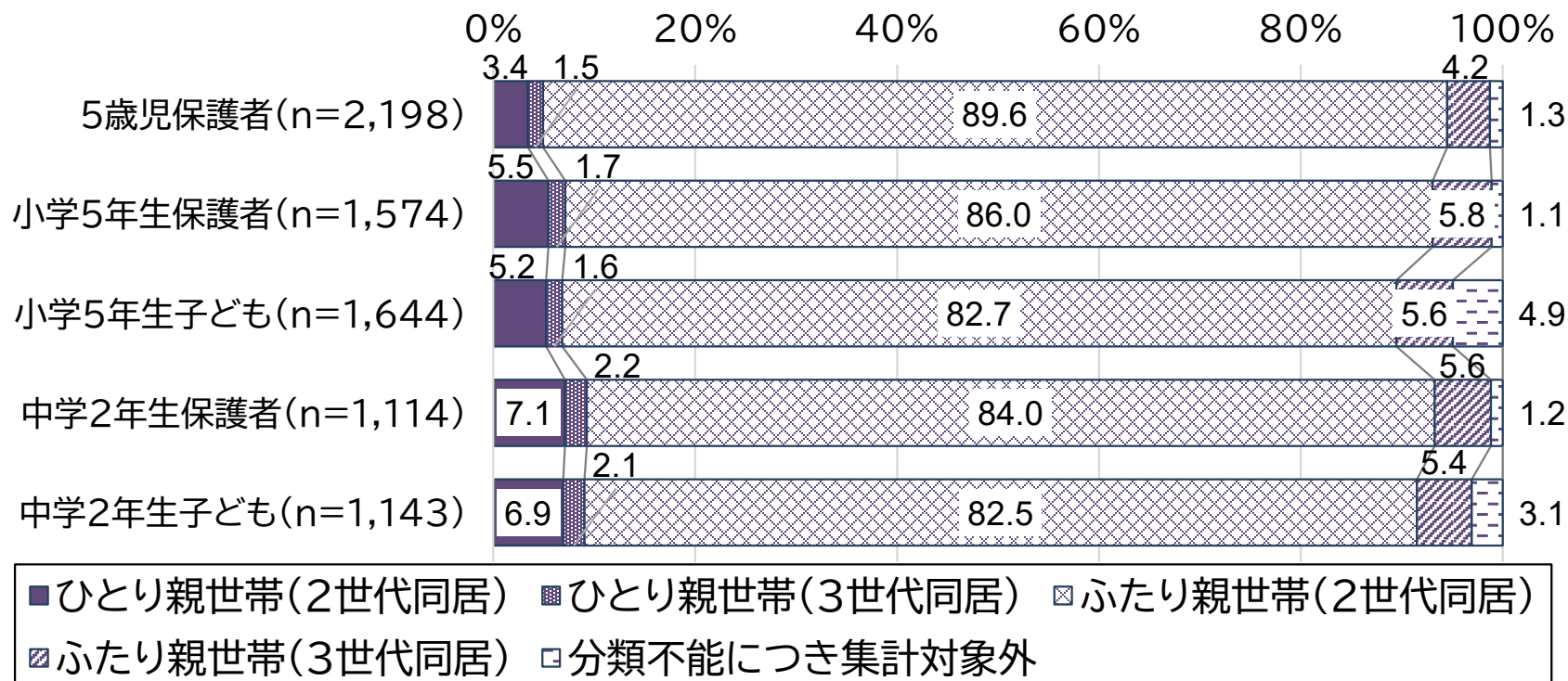
生活困難層は周辺層と困窮層の合計)

- 生活に困難を抱えている割合は、5歳児保護者が10.9%、小学5年生保護者が10.1%、中学2年生保護者が15.1%

1. 調査の概要 – 分析の視点



世帯タイプ別の構成割合

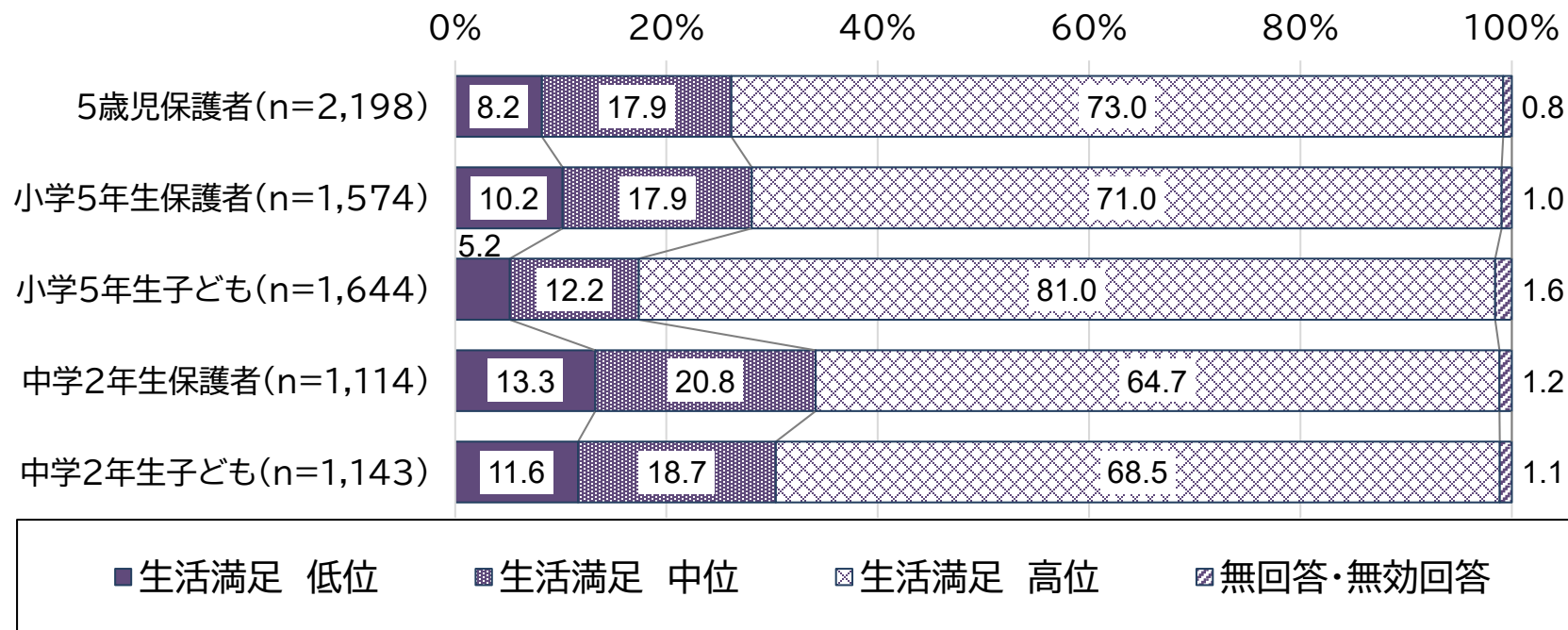


- ひとり親世帯（2世代同居）の割合は、5歳児保護者が3.4%、小学5年生保護者が5.5%、中学2年生保護者が7.1%

1. 調査の概要 – 分析の視点



生活満足度別の構成割合



※生活満足度の回答は、まったく満足していない(0)から十分に満足している(10)までの11段階。本調査においては、満足度の0~4点を「生活満足 低位」、5・6点を「中位」、7~10点を「高位」として区分し集計した。

- 生活満足度が低い層の割合は、5歳児保護者が8.2%、小学5年生保護者が10.2%・子どもが5.2%、中学2年生保護者が13.3%、子どもが11.6%

1. 調査の概要 – 支援者ヒアリング調査

- 実施時期：第1期令和5年10月中旬～令和5年12月中旬
第2期令和6年1月下旬
- 調査対象：子どもや保護者の支援に関連する24団体
(第1期21団体、第2期3団体)
- 調査方法：対面およびオンラインによるヒアリング
- 調査内容：
 - 第1期：活動の概要、支援対象者の課題や支援ニーズ、
他の支援機関との連携、市の対策として必要なこと 等
 - 第2期：活動の概要、子ども・若者の声を反映した居場所
づくりについて、市の対策として必要なこと
(グループヒアリング)

1. 調査の概要 – 社会資源調査

- 実施時期：2023年9月中旬～2024年10月下旬
- 調査対象：市内で子どもの居場所を運営している施設や団体等
- 調査方法：ウェブアンケート調査
- 調査内容：法人・団体の基本情報、市内における活動の概要、市の子ども・若者、子育て支援への意見
- 回答数： 回答数69件、有効回答数47件

1. 調査の概要 – 調査結果の見方・留意点

- 図（グラフ）の中で使用されている「n=」は、その設問に対する回答者数を示す。
- 設問の中には単一回答の質問（選択肢の中から1つ回答を選ぶ質問）、複数回答の質問（選択肢の中から該当するものを複数選択する質問）、数値を回答する質問、自由に回答を記述する質問がある。
- 回答の比率は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、全ての比率を合計すると100%を超える場合がある。
- 回答の比率は選択肢ごとに小数点第2位で四捨五入しているため、その割合の合計が100.0%にならない場合がある。また、設問に無回答であった場合も含めて集計を行った割合を示している。
- 自由記述による回答は、回答内容に基づき分類・整理をし、分類別の件数を集計した。ひとりの方が複数の分類にまたがる内容を回答している場合には、それぞれの分類でカウントしている。なお、回答の一部を要約・抜粋により掲載しているものがあるため、全ての回答の内容を網羅しているわけではない。また、回答者の意見は基本的には原文のまま掲載しているが、部分的に、誤字や脱字の修正、文末表現の統一を行った。

2. 調査結果について

- ① 世帯の生活状況
- ② 保護者の悩み事・相談相手
- ③ 保護者のウェルビーイング
- ④ 子どもの生活状況
- ⑤ 子どもの学校生活・学習状況
- ⑥ 子どもの悩み事・相談相手
- ⑦ 子どものウェルビーイング
- ⑧ 子どもの意見

2-① 世帯の生活状況

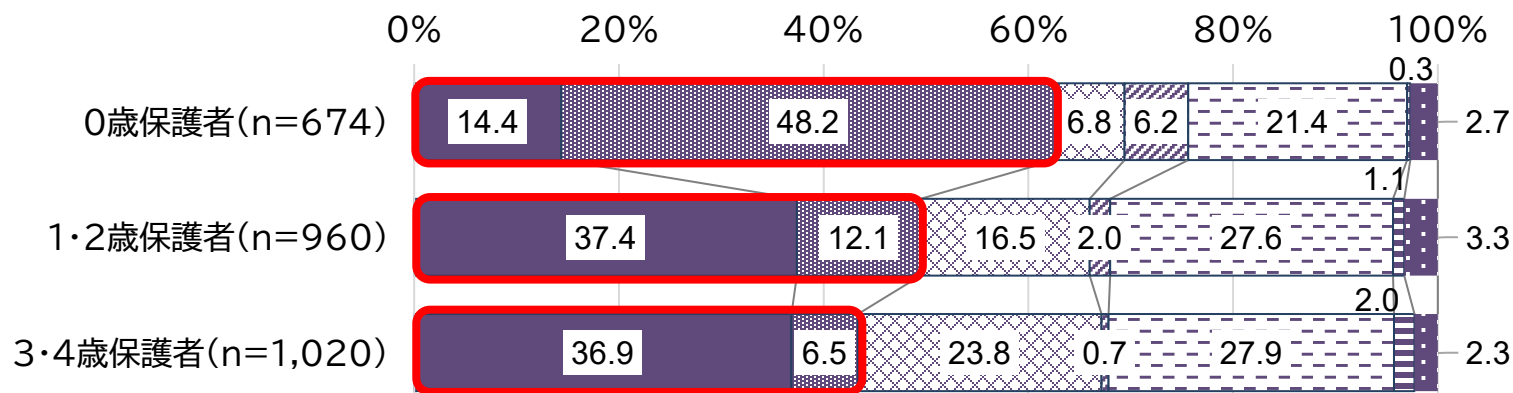
調査結果の概要

- 未就学児では子どもの年齢が低いほどフルタイムで働く母親の割合が高い。困窮層に該当する世帯は常勤・正規職員で働く父母の割合が低く、平日日中以外の勤務がある割合が高い。
- 暮らしが苦しいと回答した割合は、5歳児保護者の2割強、小学5年生保護者が2割強、中学2年生保護者が約3割。生活満足度が低い層、ひとり親世帯（2世代同居）、困窮層に該当する保護者は、暮らしが苦しいと回答した割合が相対的に高い。
- 急な出費のための貯金がない割合は、5歳児保護者の約7%、小学5年生保護者の約5%、中学2年生保護者の約7%。
- 困窮層に該当する世帯には、介護・介助が必要な家族のいる割合が相対的に高い。

2-① 世帯の生活状況



母親の就労状況（未就学児ニーズ調査Q9・年齢階層別）



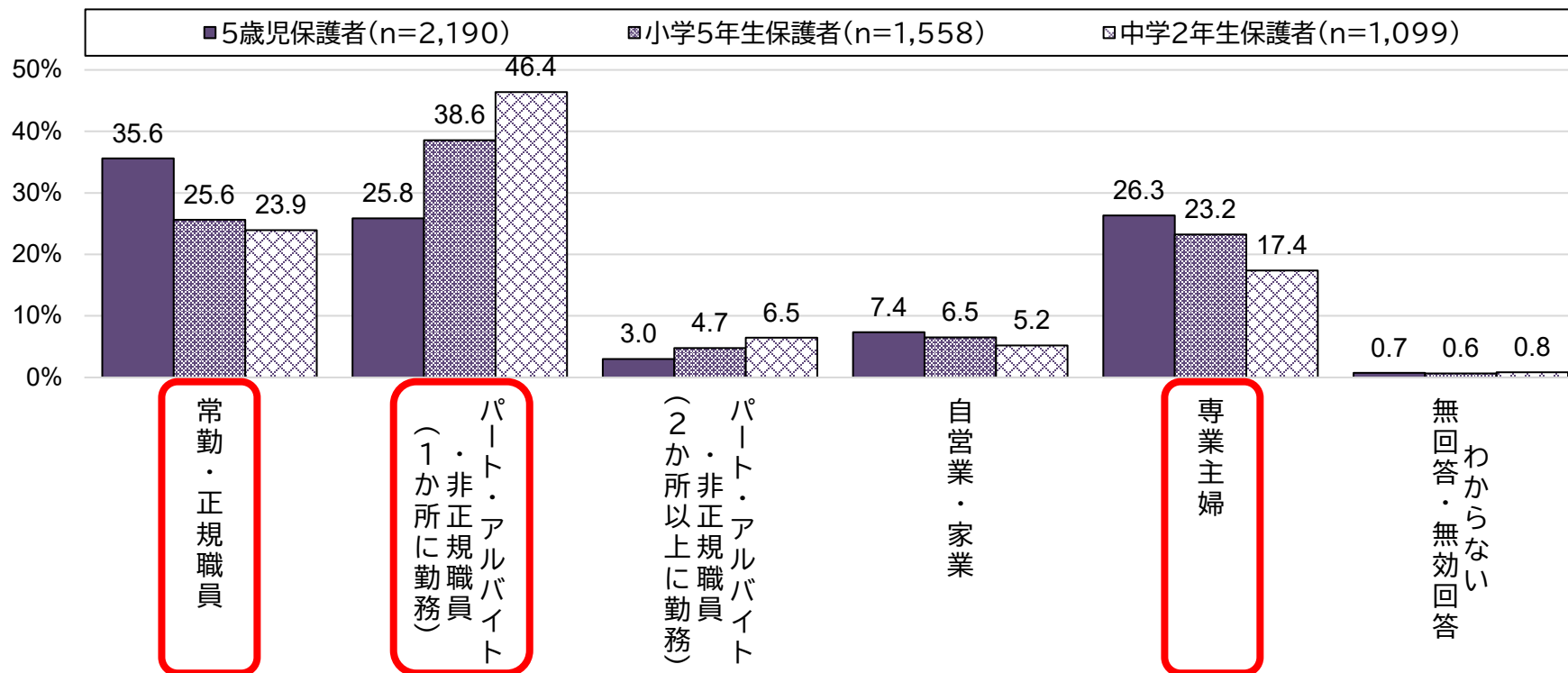
- フルタイム(週5日・1日8時間程度)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- フルタイム(週5日・1日8時間程度)で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- ▣ パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▣ パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答・無効回答

- 0歳児の母親の6割強、1・2歳児の保護者の約5割、3・4歳児の母親の4割強がフルタイム（週5日・1日8時間程度）の就労形態と回答

2-① 世帯の生活状況



母親の就労状況（5歳・小中保Q4）

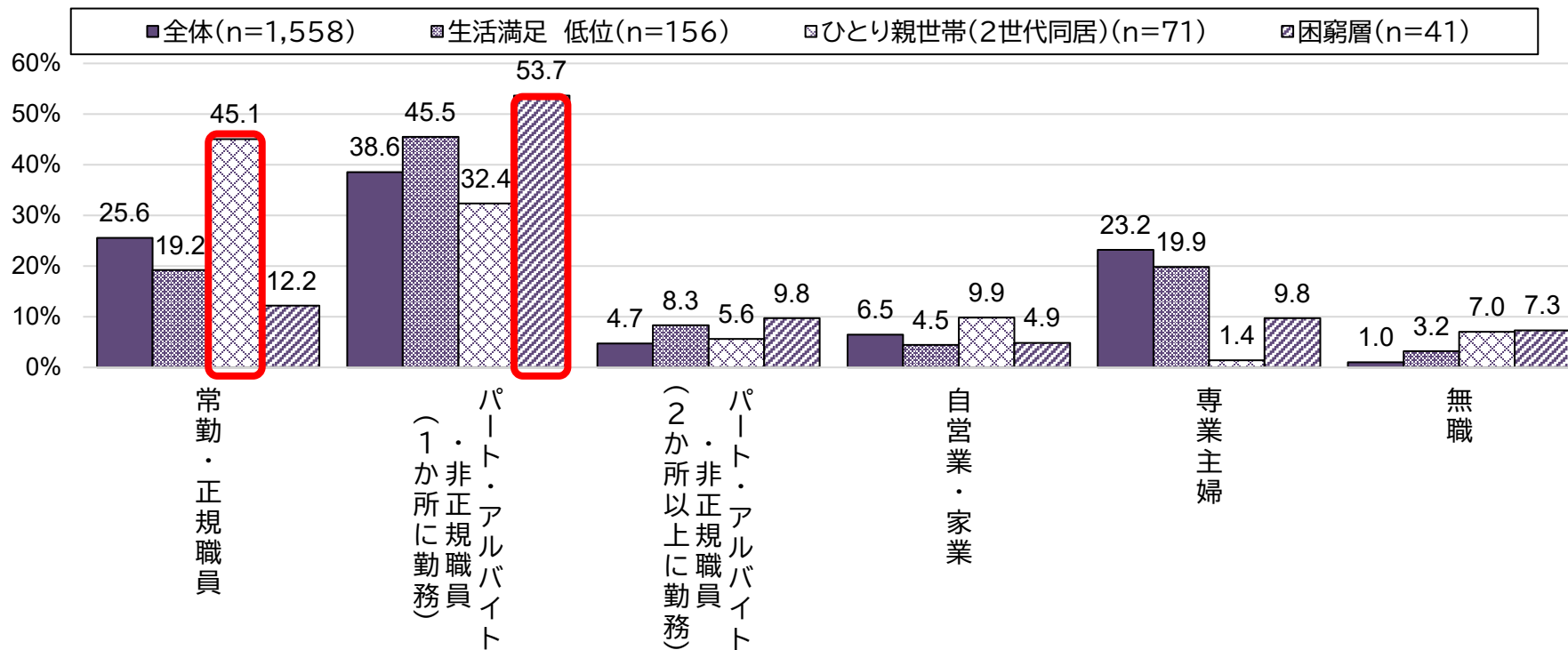


- 子どもの年齢層が高くなるほど、常勤・正規職員、専業主婦の割合が低くなり、パート・アルバイト・非正規職員の割合が高くなっている

2-① 世帯の生活状況



母親の就労状況（小5保Q4）

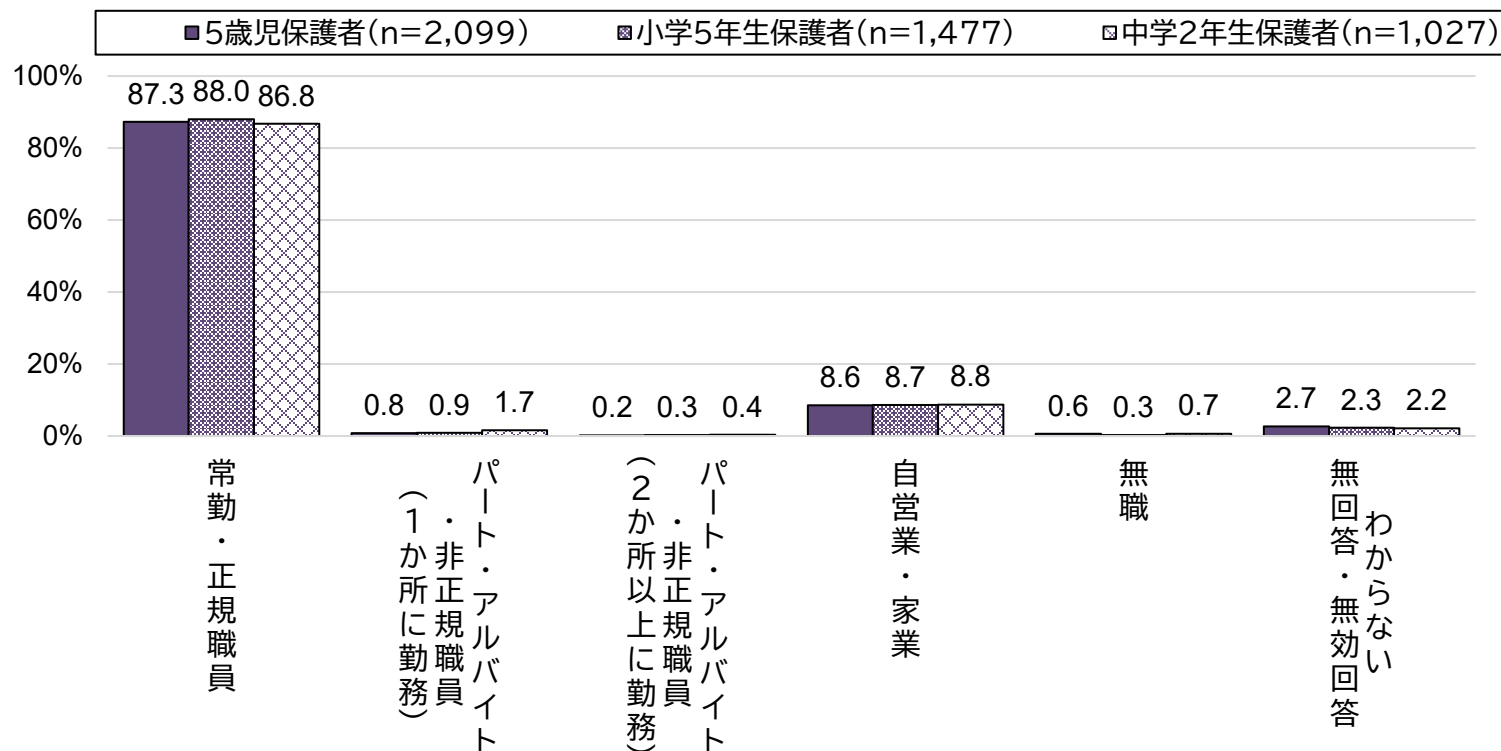


- 困窮層に該当する母親はパートまたはアルバイトなど非正規就労の割合が高い
- ひとり親世帯（2世帯同居）の母親は常勤・正規職員の割合が高い

2-① 世帯の生活状況



父親の就労状況（5歳・小中保Q5）

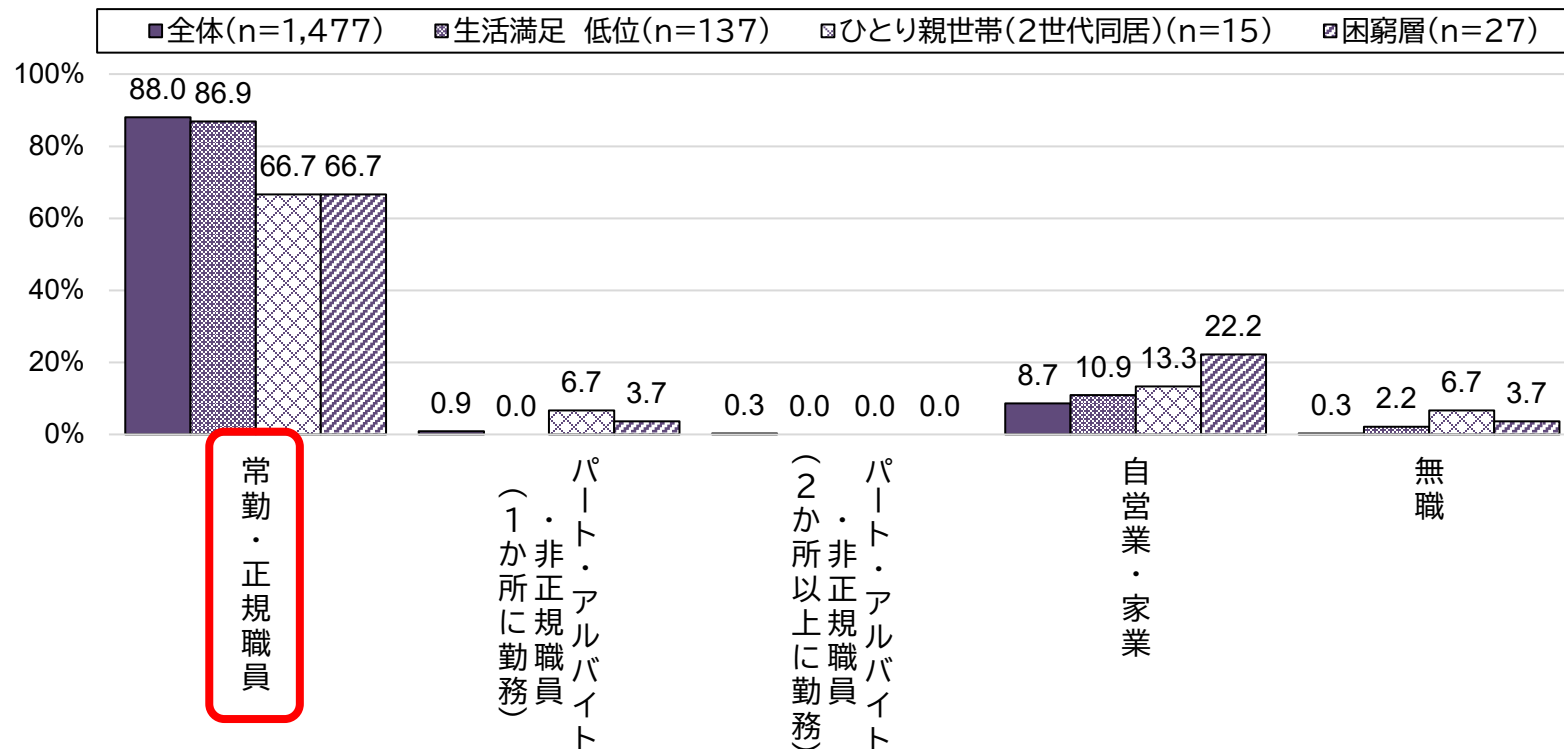


- 子どもの年齢層に関わらず、父親が常勤・正規職員で働いている割合は9割弱

2-① 世帯の生活状況



父親の就労状況（小5保Q5）

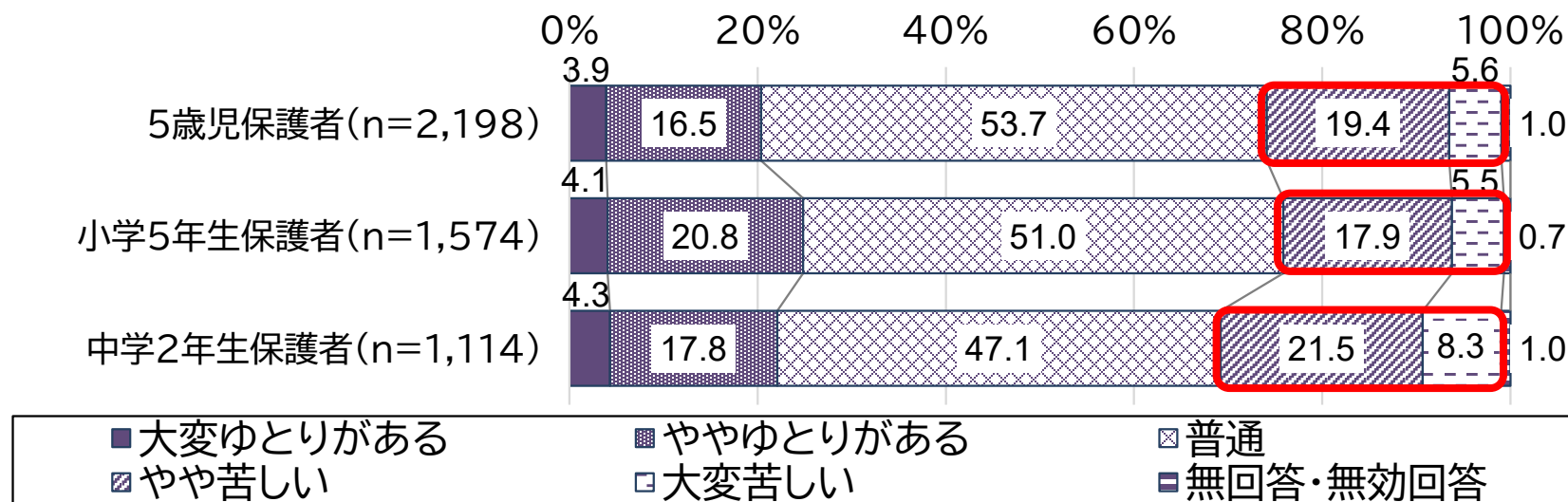


- ひとり親世帯（2世代同居）と困窮層に該当する父親は、常勤・正規職員である割合が7割弱で全体と比較して低い傾向

2-① 世帯の生活状況



現在の暮らしの状況（5歳保Q26・小中保Q20）

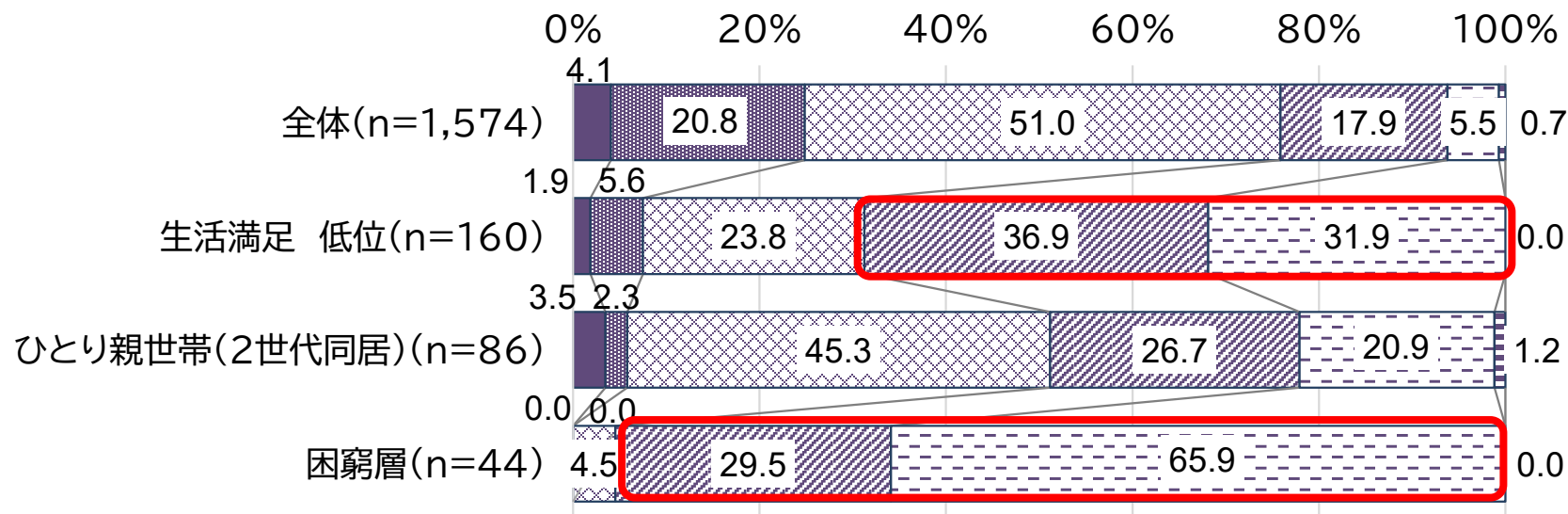


- 現在の暮らしを「大変苦しい」「やや苦しい」と回答した割合は、5歳児保護者、小学5年生保護者が2割強、中学2年生保護者が約3割

2-① 世帯の生活状況



現在の暮らしの状況 (小5保Q20)

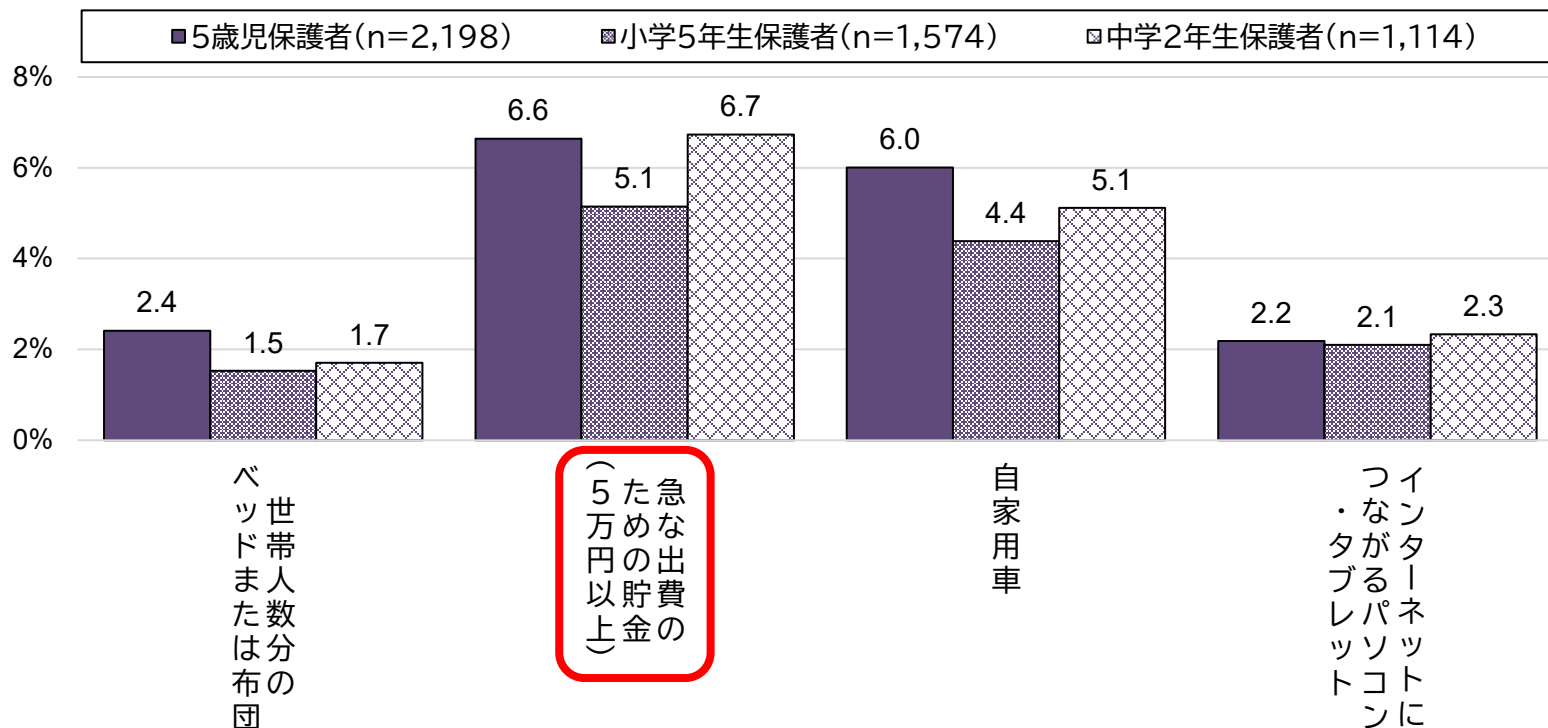


- 小学5年生世帯で、現在の暮らしを「大変苦しい」「やや苦しい」と回答した割合は、困窮層が9割強、生活満足度の低い世帯が約7割

2-① 世帯の生活状況



経済的な理由のために世帯にないもの（5歳Q17・小中保Q11）

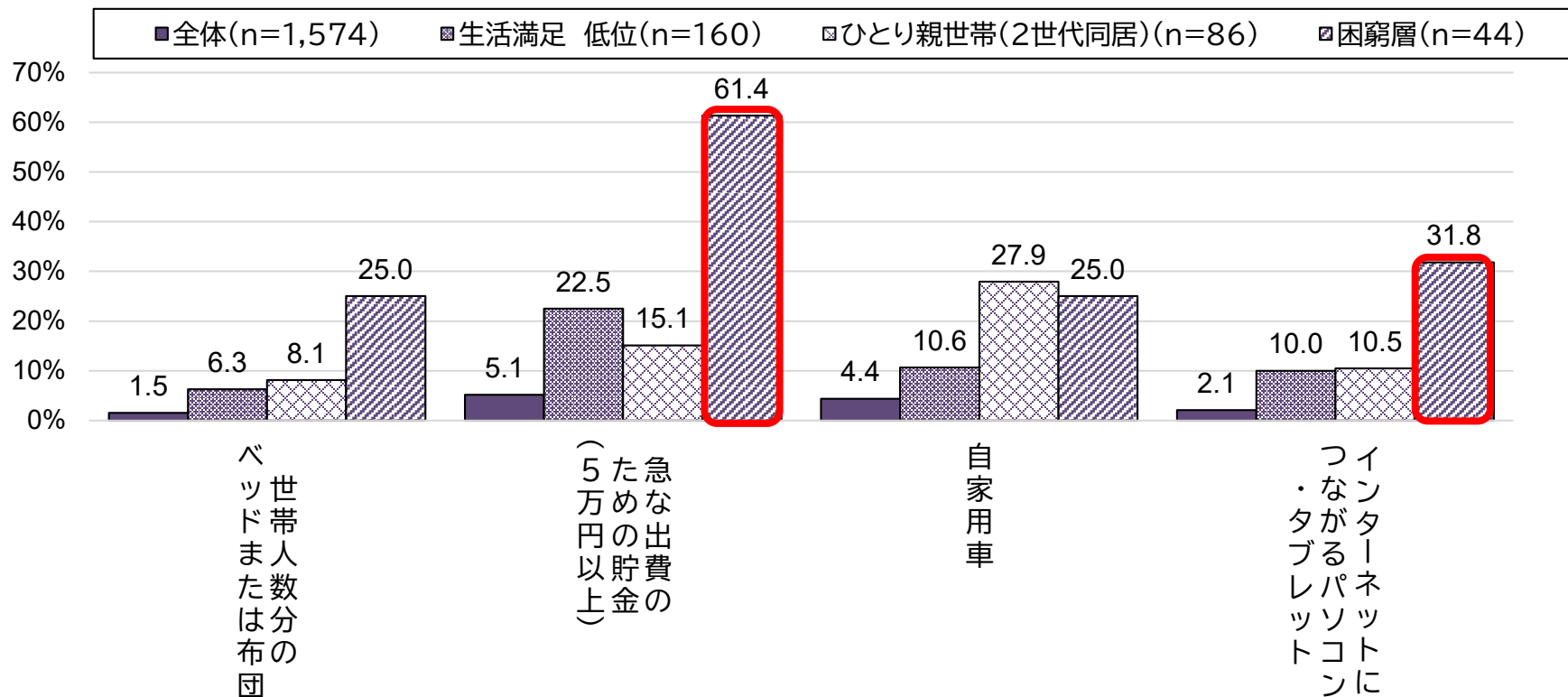


- 5歳児保護者の6.6%、小学5年生保護者の5.1%、中学2年生保護者の6.7%は、急な出費のための貯金（5万円以上）がないと回答

2-① 世帯の生活状況



経済的な理由のために世帯にないもの（小5保Q11）

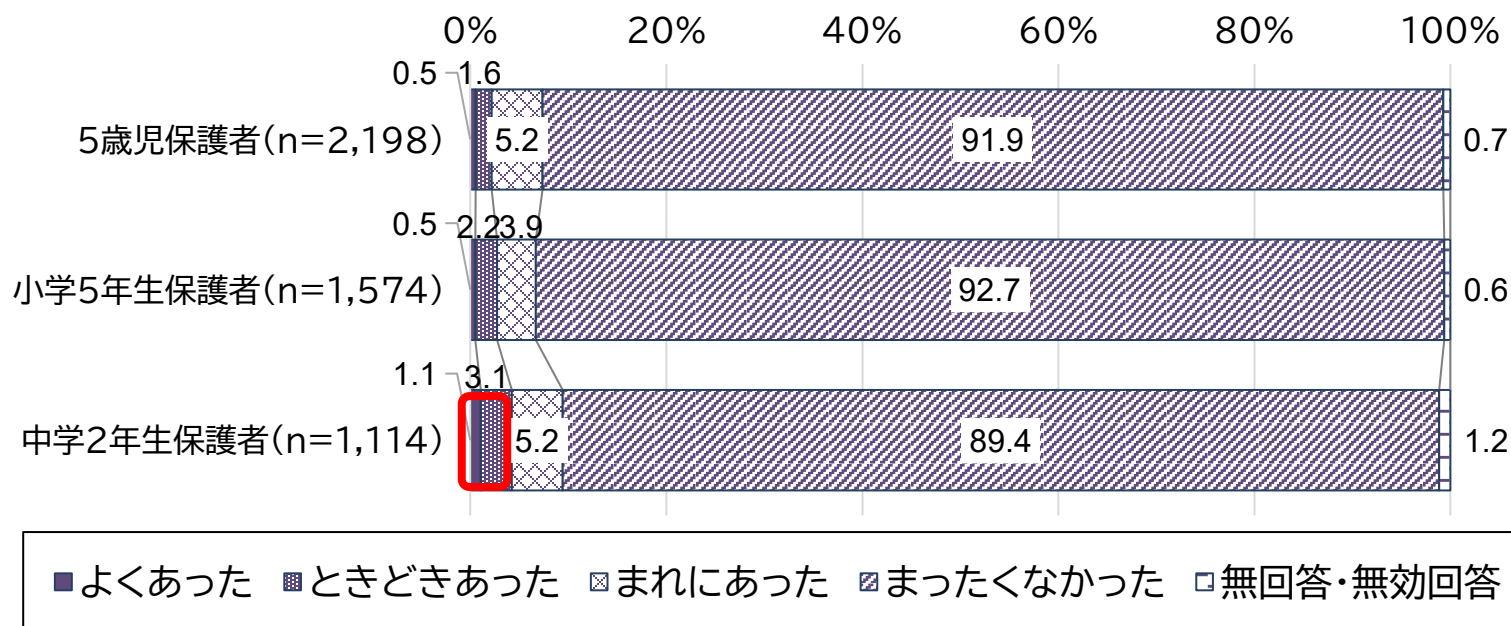


- 困窮層に該当する小学5年生保護者の61.4%が急な出費のための貯金（5万円以上）、31.8%がインターネットにつながるパソコン・タブレットがないと回答

2-① 世帯の生活状況



必要とする食料を買えない経験（過去1年 5歳Q28・小中保Q22）

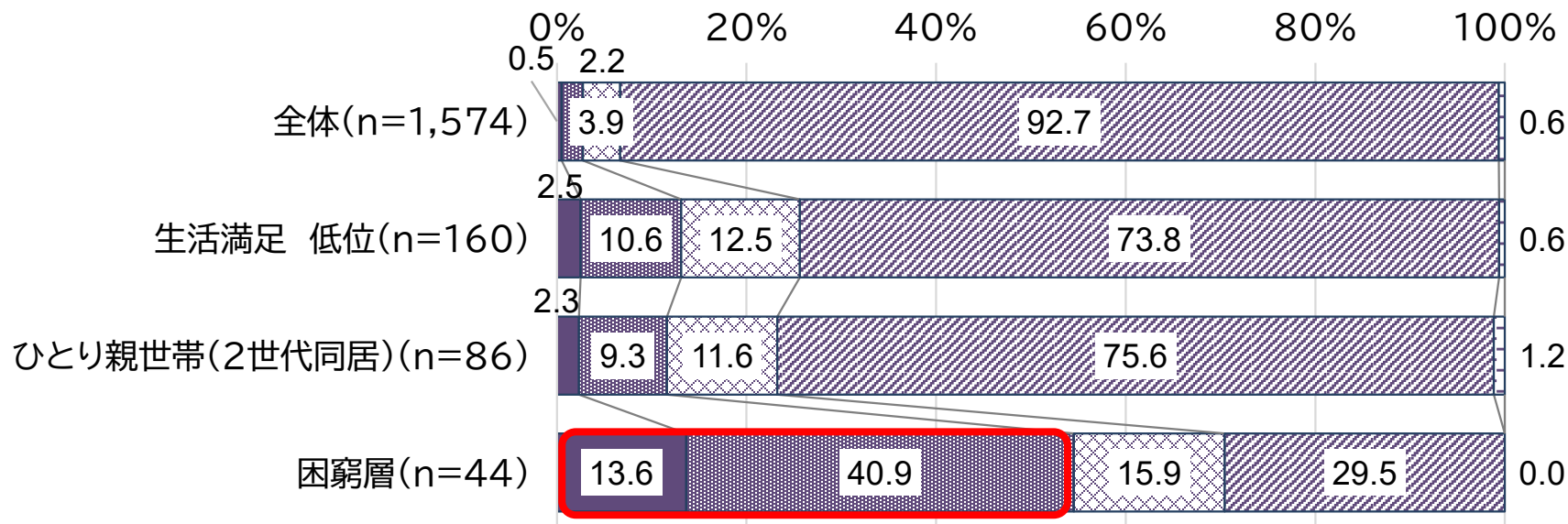


- 中学2年生保護者の約4%が、家族が必要とする食料を買えない経験が「よくあった」「ときどきあった」と回答

2-① 世帯の生活状況



必要とする食料を買えない経験（過去1年・小5保Q22）



よくあった
 ときどきあった
 まれにあった
 まったくなかった
 無回答・無効回答

- 困窮層に該当する小学5年生保護者の5割強が、家族が必要とする食料を買えない経験が「よくあった」「ときどきあった」と回答

2-② 保護者の悩み事・相談相手

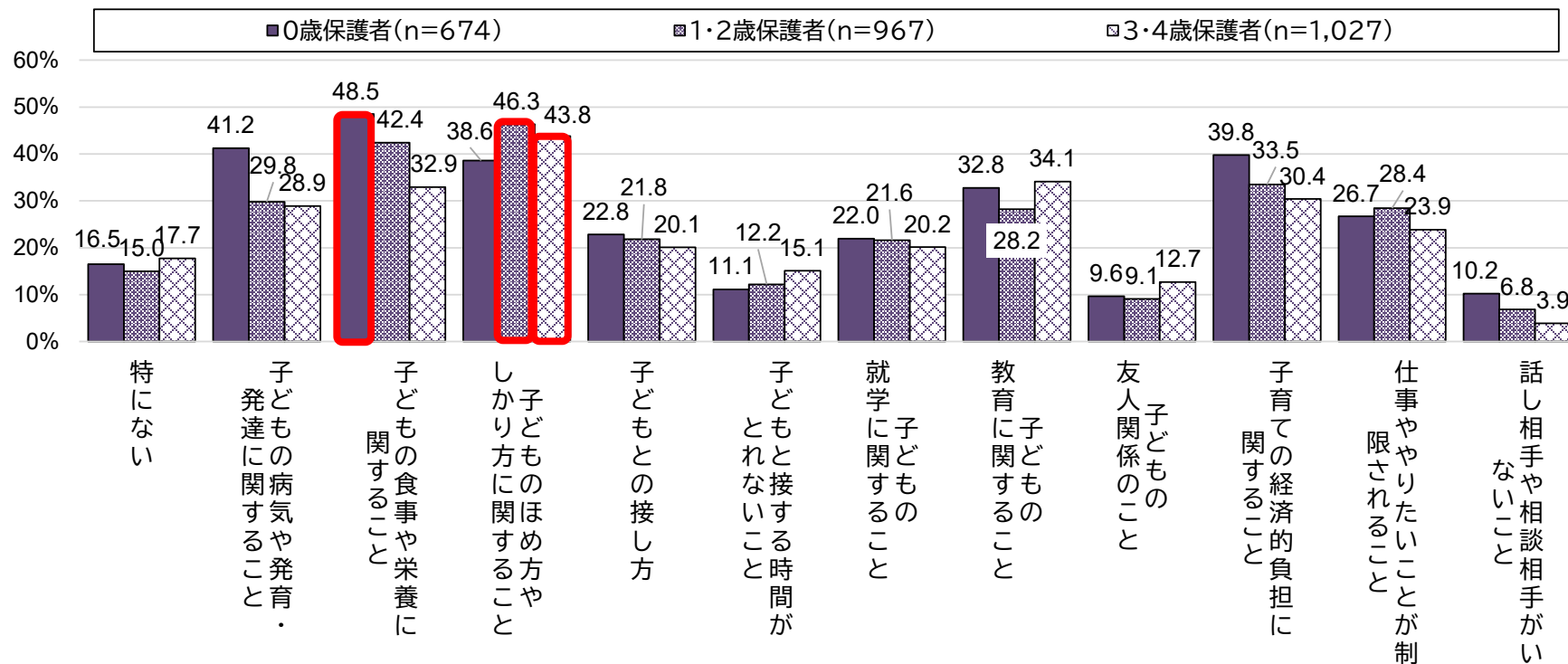
調査結果の概要

- 子育ての悩みごととして、0歳児の保護者は子どもの食事や栄養、1・2歳児、3・4歳児の保護者は子どものほめ方やしかり方が最も多い。5歳児の保護者は子どもの教育費、小学5年生・中学2年生の保護者は子どもの進学や受験が最も多い。
- 生活満足度が低い保護者は、子どもの勉強、進学や受験、非行や問題行動、不登校についての悩みごとの回答割合が全体と比較して高い。「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」割合についても相対的に高い。
- 生活満足度が低い層、ひとり親世帯（2世代同居）、困窮層に該当する保護者は、いざという時のお金の援助や子どもとの関わりの助言等、頼れる人や支えてくれる人がいないと回答した割合が相対的に高い。

2-② 保護者の悩み事・相談相手



子育ての悩みごと（未就学児ニーズ調査Q28）

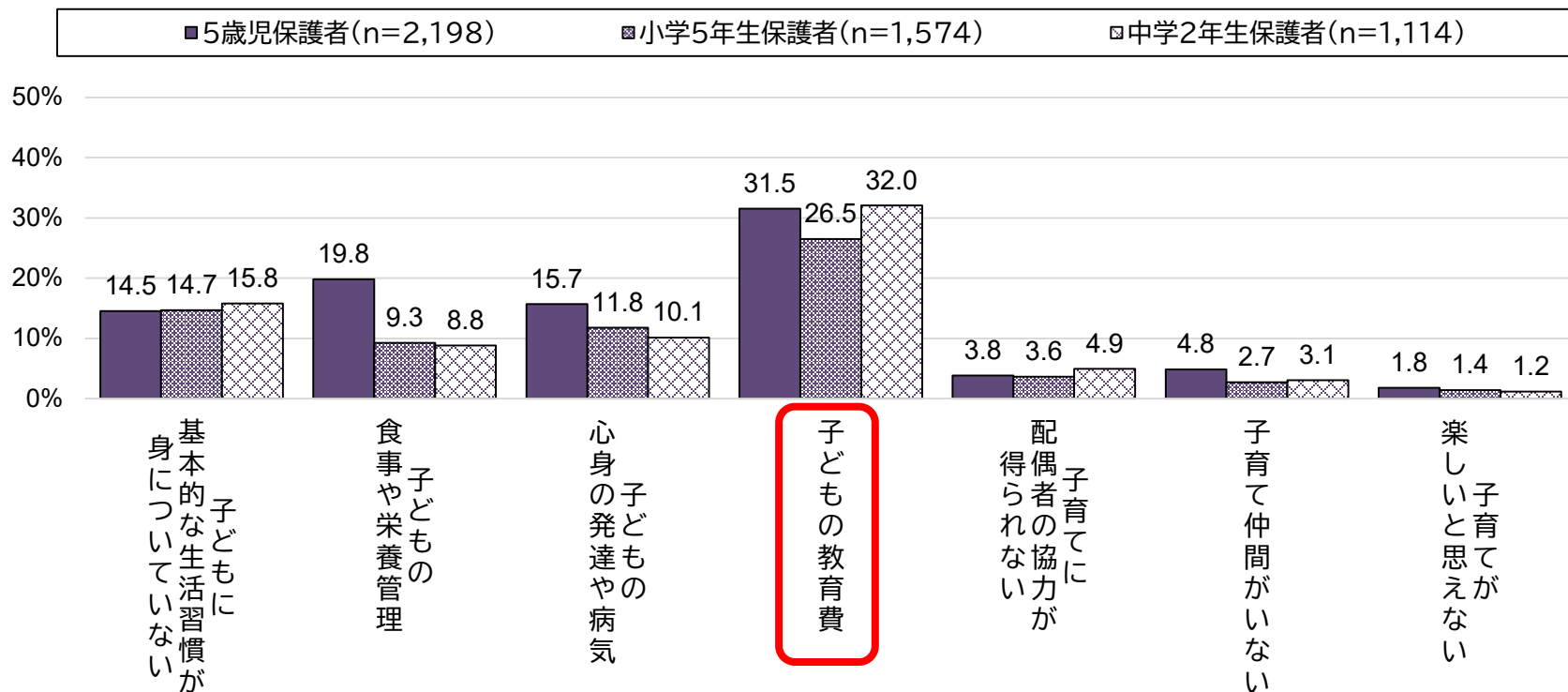


- 子育ての悩みごととして、0歳児保護者は子どもの食事や栄養、1・2歳児、3・4歳児保護者は子どものほめ方やしかり方を最も多く回答

2-② 保護者の悩み事・相談相手



子育ての悩みごと（5歳Q19・小中保Q13）

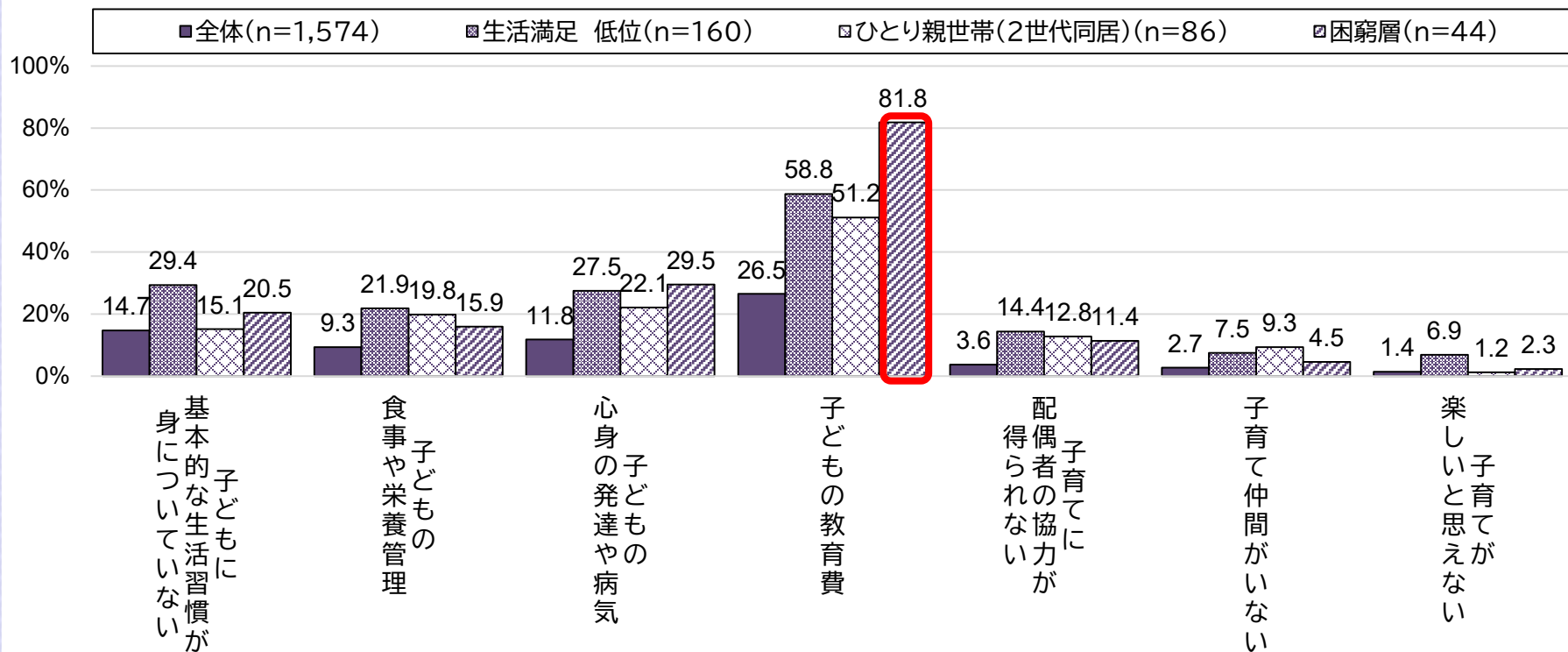


- 5歳児保護者の31.5%、小学5年生保護者の26.5%、中学2年生保護者の32.0%は、子どもの教育費が悩みごとと回答

2-② 保護者の悩み事・相談相手



子育ての悩みごと（小5保Q13）

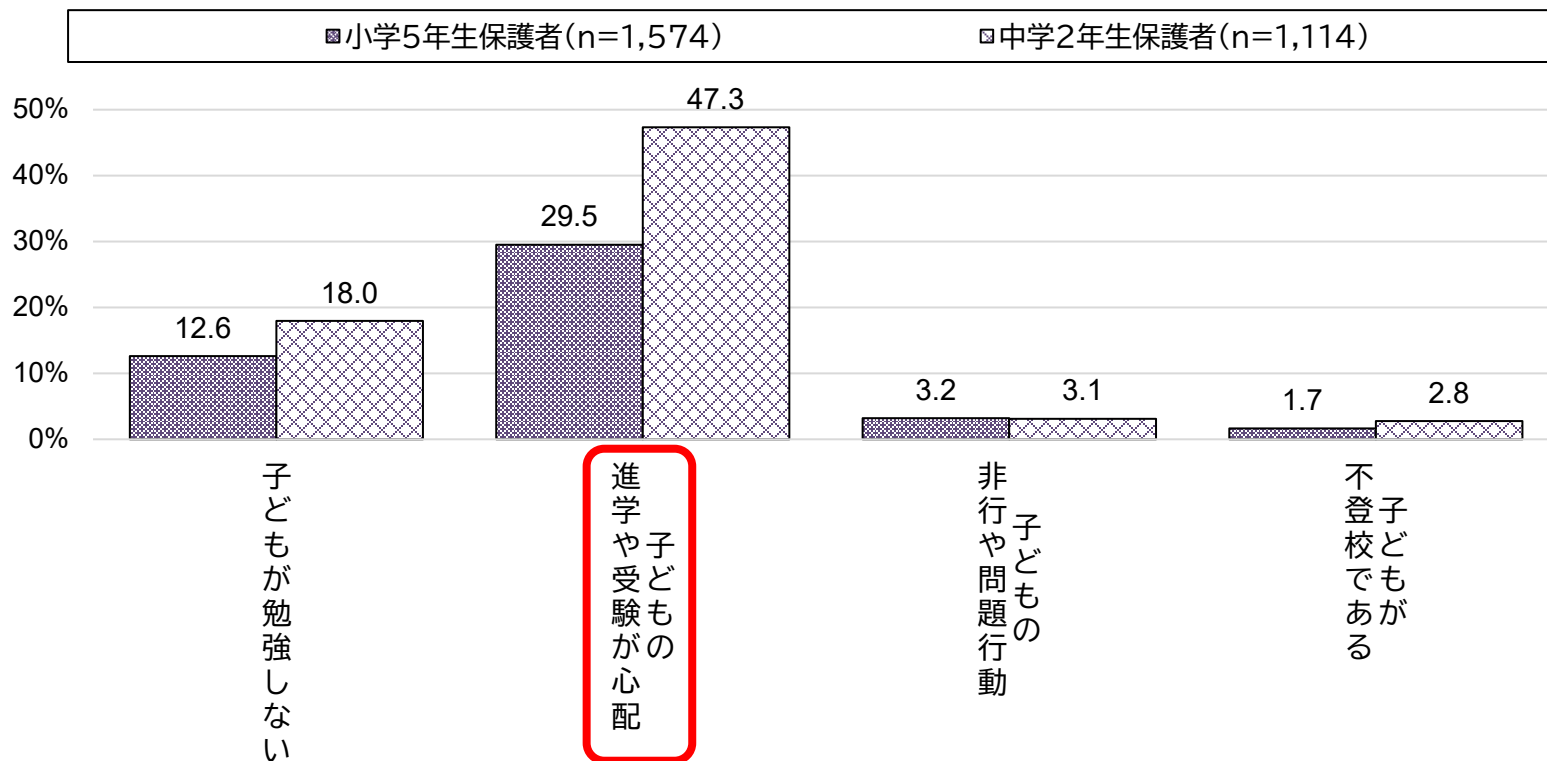


- 困窮層に該当する小学5年生の保護者の81.8%が、子どもの教育費が心配ごと、悩みごとと回答。

2-② 保護者の悩み事・相談相手



子育ての悩みごと（小中保Q13のみの項目）

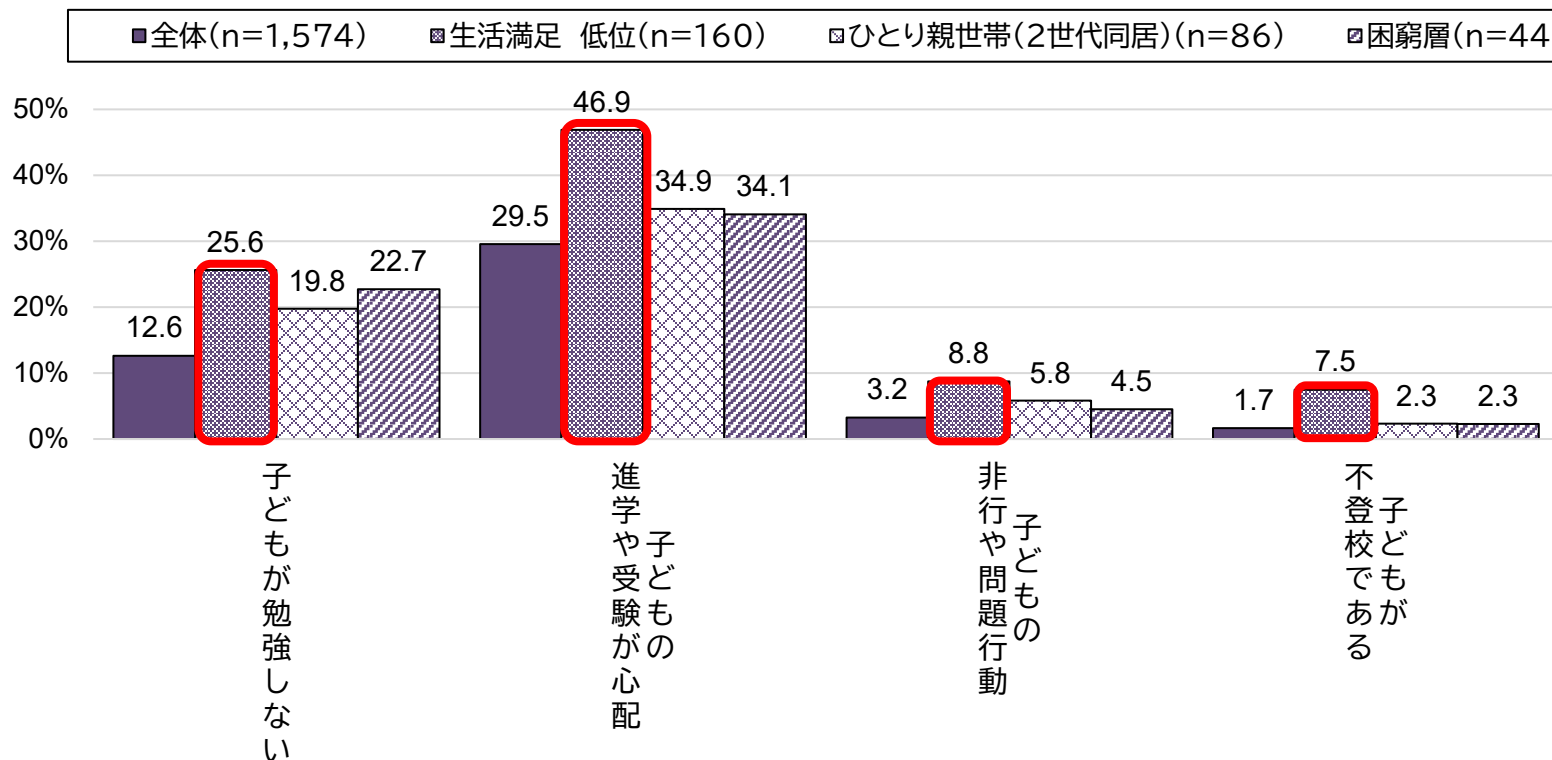


- 小学5年生保護者の29.5%、中学2年生保護者の47.3%が、子どもの進学や受験が心配と回答。

2-② 保護者の悩み事・相談相手



子育ての悩みごと (小5保Q13)

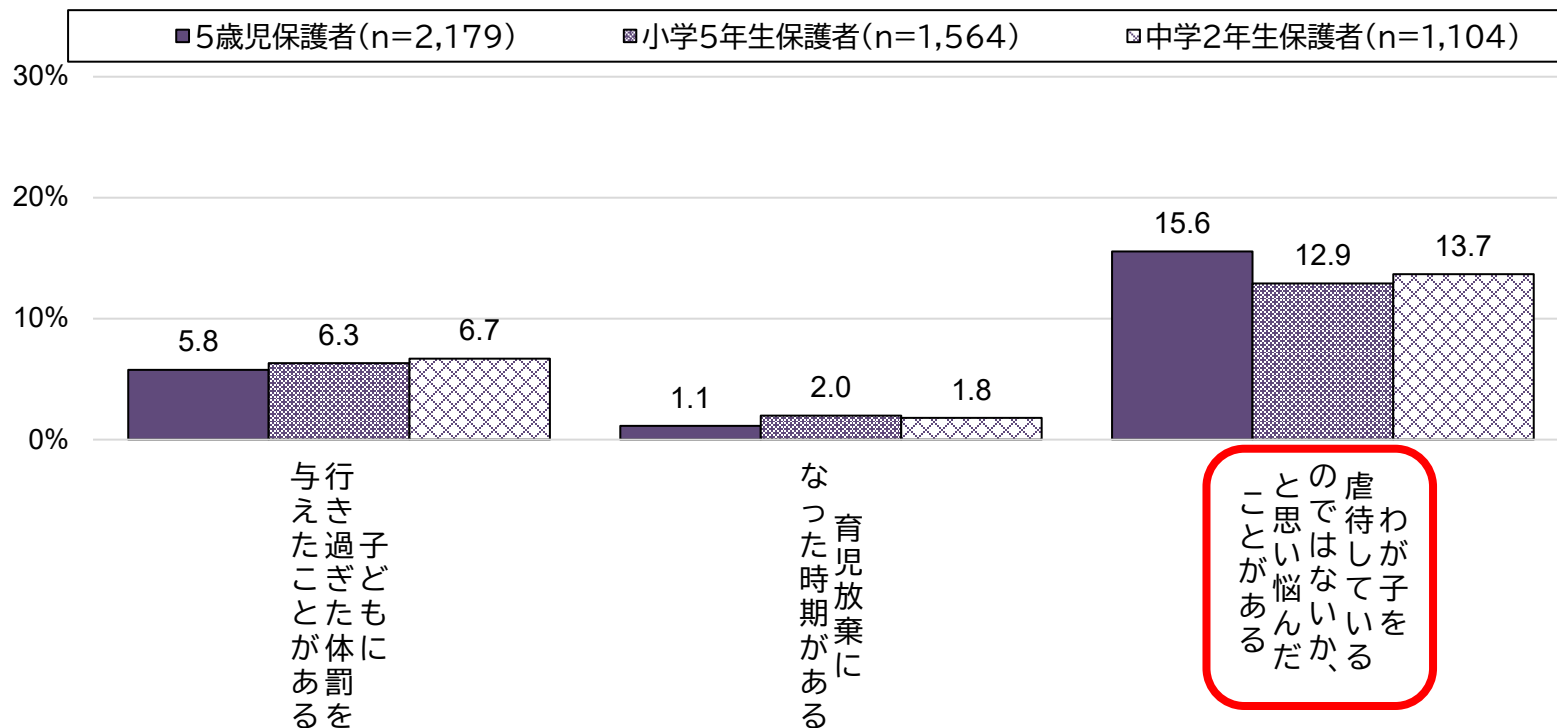


- 生活満足度が低い小学5年生保護者は、子どもの勉強、進学や受験、非行や問題行動、不登校についての悩みごとの回答割合が全体と比較して高い

2-② 保護者の悩み事・相談相手



子どもへの体罰、育児放棄、虐待の悩み(5歳Q35・小中保Q29)

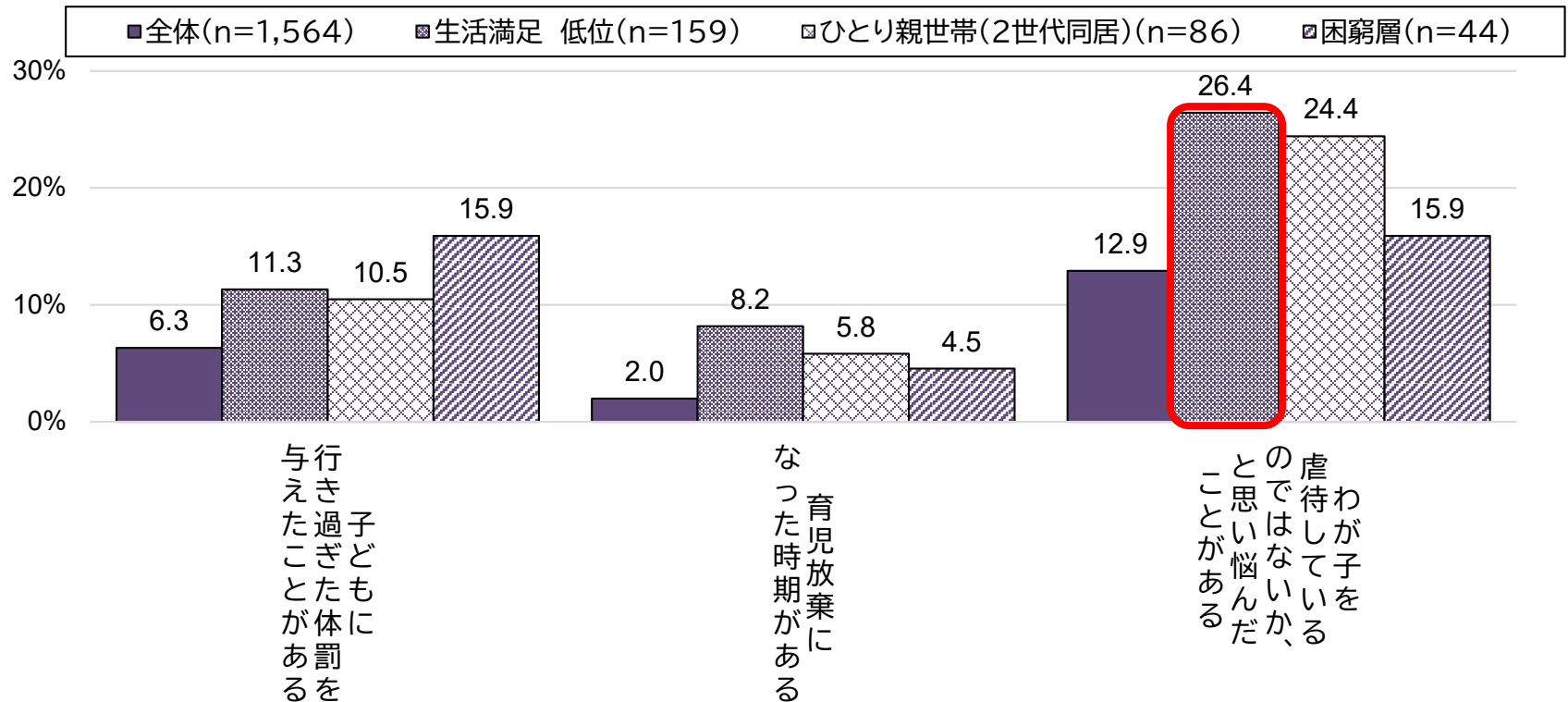


- 各年齢層の保護者の1割以上が、わが子を虐待しているのではないかと思
い悩んだことがあると回答

2-② 保護者の悩み事・相談相手



子どもへの体罰、育児放棄、虐待の悩み (小5保Q29)

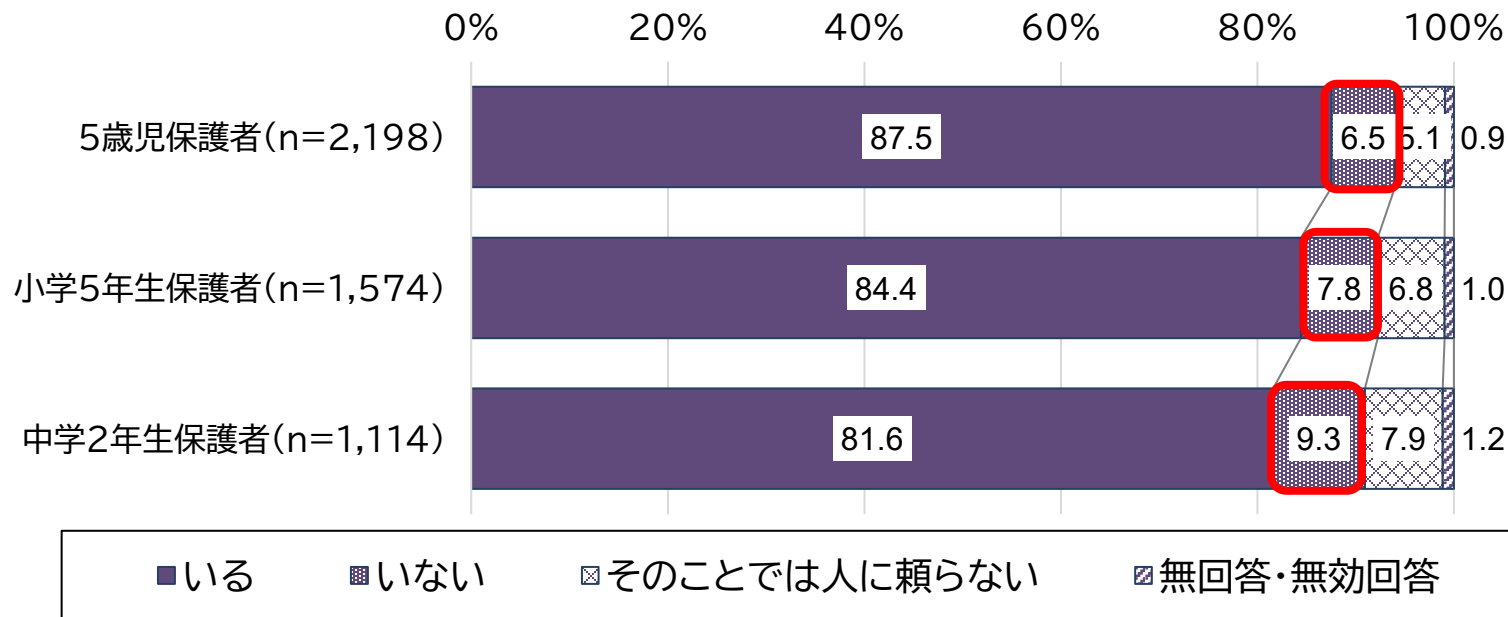


- 生活満足度が低い小学5年生保護者の26.4%が、わが子を虐待しているのではないかと悩んだことがあると回答

2-② 保護者の悩み事・相談相手



子育てに適切な助言をしてくれる人(5歳Q24B・小中保Q17B)

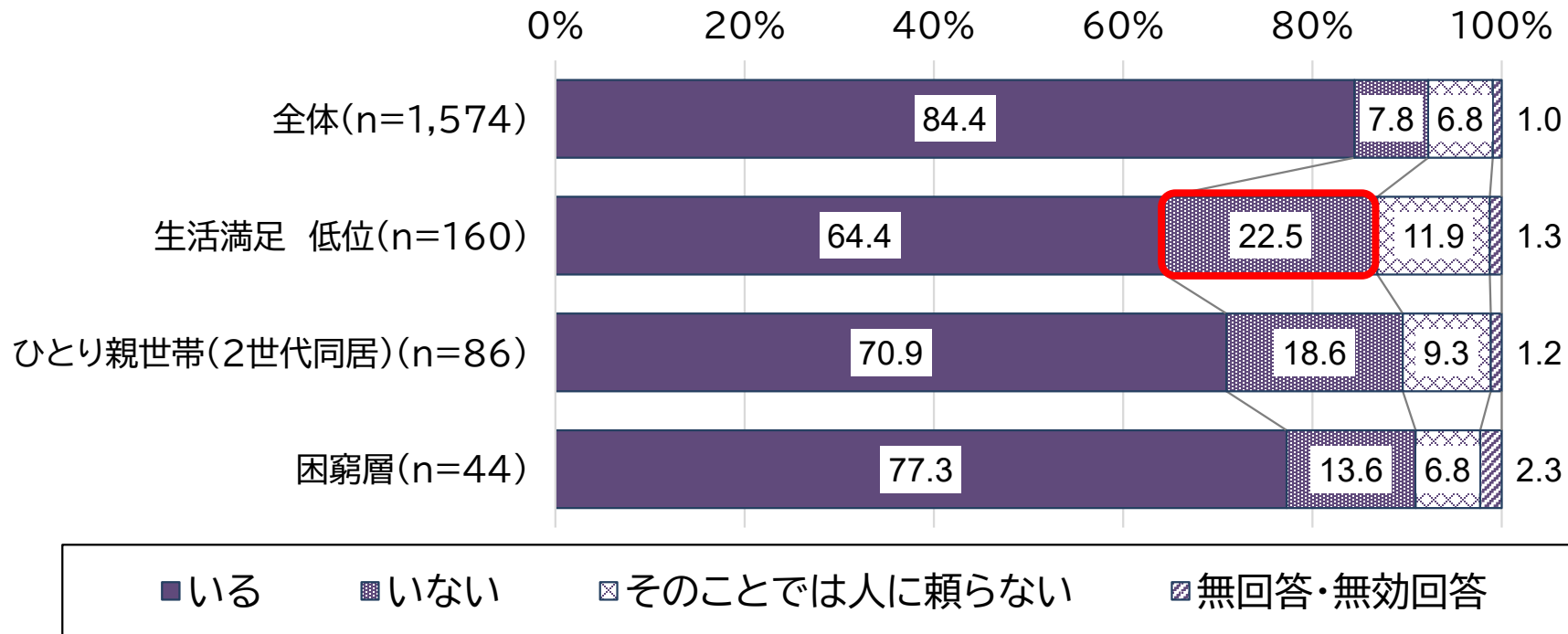


- 5歳児保護者の6.5%、小学5年生保護者の7.8%、中学2年生保護者9.3%は、子育てに適切な助言をしてくれる人がいないと回答

2-② 保護者の悩み事・相談相手



子育てに適切な助言をしてくれる人 (小5保Q17B)

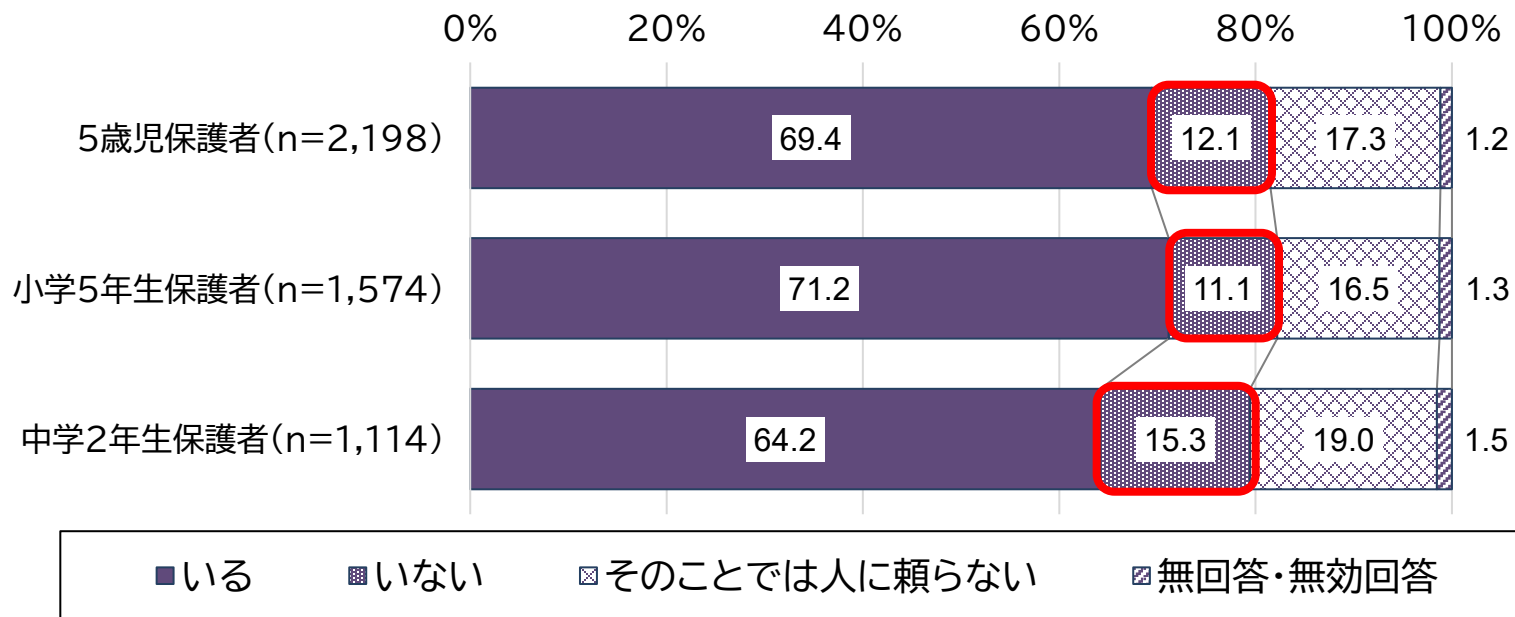


- 生活満足度が低い小学5年生保護者の22.5%が、子育てに適切な助言をしてくれる人がいないと回答

2-② 保護者の悩み事・相談相手



いざという時のお金の援助を頼める人 (5歳Q24F・小中保Q17F)

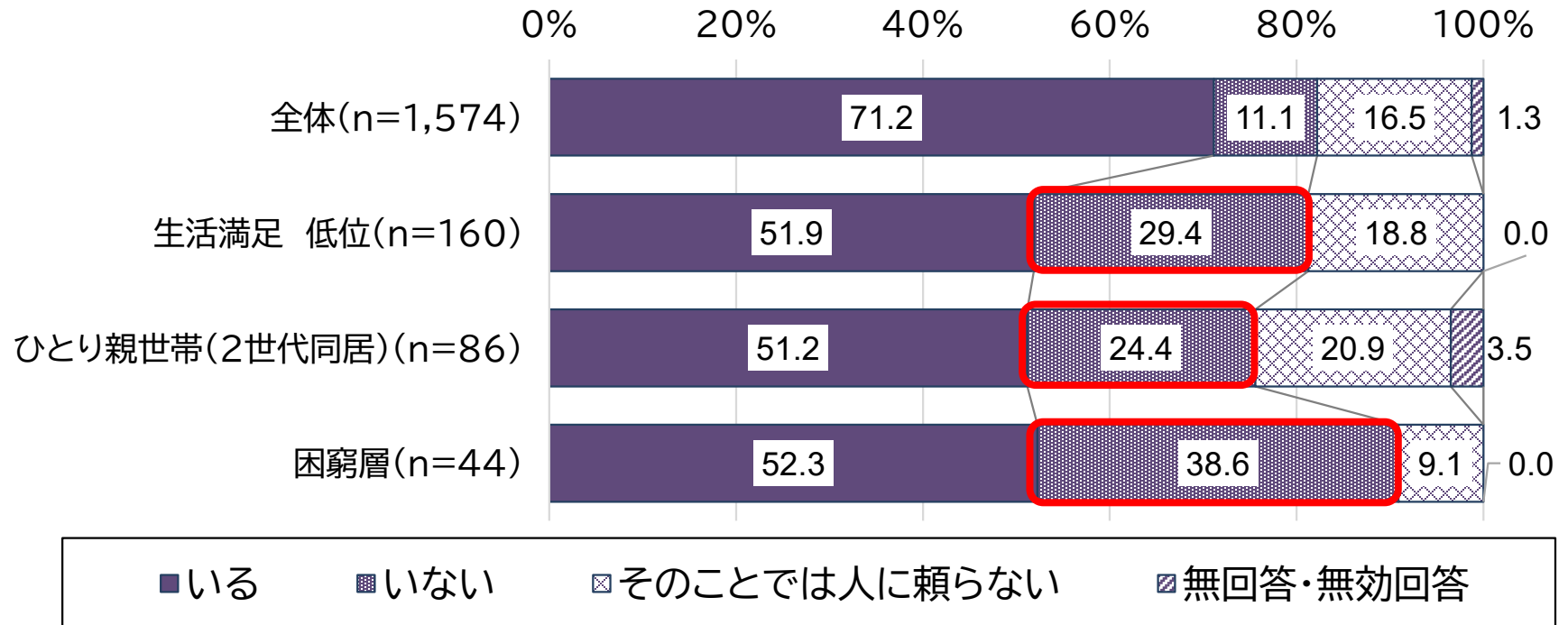


- 5歳児保護者の12.1%、小学5年生保護者の11.1%、中学2年生保護者の15.3%は、いざという時のお金の援助を頼める人がいないと回答

2-② 保護者の悩み事・相談相手



いざという時のお金の援助を頼める人(小5保Q17F)



- 小学5年生保護者のうち生活満足度が低い層の29.4%、ひとり親世帯（2世代同居）の24.4%、困窮層の38.6%はいざという時にお金の援助を頼める人がいないと回答

2-③ 保護者のウェルビーイング

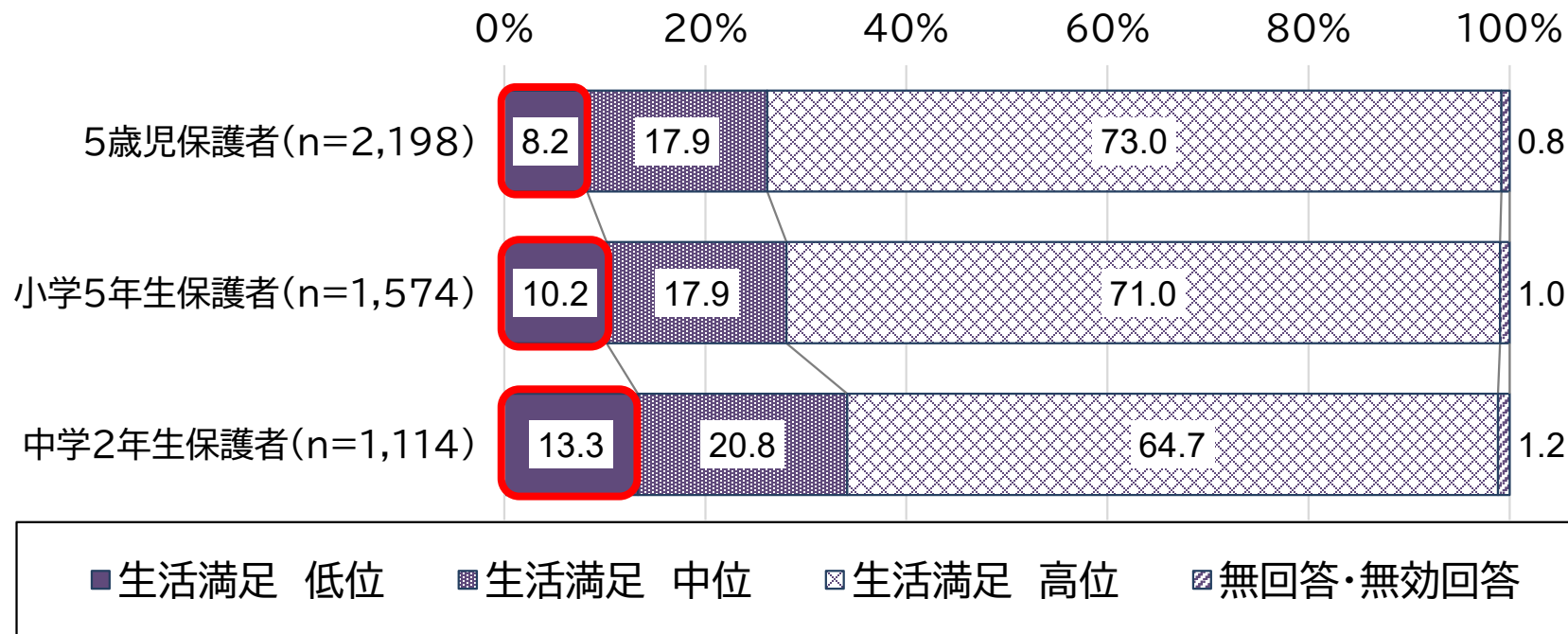
調査結果の概要

- 生活満足度が低い（10点満点中0～4点と回答）割合は、5歳児保護者の約8%、小学5年生保護者の約10%、中学2年生保護者の約13%。
- 健康状態が「よくない」「あまりよくない」割合は、5歳児保護者の約6%、小学5年生保護者の約6%、中学2年生保護者の約9%。
- K6尺度の得点が10点以上（心理的苦痛を感じている）の割合は、5歳児保護者の約11%、小学5年生保護者の約11%、中学2年生保護者の約13%。
- 生活満足度が低い層、ひとり親世帯（2世代同居）、困窮層に該当する保護者は、心理的苦痛を感じている割合、子どもが生まれてから自殺を考えたことがある割合が相対的に高い。

2-③ 保護者のウェルビーイング



生活満足度 (再掲)

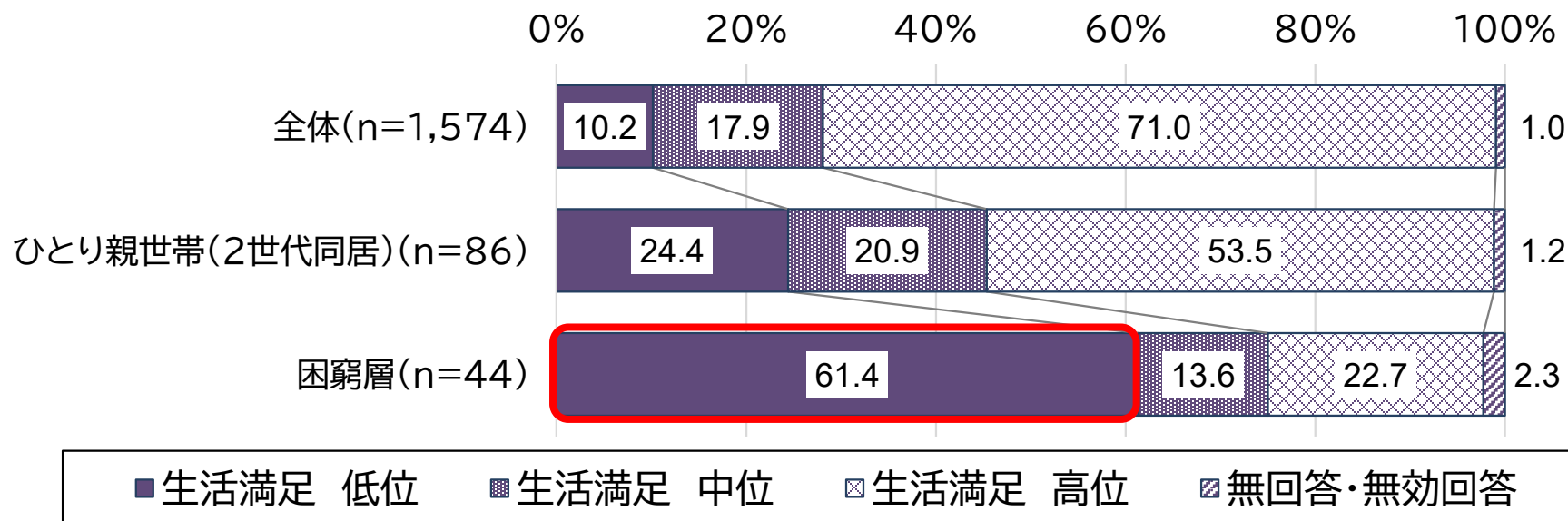


- 生活満足度が低い（10点満点中0～4点と回答）割合は、5歳児保護者の8.2%、小学5年生保護者の10.2%、中学2年生保護者の13.3%

2-③ 保護者のウェルビーイング



生活満足度（小5保Q19）

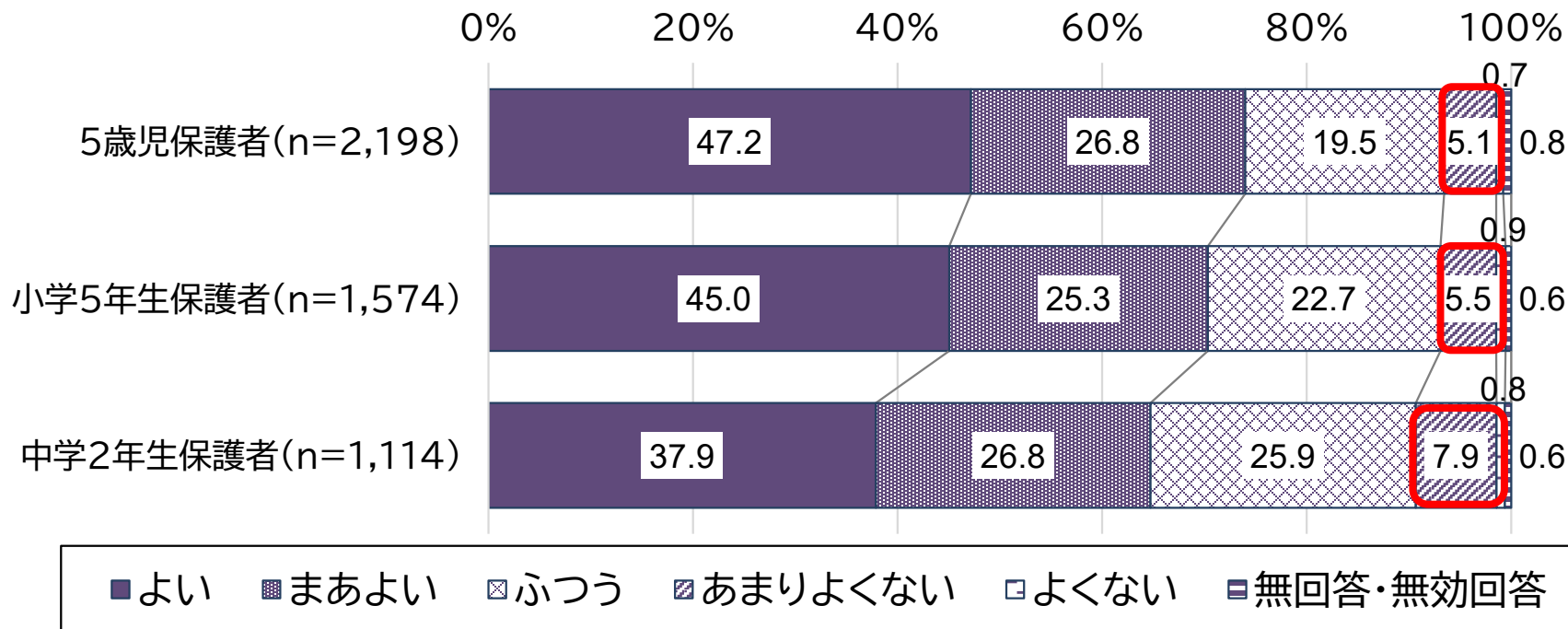


- 困窮層に該当する小学5年生保護者の61.4%は、生活満足度が低い（10点満点中0～4点）

2-③ 保護者のウェルビーイング



健康状態（5歳Q21・小中保Q15）

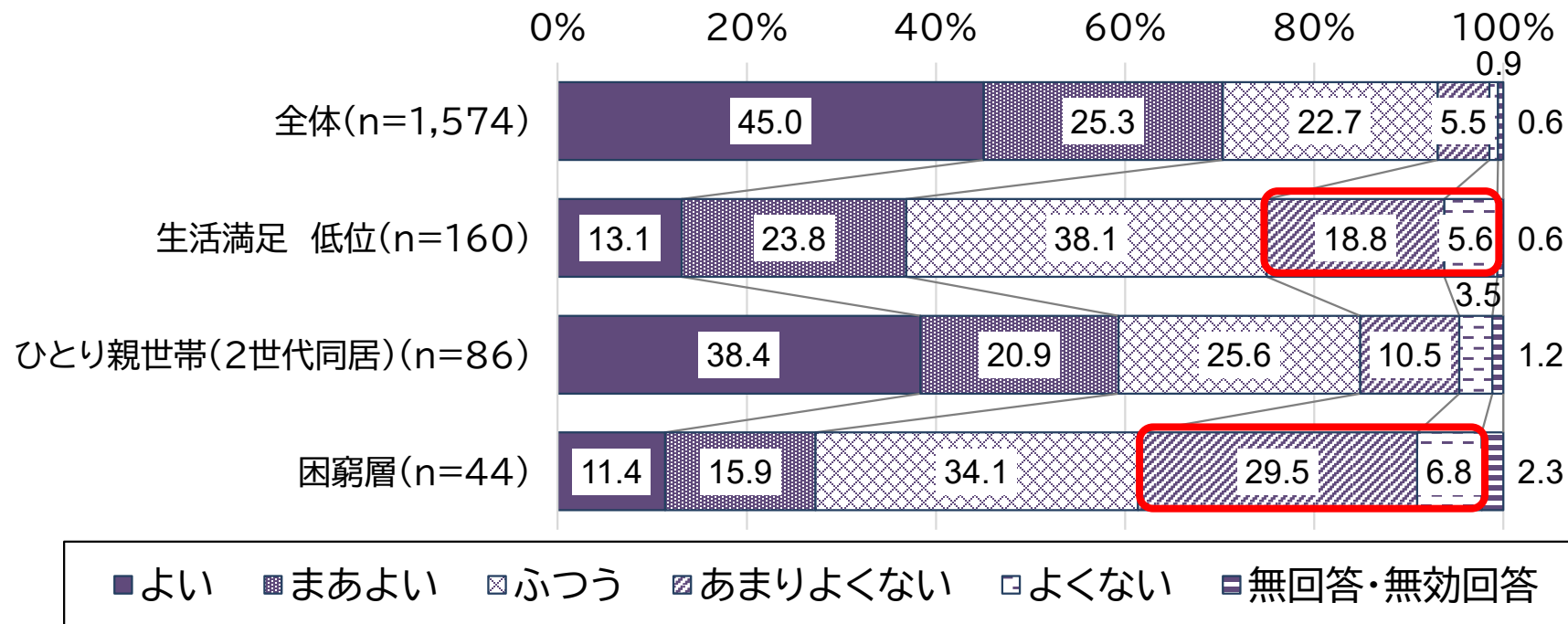


- 5歳児保護者の約6%、小学5年生保護者の約6%、中学2年生保護者の約9%が、健康状態が「よくない」「あまりよくない」と回答

2-③ 保護者のウェルビーイング



健康状態 (小5保Q15)



- 困窮層の保護者の4割弱、生活満足度が低い保護者の2割強が、健康状態が「よくない」「あまりよくない」と回答



用語解説

K 6 (ケーシックス)

- 「こころの状態」には、K 6 という尺度を用いた。K 6 は米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。6つの質問※について5段階点数化し、合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があると考えられている。

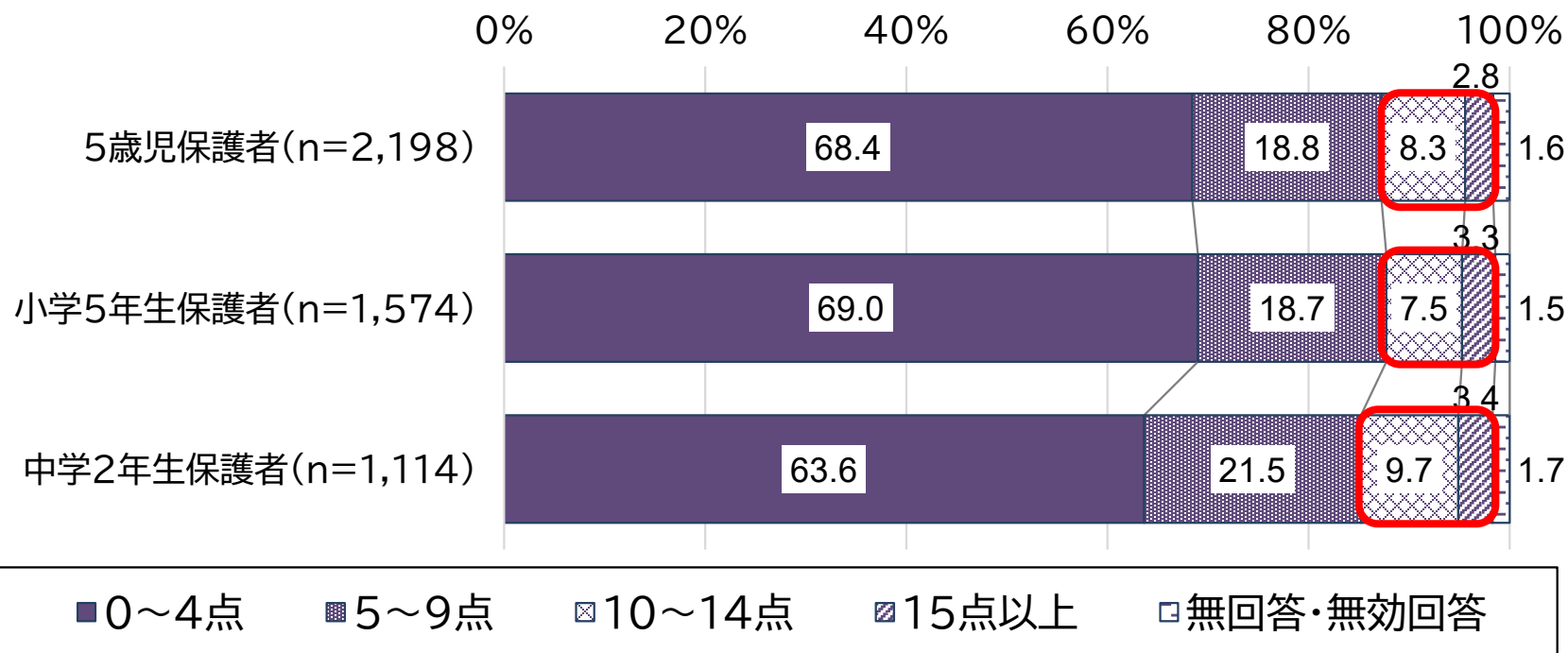
※「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」

(国民生活基礎調査 用語の説明)

2-③ 保護者のウェルビーイング



過去1か月間のこころの状態(K6尺度) (5歳小中保)

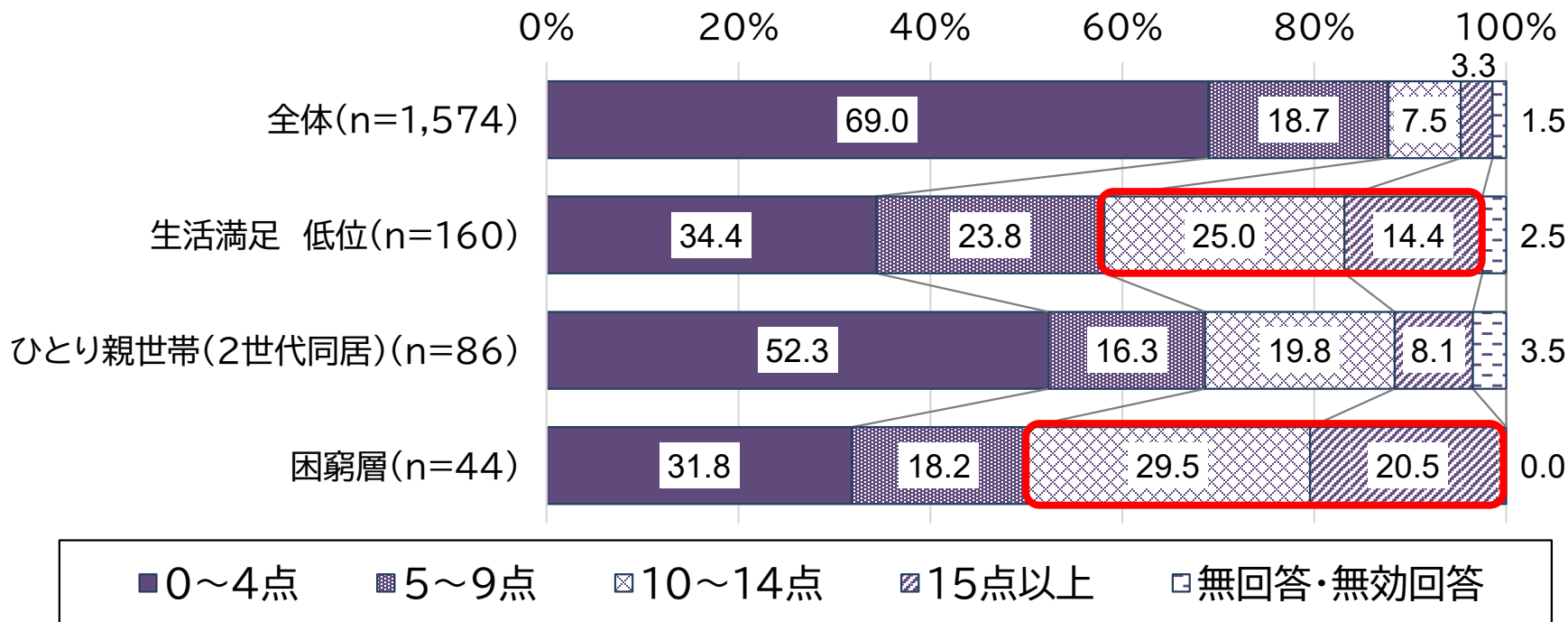


- K6尺度の得点が10点以上（心理的苦痛を感じている）の割合は、5歳児保護者の約11%、小学5年生保護者の約11%、中学2年生保護者の約13%

2-③ 保護者のウェルビーイング



過去1か月間のこころの状態(K6尺度)(小5保)

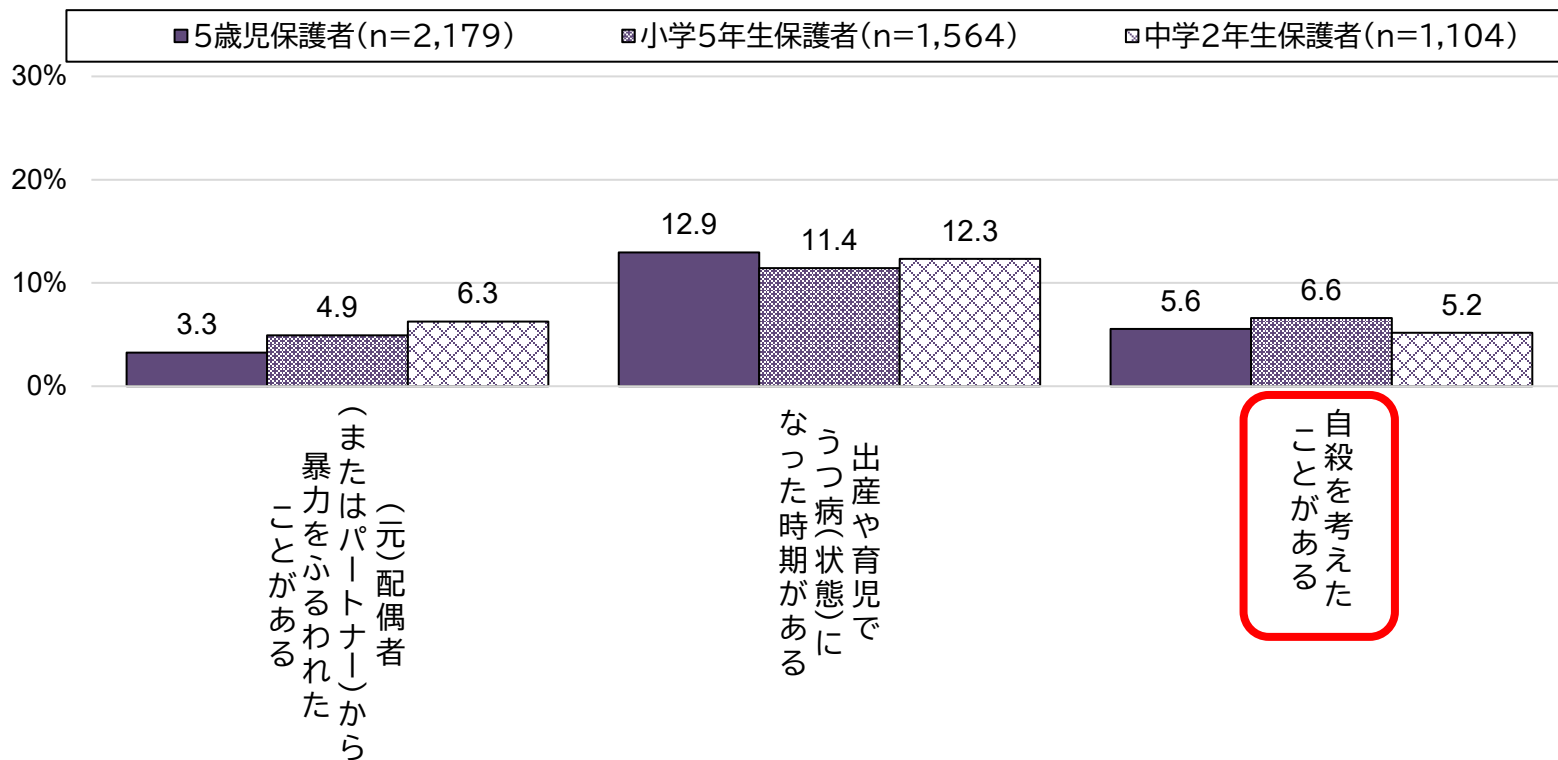


- K6尺度の得点が10点以上（心理的苦痛を感じている）の割合は、困窮層に該当する小学5年生保護者の5割、生活満足度が低い保護者の約4割

2-③ 保護者のウェルビーイング



DV、産後のうつ状態、自殺を考えた経験（5歳Q35・小中保Q29）

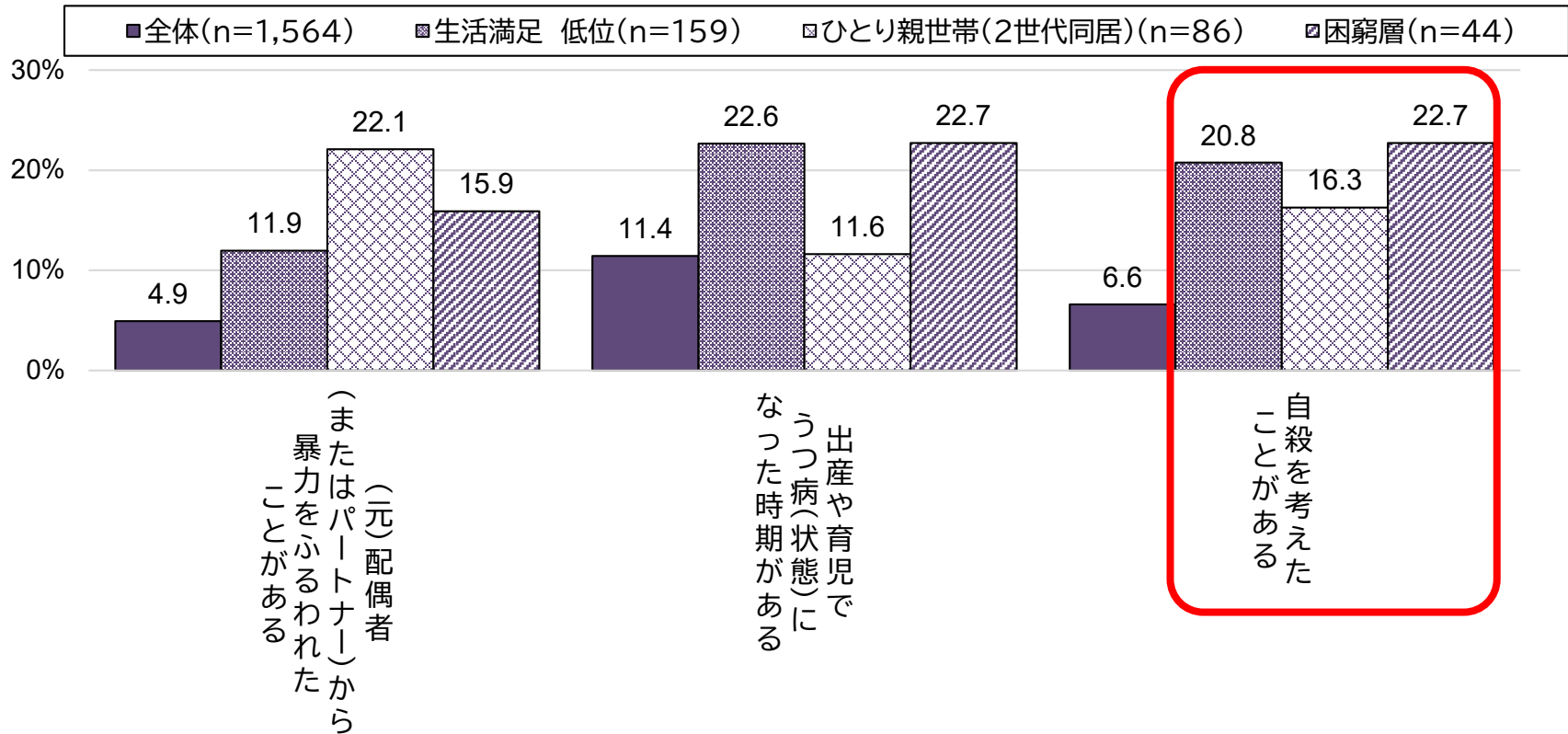


- 子どもが生まれてから自殺を考えたことがある割合は、5歳児保護者の5.6%、小学5年生保護者の6.6%、中学2年生保護者の5.2%

2-③ 保護者のウェルビーイング



DV、産後のうつ状態、自殺を考えた経験（小5保Q29）



- 小学5年生保護者のうち生活満足度が低い層の20.8%、ひとり親世帯（2世代同居）の16.3%、困窮層の22.7%は子どもが生まれてから自殺を考えたことがあると回答

2-④ 子どもの生活状況

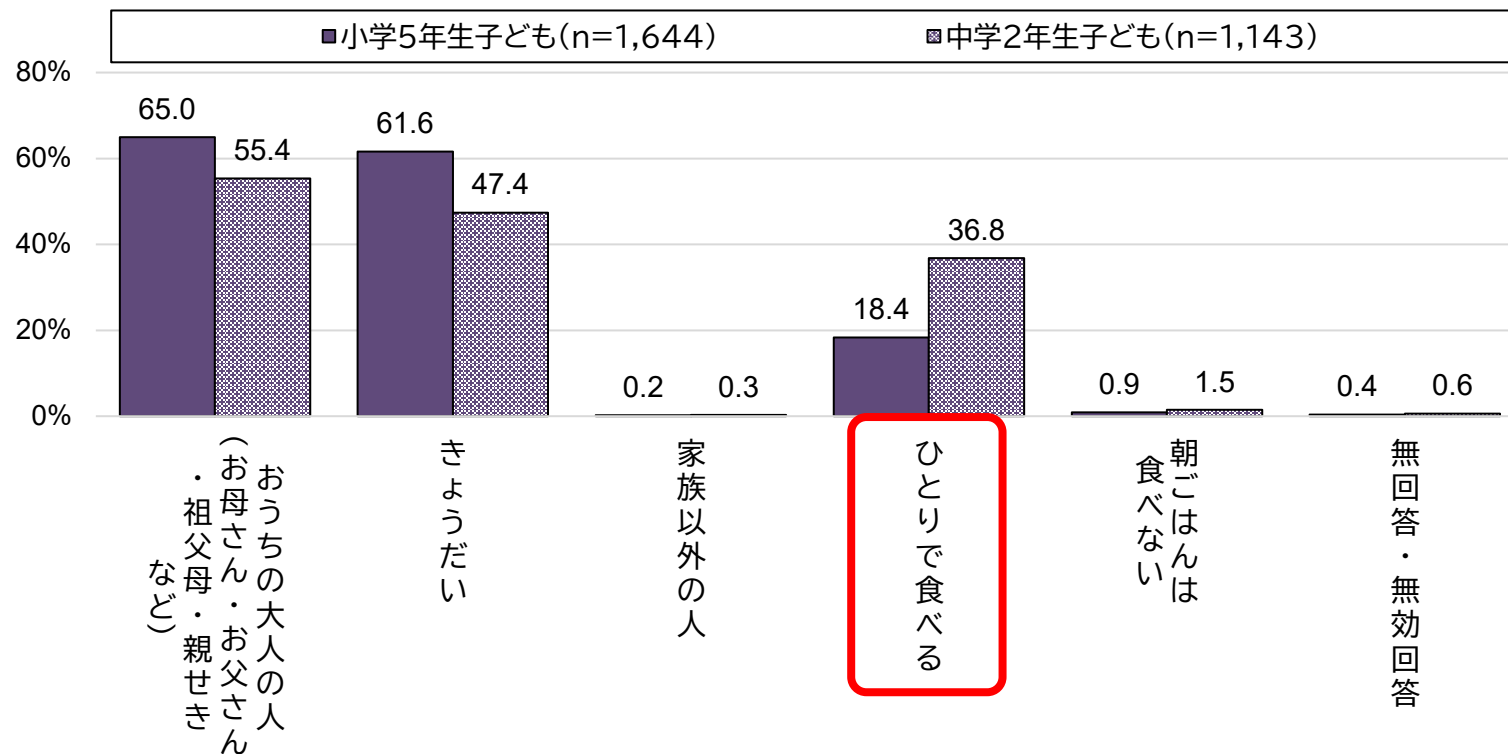
調査結果の概要

- 小学5年生の約1割、中学2年生の2割弱は就寝時間が決まっていない。
- 小学5年生の2割強、中学2年生の3割弱は、インターネットやゲームの中をほとんどできる居場所と回答。
- 生活満足度が低い子どもは、自分の家や学校などをほとんどできると回答した割合が低く、インターネットやゲームの中と回答した割合が高い。また、ほとんどできる場所がないと回答した割合が相対的に高い。
- スマートフォンを平日3時間以上使用する割合は、小学5年生が1割強、中学2年生が3割強。
- ゲームを平日3時間以上使用する割合は、小学5年生が2割弱、中学2年生が2割弱。

2-④ 子どもの生活状況



平日に朝ごはんを誰と食べるか (小中子Q3)

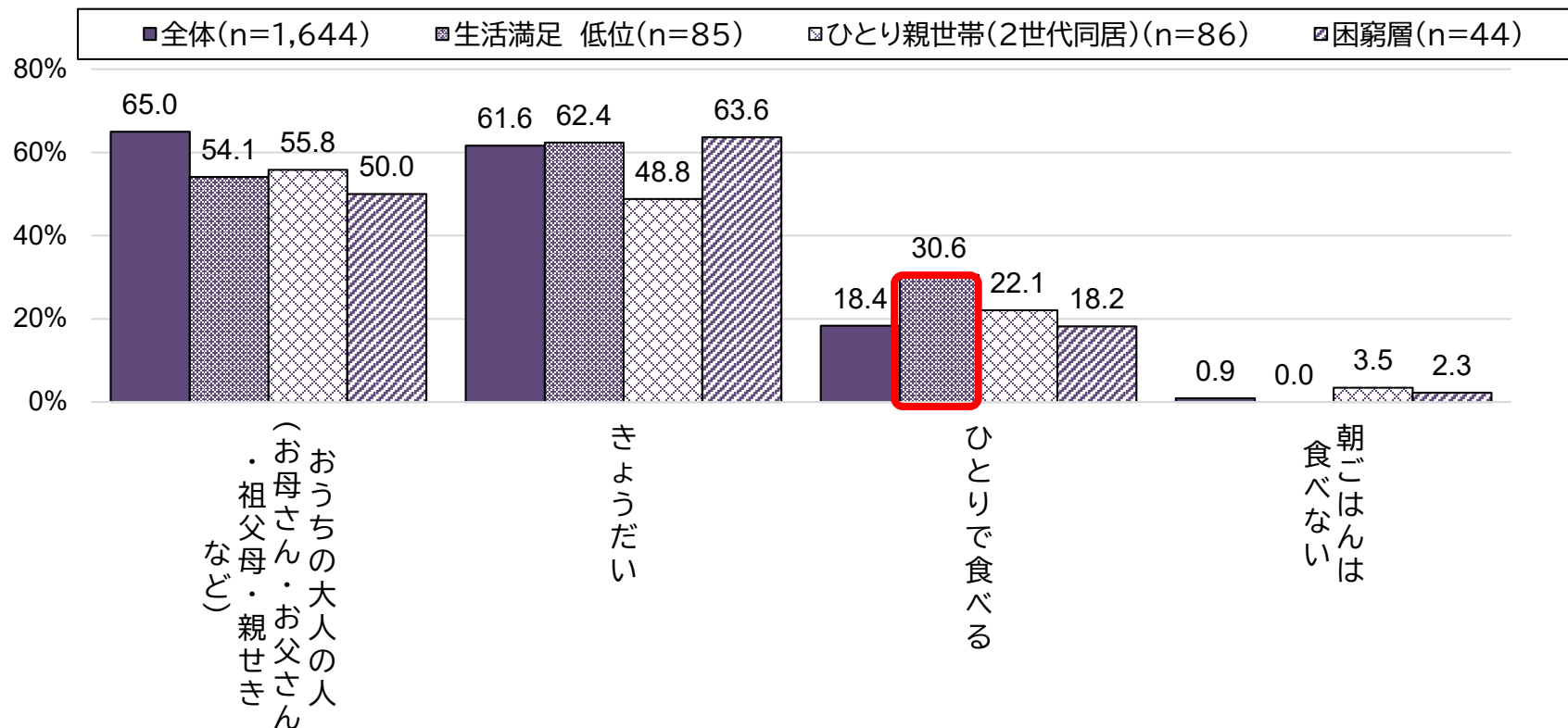


- 小学5年生の18.4%、中学2年生の36.8%の子どもは、平日に朝ごはんをひとりで食べると回答

2-④ 子どもの生活状況



平日に朝ごはんを誰と食べるか (小5子Q3)

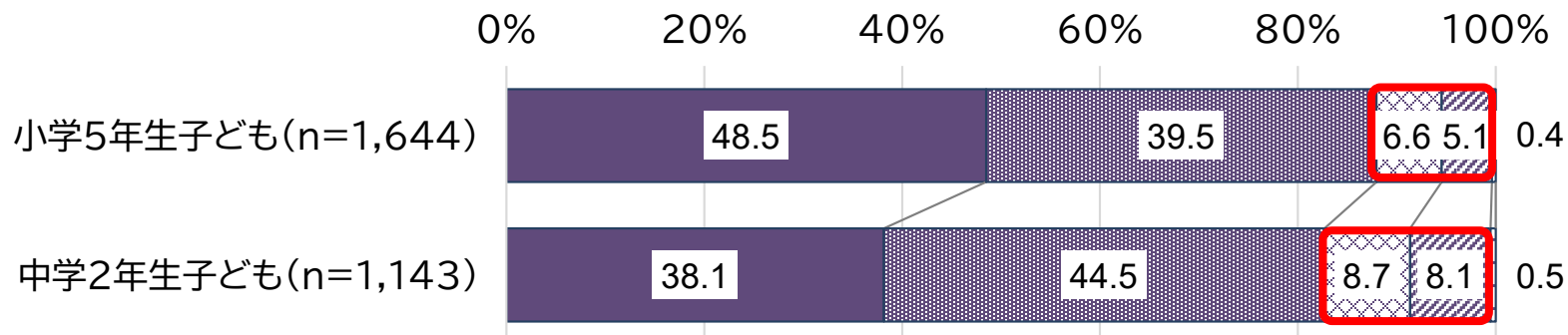


- 小学5年生のうち生活満足度が低い子どもの30.6%は平日に朝ごはんをひとりで食べると回答

2-④ 子どもの生活状況



基本的な生活習慣（就寝時間）（小中子Q8）



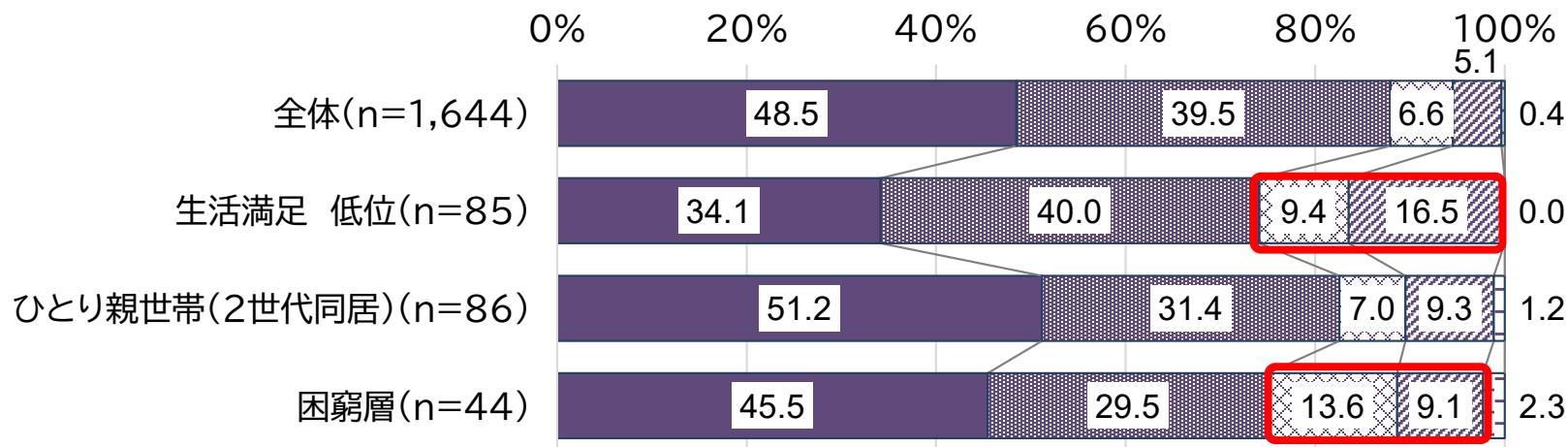
- 毎日、同じぐらいの時間に寝ている
- どちらかといえば同じぐらいの時間に寝ている
- あまり同じ時間には寝ていない
- 寝る時間はバラバラで決まっていない
- 無回答・無効回答

- 小学5年生の約1割、中学2年生の2割弱の子どもは、「あまり同じ時間には寝ていない」「寝る時間はバラバラで決まっていない」と回答

2-④ 子どもの生活状況



基本的な生活習慣（就寝時間）（小5子Q8）



- 毎日、同じぐらいの時間に寝ている
- どちらかといえば同じぐらいの時間に寝ている
- ▨ あまり同じ時間には寝ていない
- ▨ 寝る時間はバラバラで決まっていない
- 無回答・無効回答

- 小学5年生の生活満足度が低い子どもの3割弱、困窮層に該当する子どもの2割強は「あまり同じ時間には寝ていない」「寝る時間はバラバラで決まっていない」と回答



用語解説

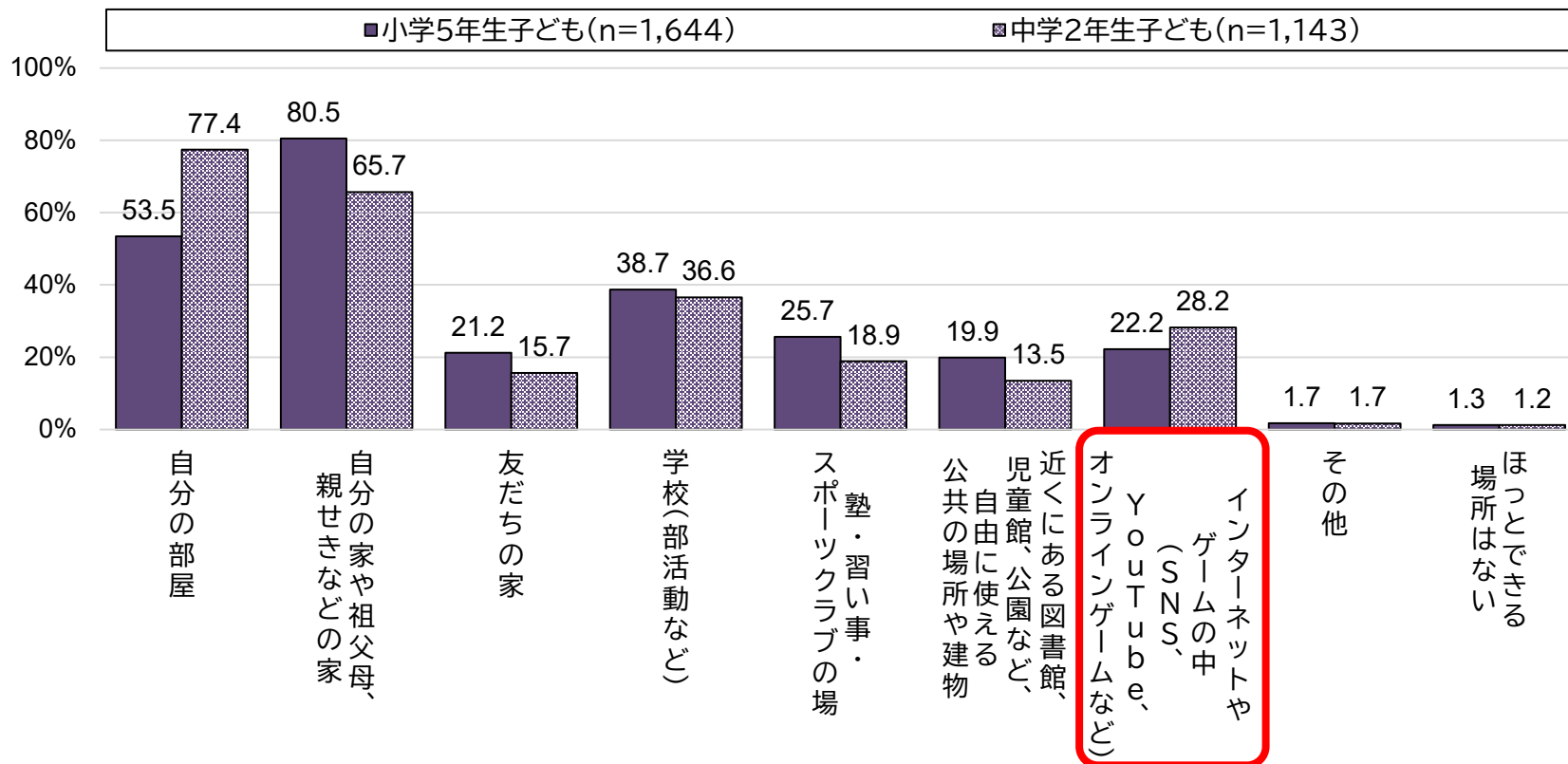
基本的な生活習慣

- 日常的に繰り返される生活に必要な行動を、「基本的な生活習慣」とよび、食事、睡眠、排せつ、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどを指す。
- 「基本的な生活習慣」の形成は、就学前の時期である幼児期に身に付ける発達課題とされており、自分のことを自分でしようとする気持ちが芽生え、自立心や、自律性が育まれていく。
- 保育所保育指針解説（平成30年2月）では、「基本的な生活習慣や態度を身に付けることは、子どもが自分の生活を律し、主体的に生きる基礎となる」とされている。

2-④ 子どもの生活状況



ほとんどできる居場所 (小中子Q12)

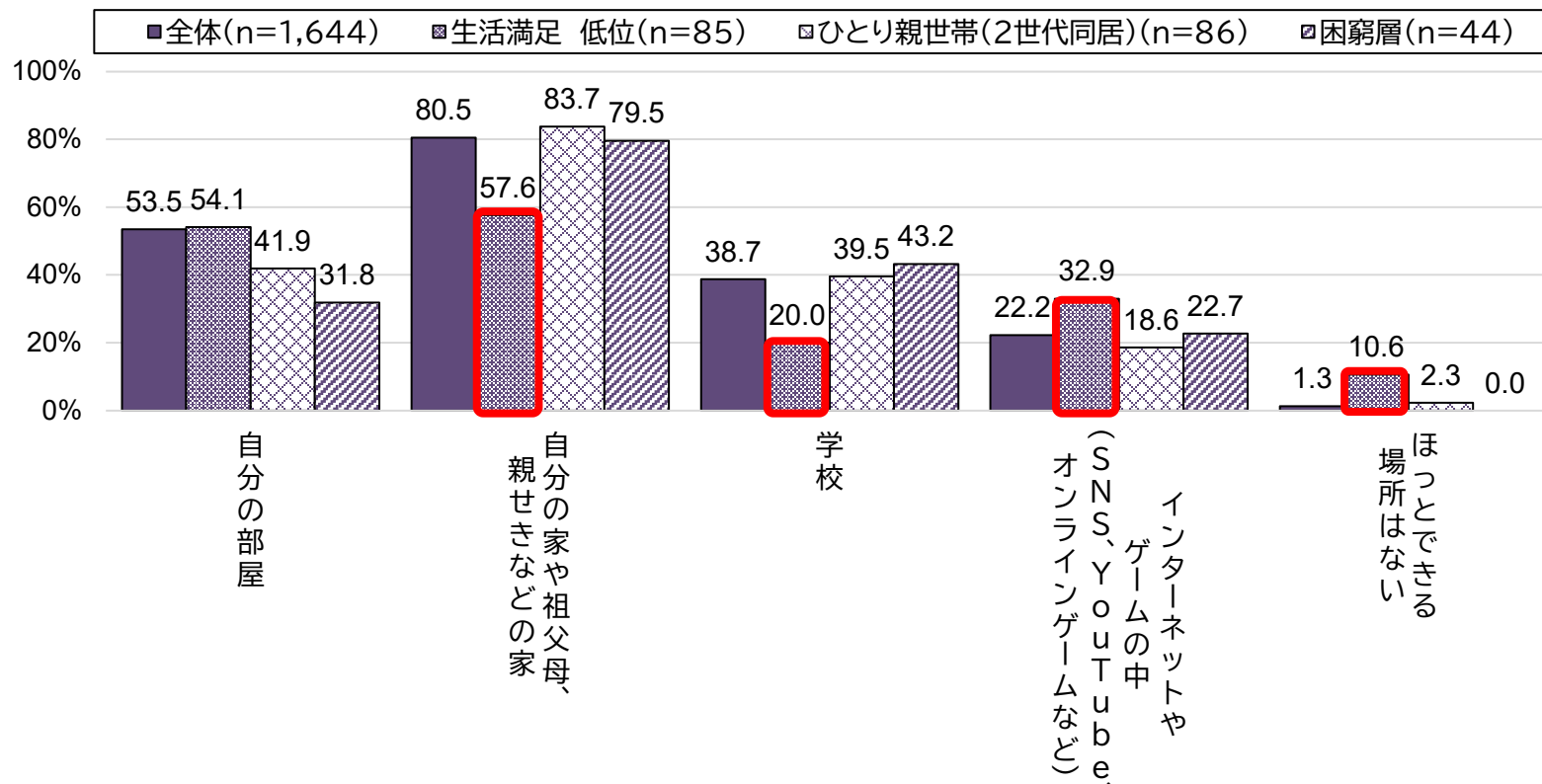


- 小学5年生の22.2%、中学2年生の28.2%は、インターネットやゲームの中をほとんどできる居場所と回答

2-④ 子どもの生活状況



ほっとできる居場所 (小5子Q12)

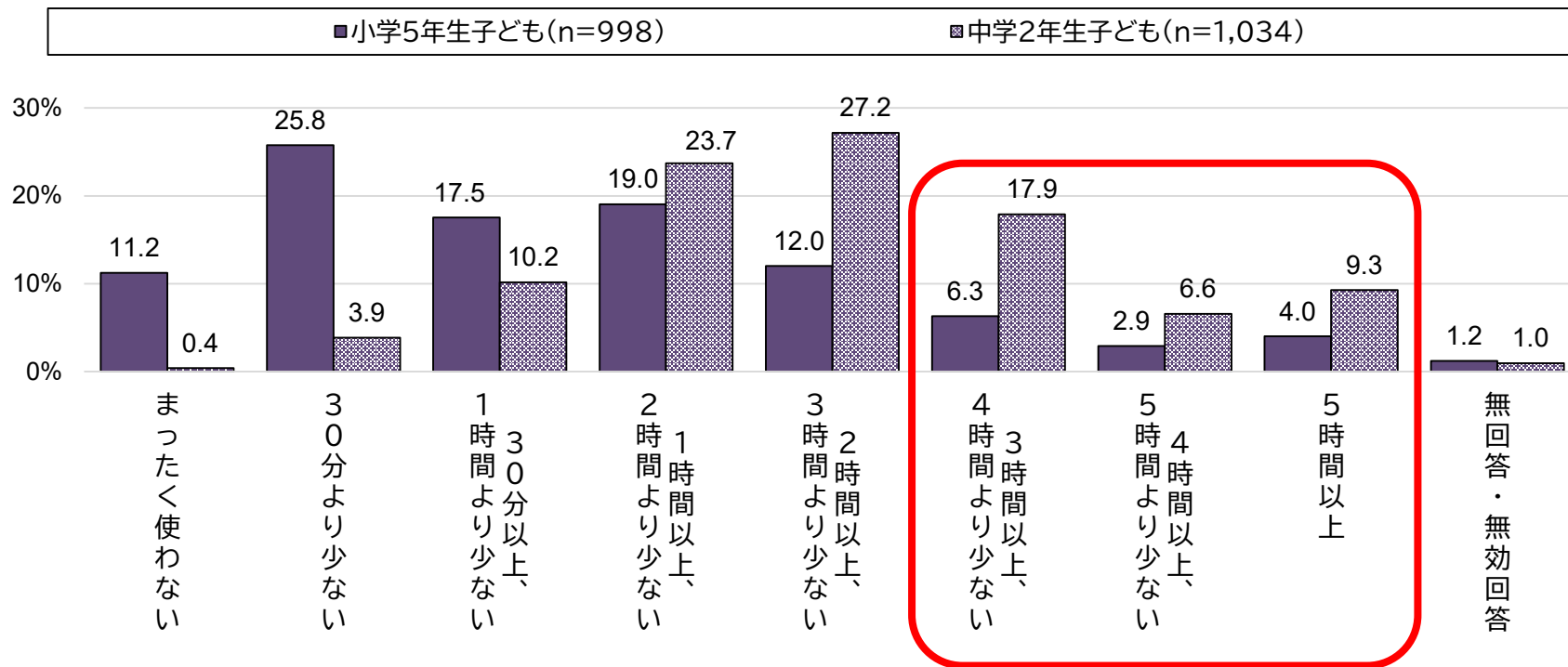


- 小学5年生の生活満足度が低い子どもは、自分の家や学校などをほっとできると回答した割合が低く、インターネットやゲームの中と回答した割合が高い

2-④ 子どもの生活状況



平日のスマートフォンの使用時間（小中子Q15）

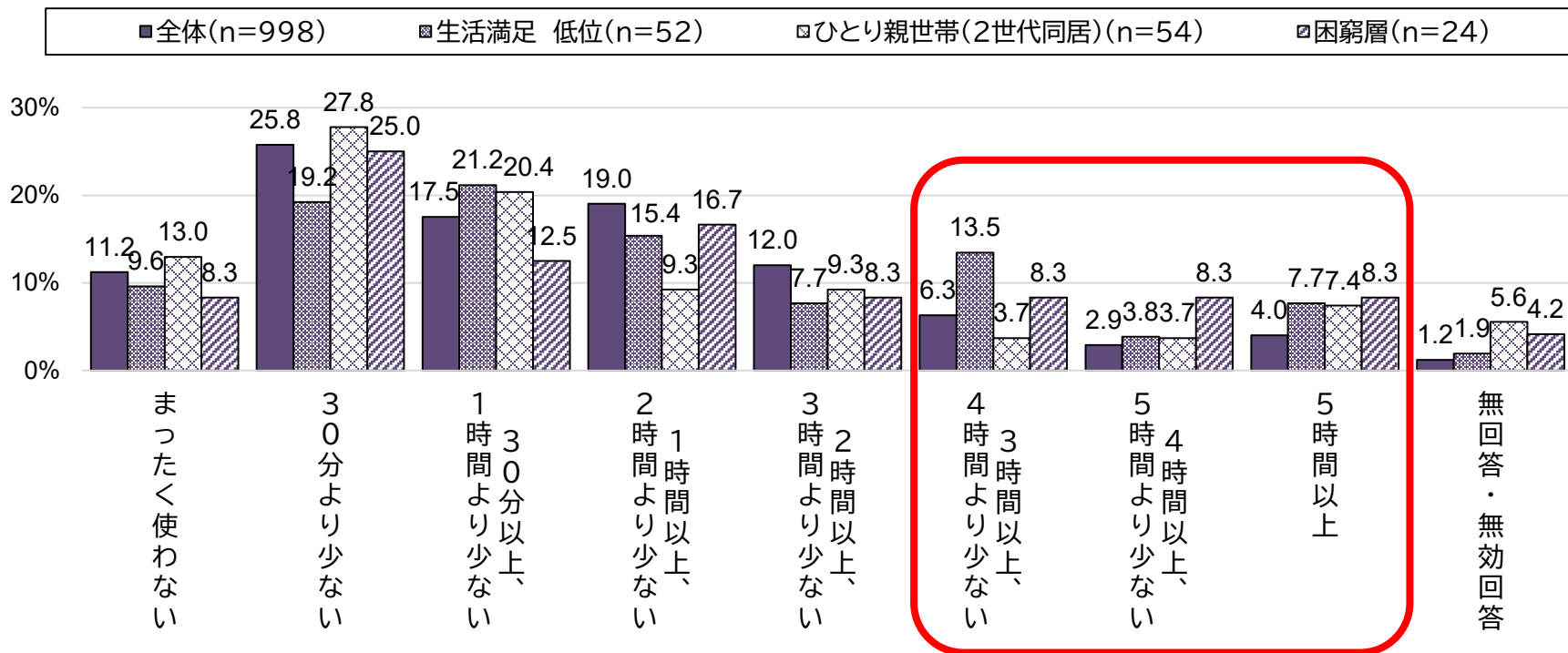


- スマートフォンを平日3時間以上使用する割合は、小学5年生が約13%、中学2年生が約34%

2-④ 子どもの生活状況



平日のスマートフォンの使用時間（小5子Q15）

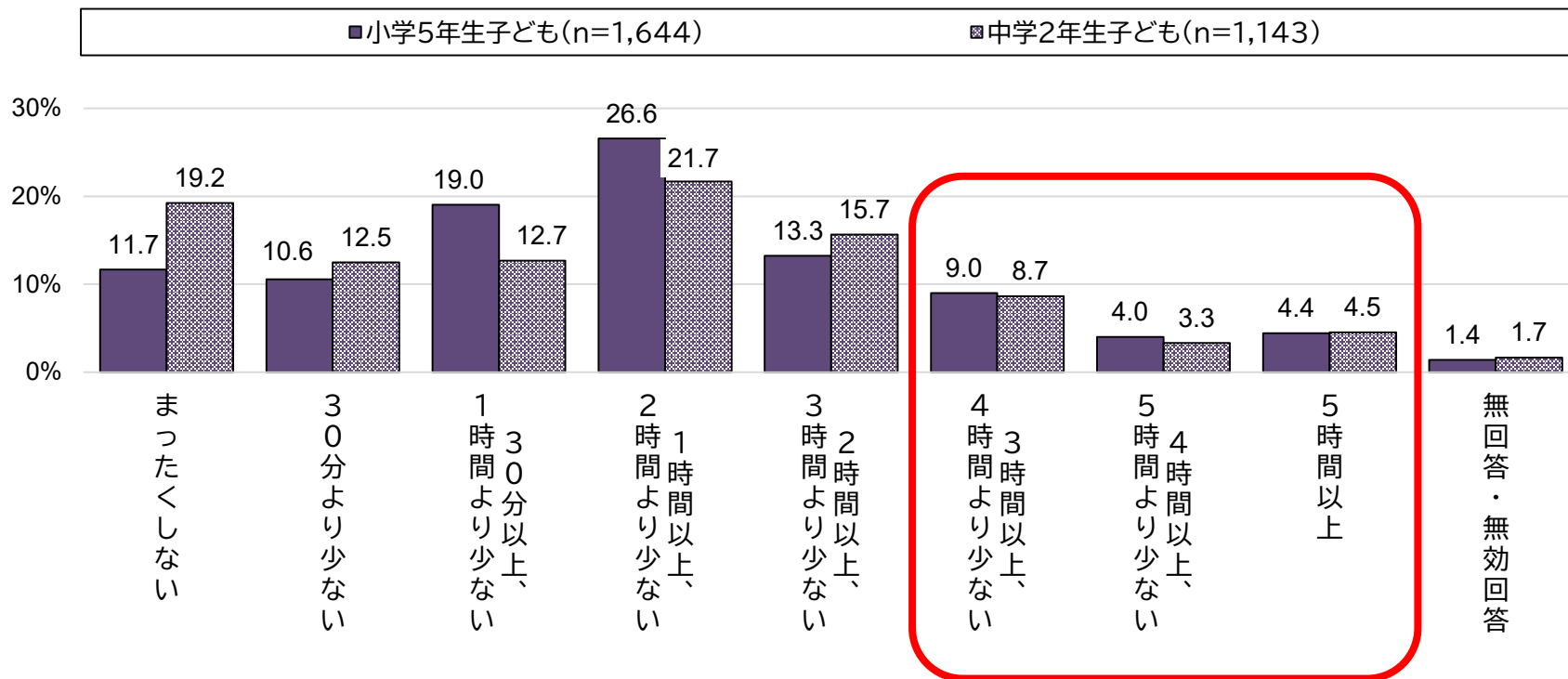


- スマートフォンを平日3時間以上使用する割合は、全体が約13%に対して、生活満足度が低い層は約25%、ひとり親世帯（2世代同居）は約15%、困窮層は約25%

2-④ 子どもの生活状況



平日のゲームの使用時間（小中子Q16）

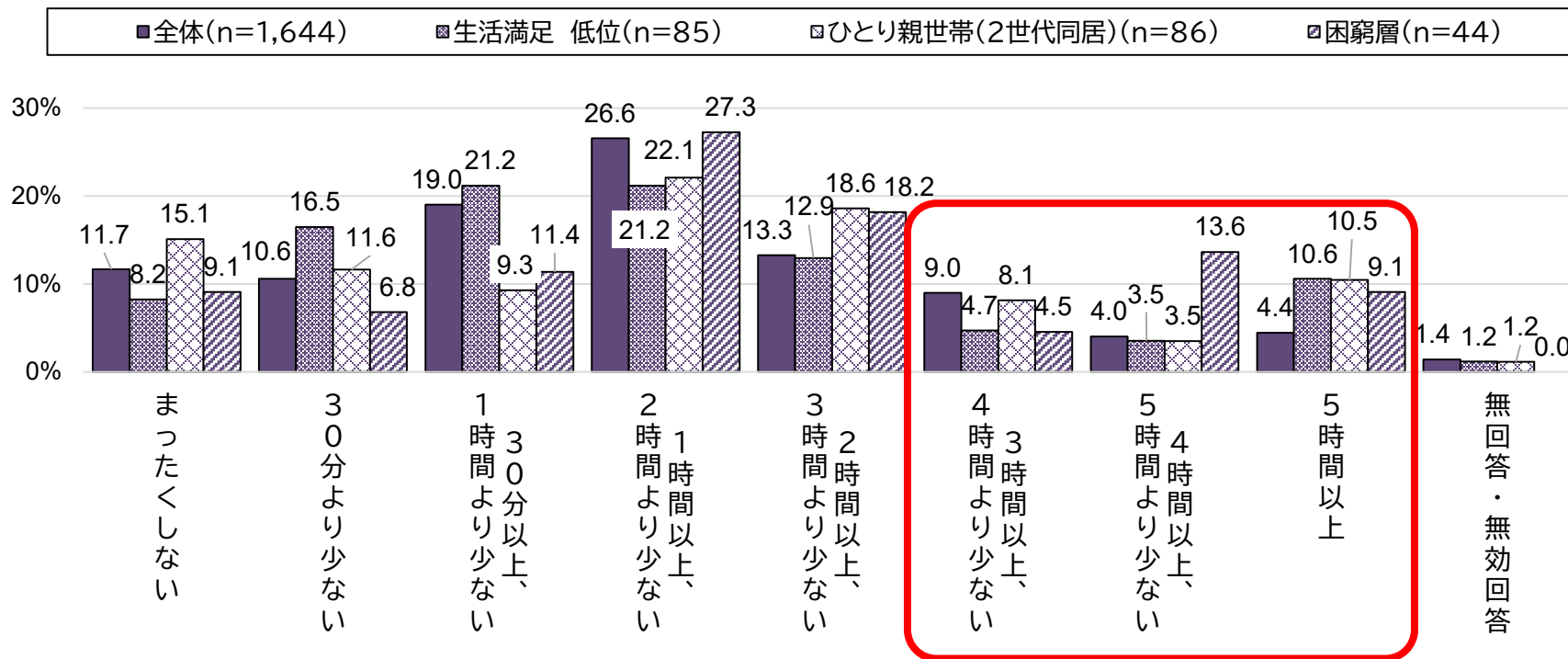


- ゲームを平日3時間以上使用する割合は、小学5年生が約17%、中学2年生が約17%

2-④ 子どもの生活状況



平日のゲームの使用時間（小5子Q16）



- ゲームを平日3時間以上使用する割合は、全体が約17%に対して、生活満足度が低い層は約19%、ひとり親世帯（2世代同居）は約22%、困窮層は約27%

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況

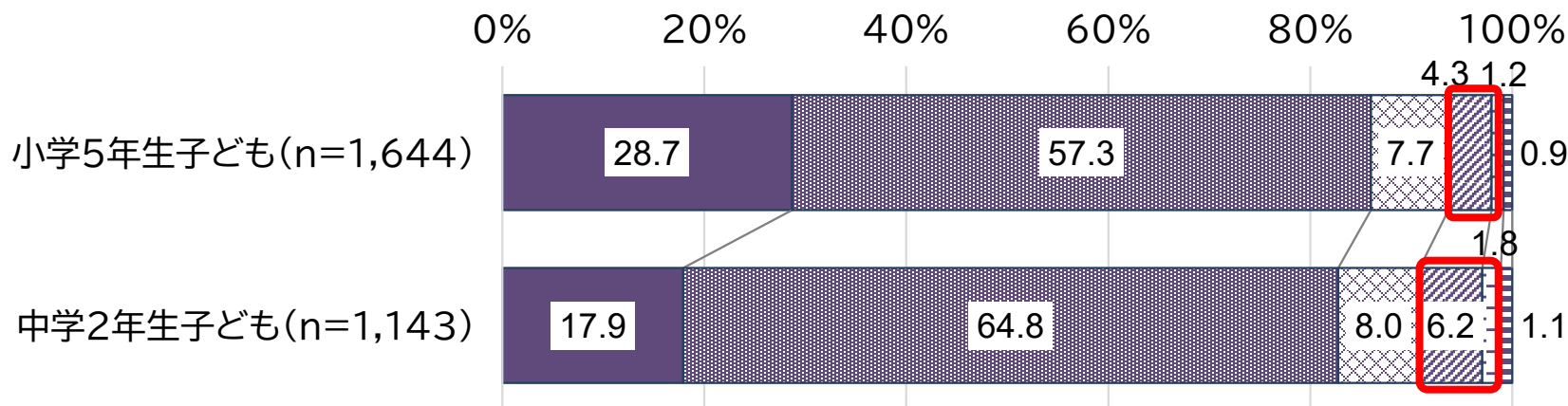
調査結果の概要

- 小学5年生の約6%、中学2年生の約8%は、学校の授業がわからないと回答。生活満足度が低い層、ひとり親世帯（2世代同居）、困窮層に該当する子どもはわからないと回答した割合が相対的に高い。
- 中学2年生保護者の約7%は、学習塾に通わせること（または家庭教師）が経済的にできないと回答。困窮層に該当する中学2年生世帯では6割弱。
- 学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」「時々あった」と回答した割合は、小学5年生の4割強、中学2年生の5割強。
- 生活満足度が低い子どもは学校に行きたくないことや、いじめられた経験を回答した割合が相対的に高い。
- 困窮層に該当する中学2年生は、大学又はそれ以上の進学を希望する割合が低く、まだわからないと回答した割合が高い傾向。

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



学校の授業がわからないことがあるか（小中子Q18）



■ いつもわかる

■ だいたいわかる

■ あまりわからない

■ わからないことが多い

■ ほとんどわからない

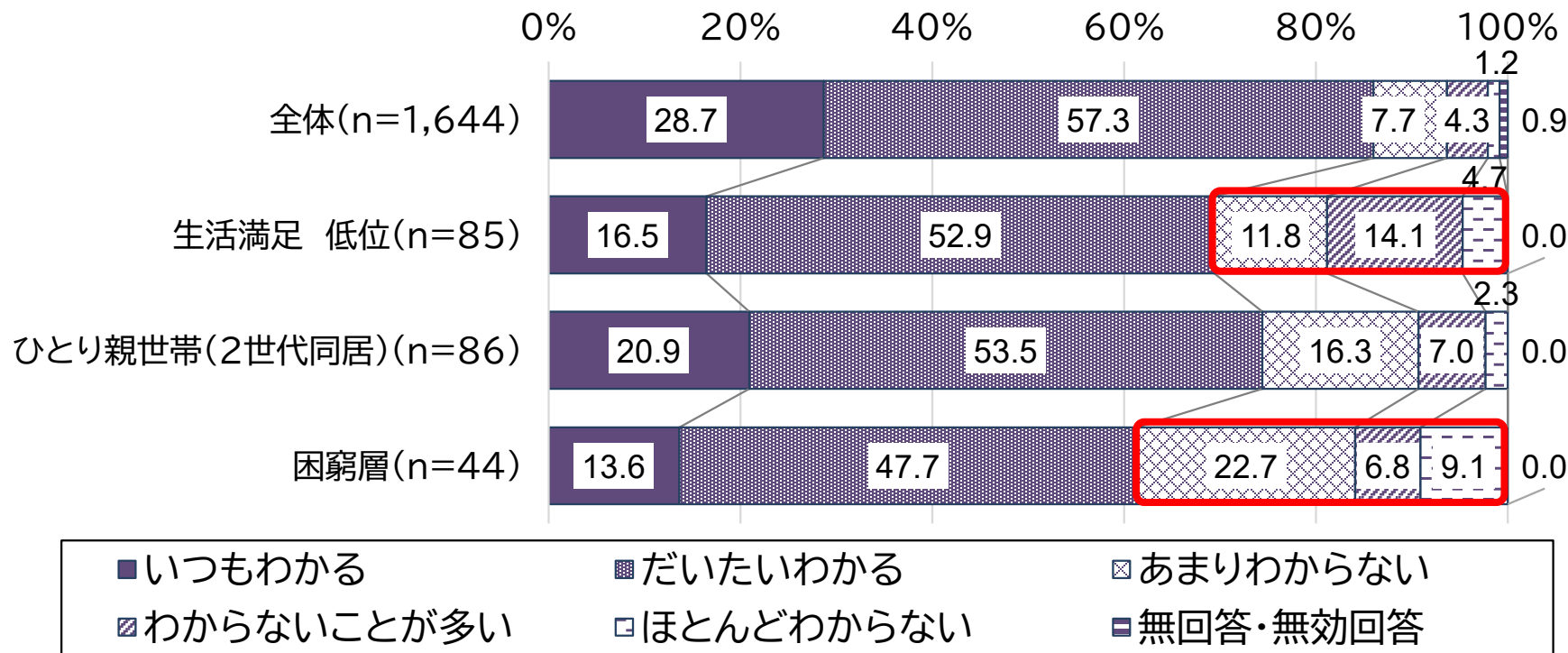
■ 無回答・無効回答

- 小学5年生の約6%、中学2年生の約8%は、学校の授業がわからない（「わからないことが多い」「ほとんどわからない」）と回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



学校の授業がわからないことがあるか (小5子Q18)

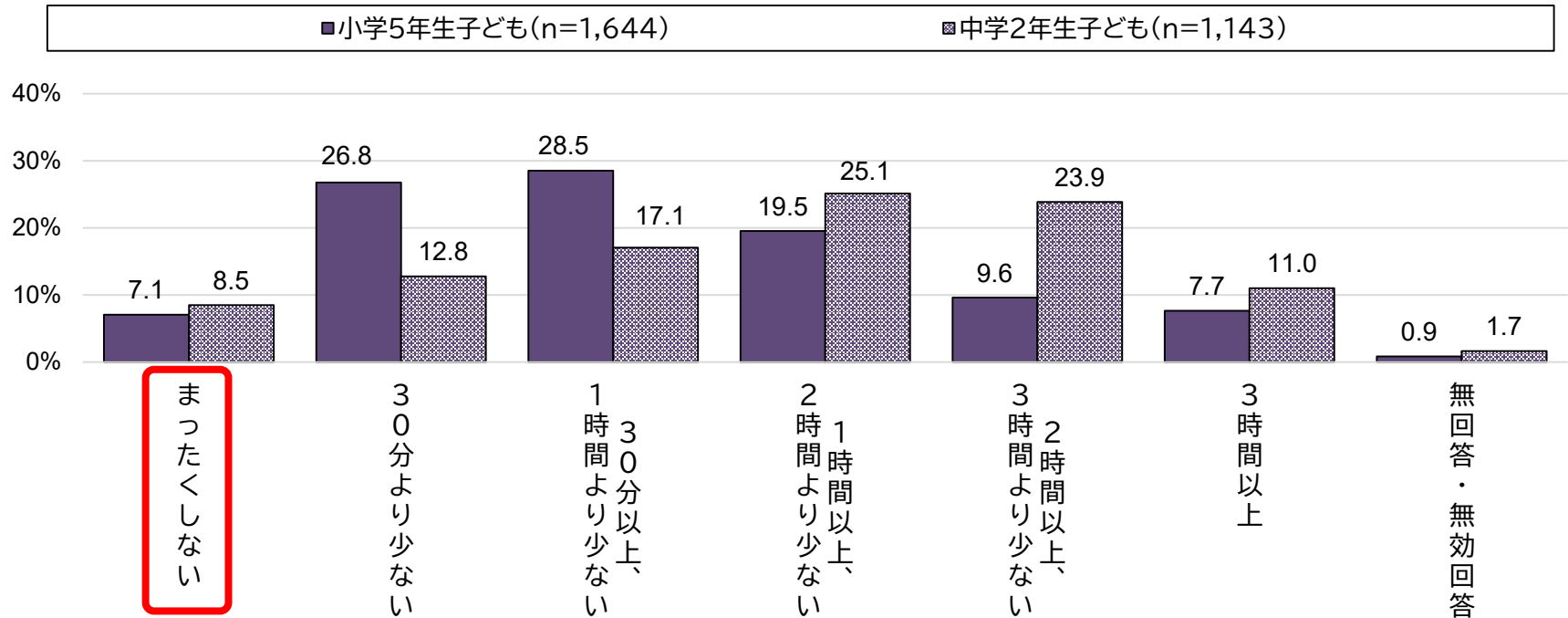


- 小学5年生の子どものうち生活満足度が低い層の約3割、困窮層の約4割は学校の授業がわからないことがあると回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



平日の学校以外の勉強時間（小中子Q20）

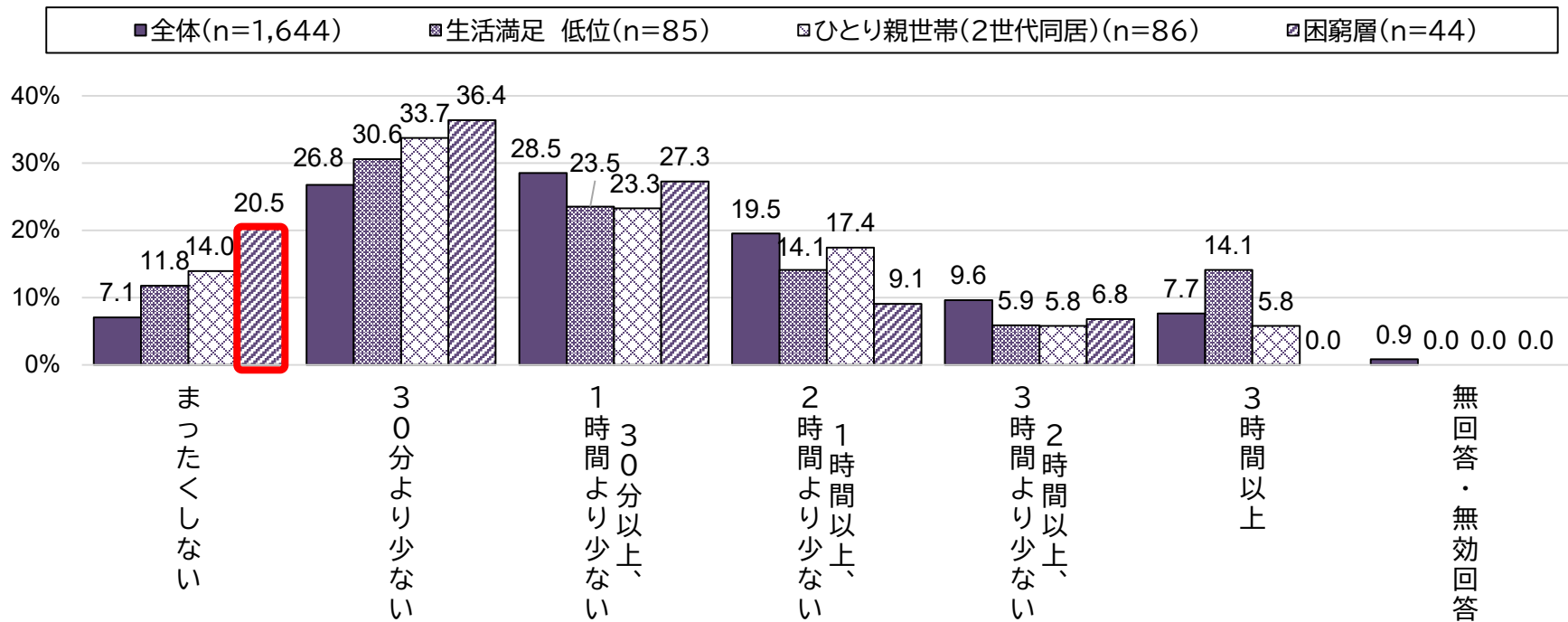


- 小学5年生の7.1%、中学2年生の8.5%は、平日の学校以外の勉強時間についてまったくしないと回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



平日の学校以外の勉強時間（小5子Q20）

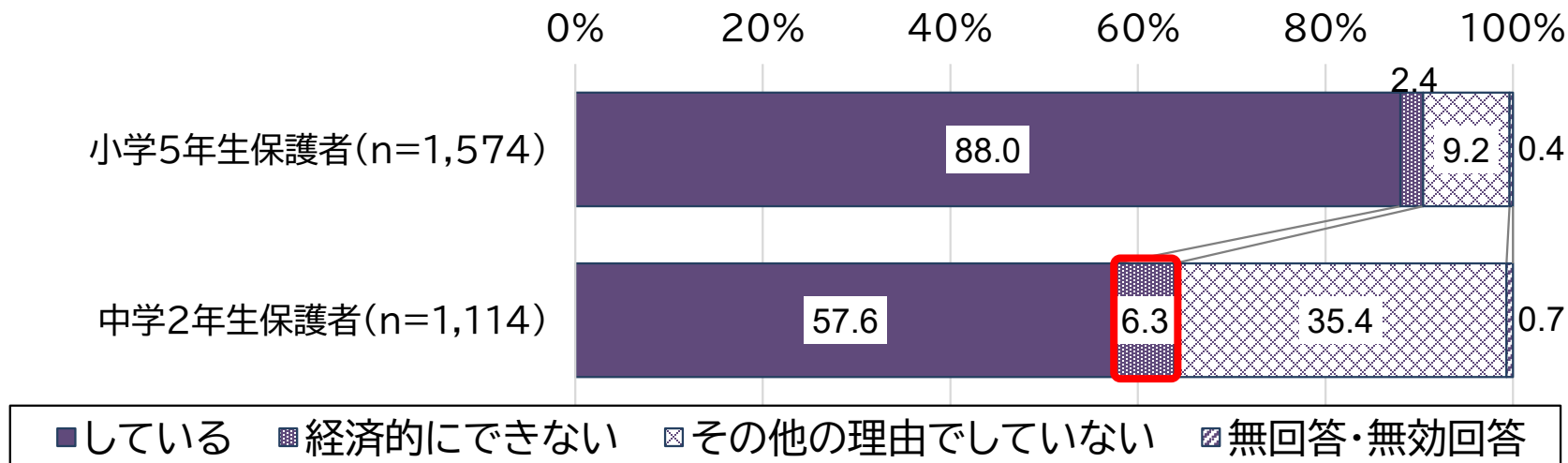


- 困窮層に該当する小学5年生の子どもの20.5%は、平日の学校以外の勉強時間についてまったくしないと回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



習い事（音楽、スポーツ等）に通わせる（小中保Q10C）

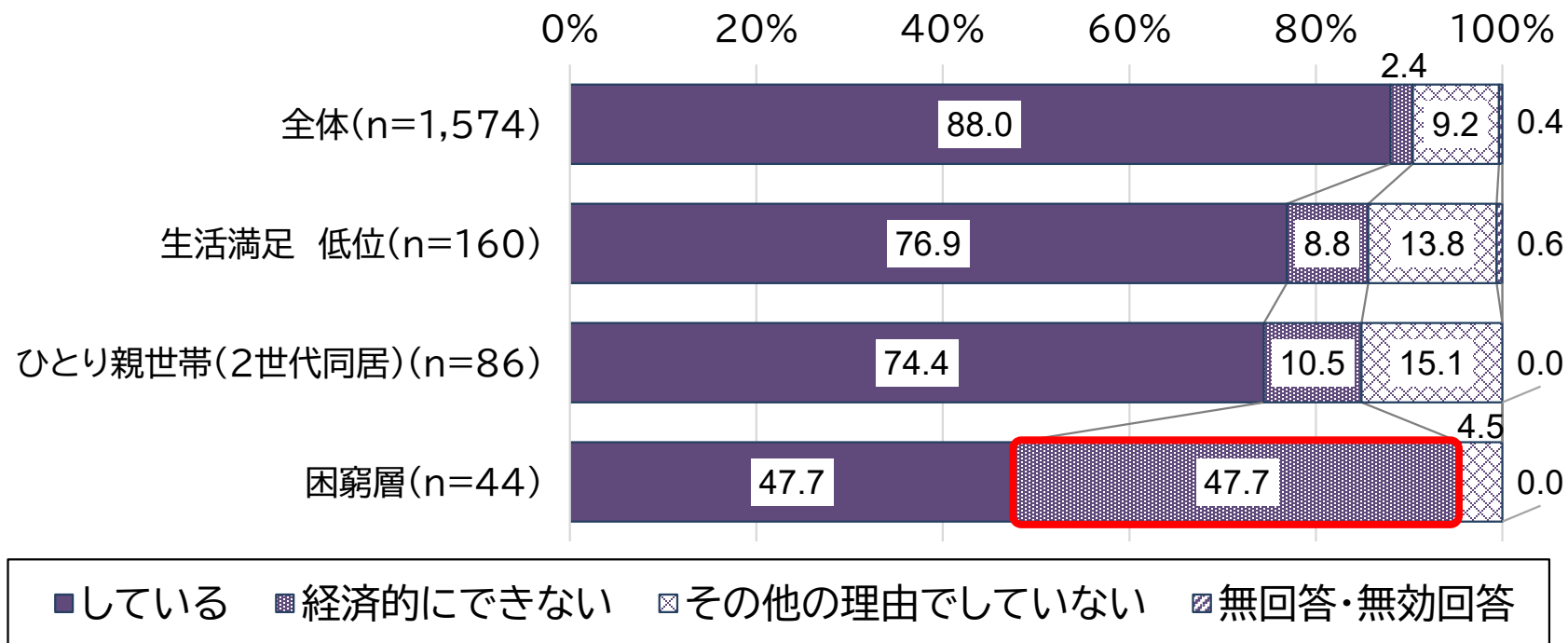


- 中学2年生保護者の6.3%は、習い事に通わせることが経済的にできないと回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



習い事（音楽、スポーツ等）に通わせる（小5保Q10C）

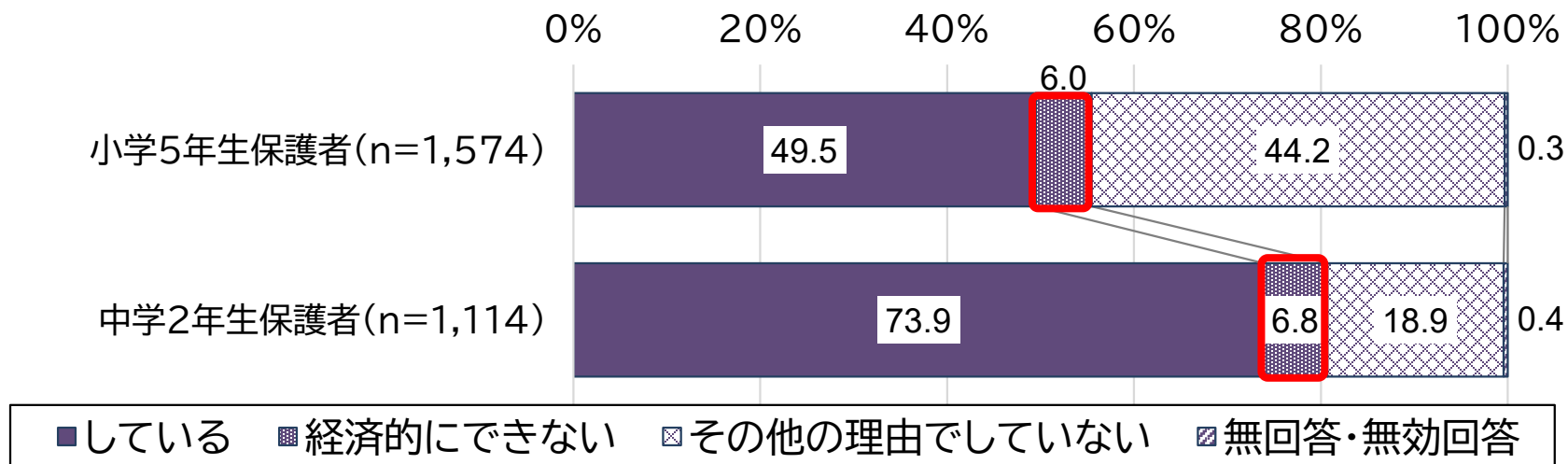


- 困窮層に該当する小学5年生保護者の47.7%は、習い事に通わせることが経済的にできないと回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



学習塾（または家庭教師）に通わせる（小中保Q10D）

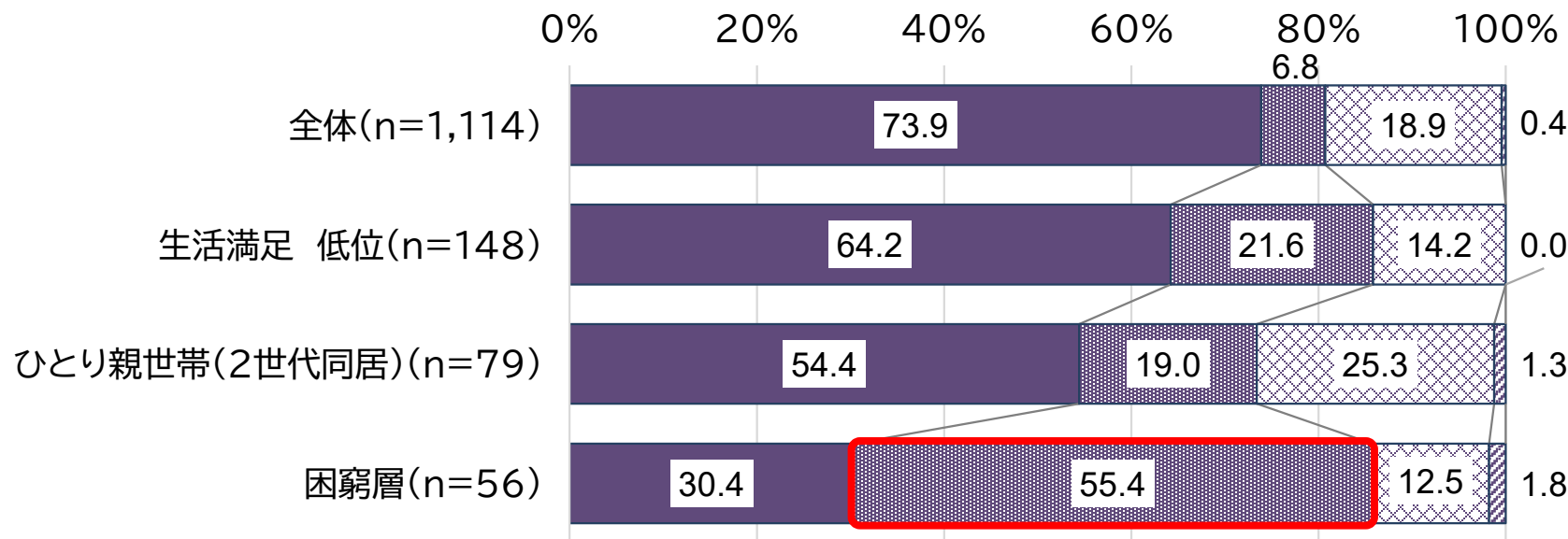


- 小学5年生保護者の6.0%、中学2年生保護者の6.8%は、学習塾（または家庭教師）に通わせることが経済的にできないと回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



学習塾に通わせる（または家庭教師）（中2保Q10D）



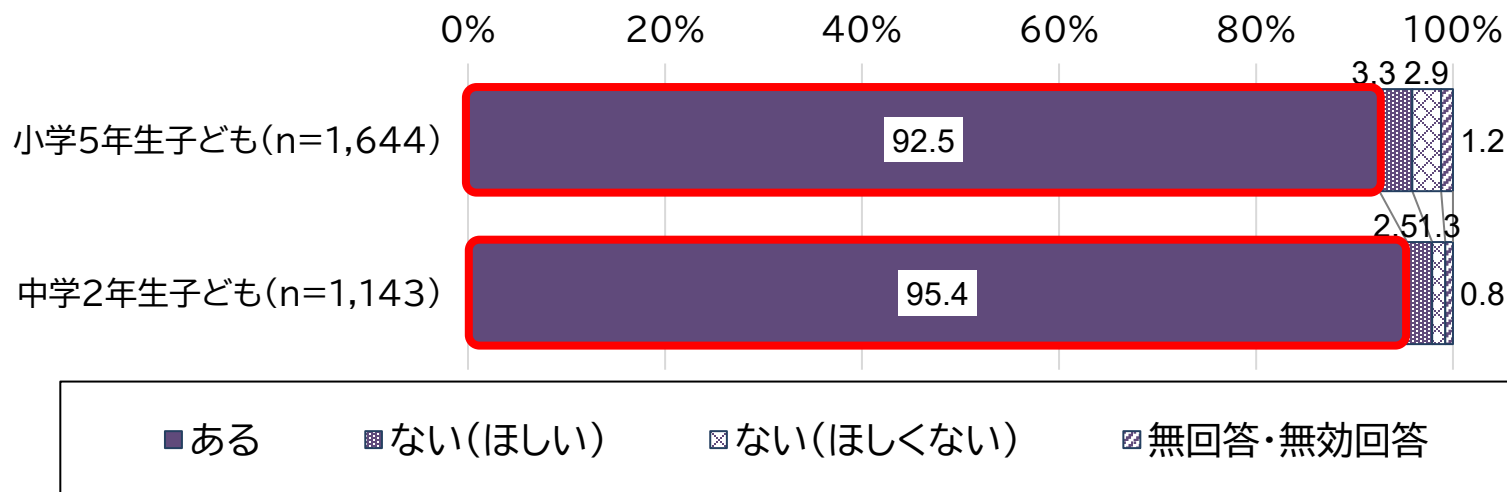
■ している ■ 経済的にできない □ その他の理由でしていない ▣ 無回答・無効回答

- 困窮層に該当する中学2年生の保護者の55.4%は、学習塾に通わせこと（または家庭教師）が経済的にできないと回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



自宅で学習できる場所 (小中子Q14A)

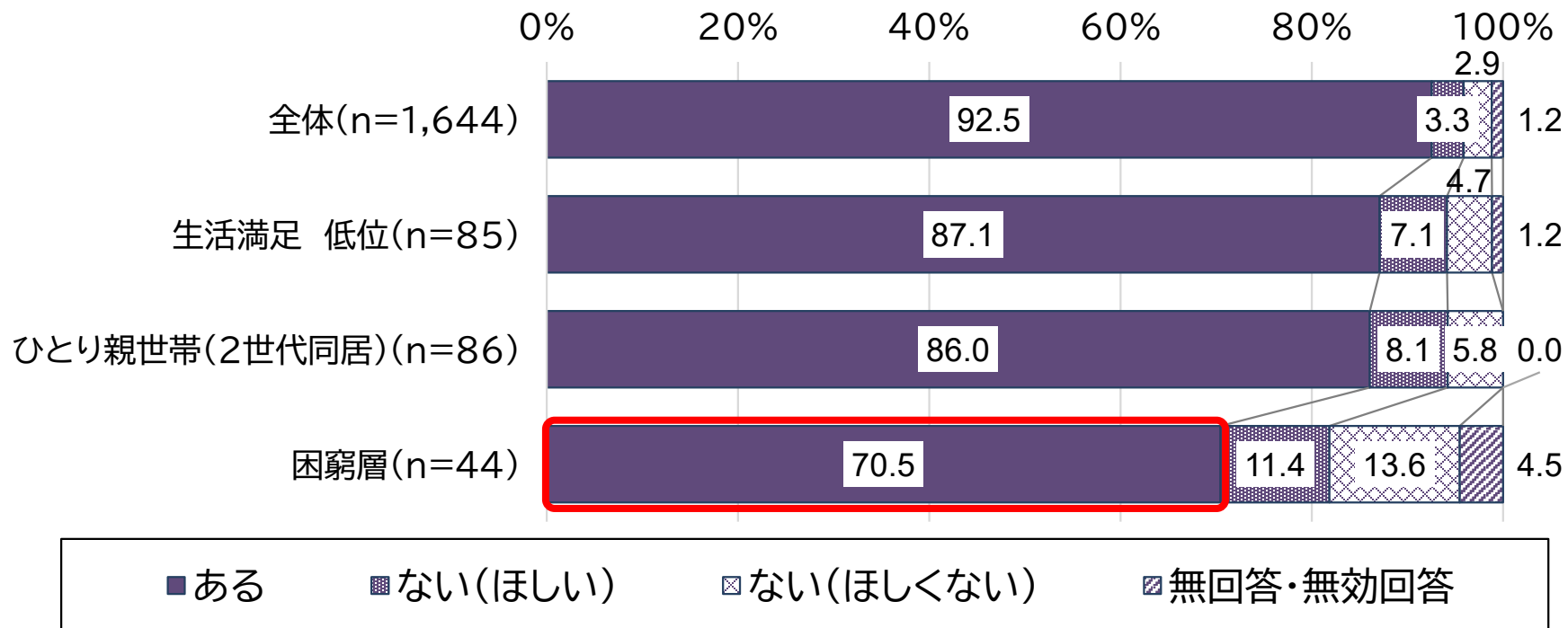


- 自宅で学習できる場所があると回答した割合は、小学5年生の子どもの92.5%、中学2年生子どもの95.4%

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



自宅で学習できる場所 (小5子Q14A)

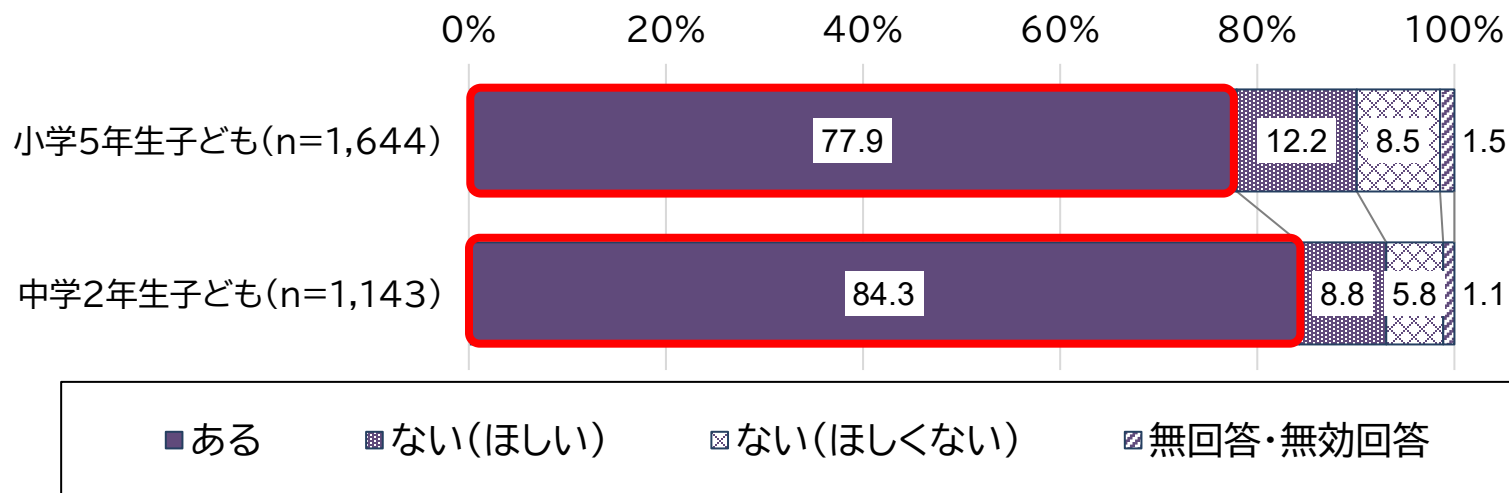


- 自宅で学習できる場所があると回答した割合は、困窮層に該当する小学5年生の子どもの70.5%で、全体と比較して約2割低い

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



自宅でインターネットにつながるパソコン等（小中子Q14F）

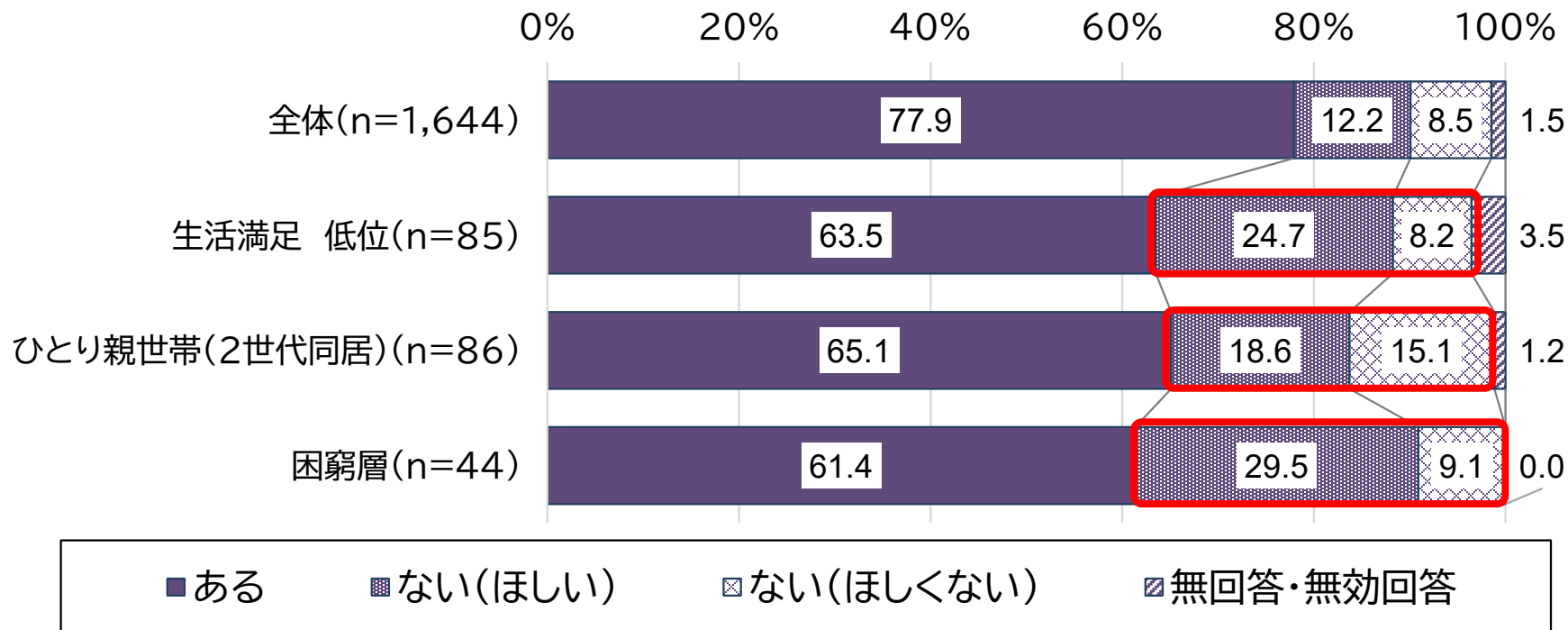


- 自宅で自分が使うことができるインターネットにつながるパソコン等があると回答した割合は、小学5年生の子どもの77.9%、中学2年生の子どもの84.3%

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



自宅でインターネットにつながるパソコン等 (小5子Q14F)

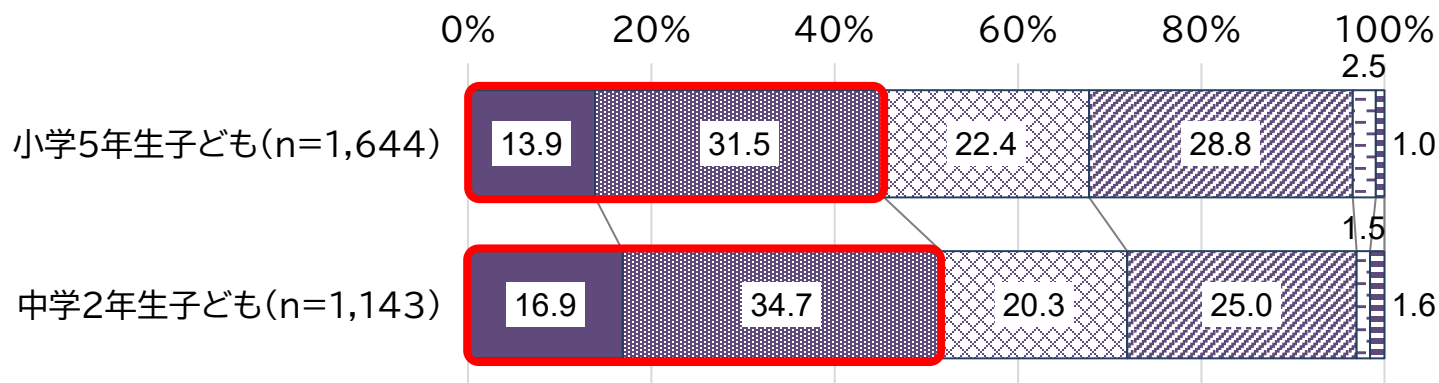


- 小学5年生の、生活満足度が低い層の3割強、ひとり親世帯（2世代同居）の3割強、困窮層の4割弱は自宅に自分が使うことのできるインターネットにつながるパソコン等がないと回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



学校に行きたくないと思った（小5子Q27A、中2子Q28A）



■よくあった ■時々あった ■あまりなかった ■なかった □わからない ■無回答・無効回答

- 学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」「時々あった」と回答した割合は、小学5年生の子どもの5割弱、中学2年生の子どもの5割強

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



学校に行きたくないと思った (小5子Q27A)



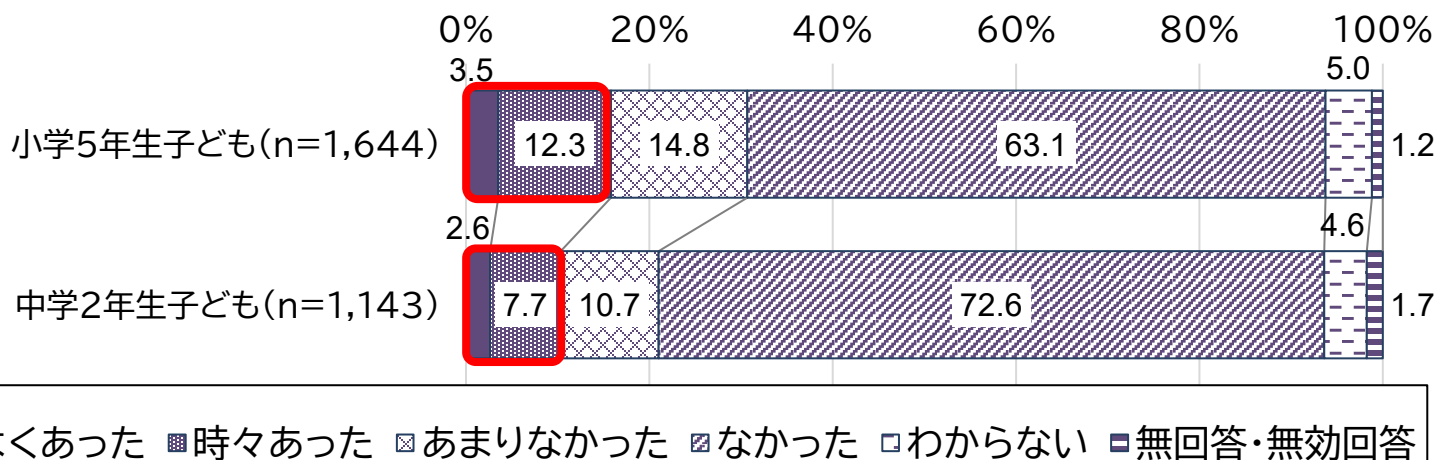
よくあった
 時々あった
 あまりなかった
 なかった
 わからない
 無回答・無効回答

- 生活満足度が低い小学5年生の子どもは、学校に行きたくないと思ったことが「よくあった」「時々あった」と回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



いじめられた経験（小5子Q27C、中2子Q28C）

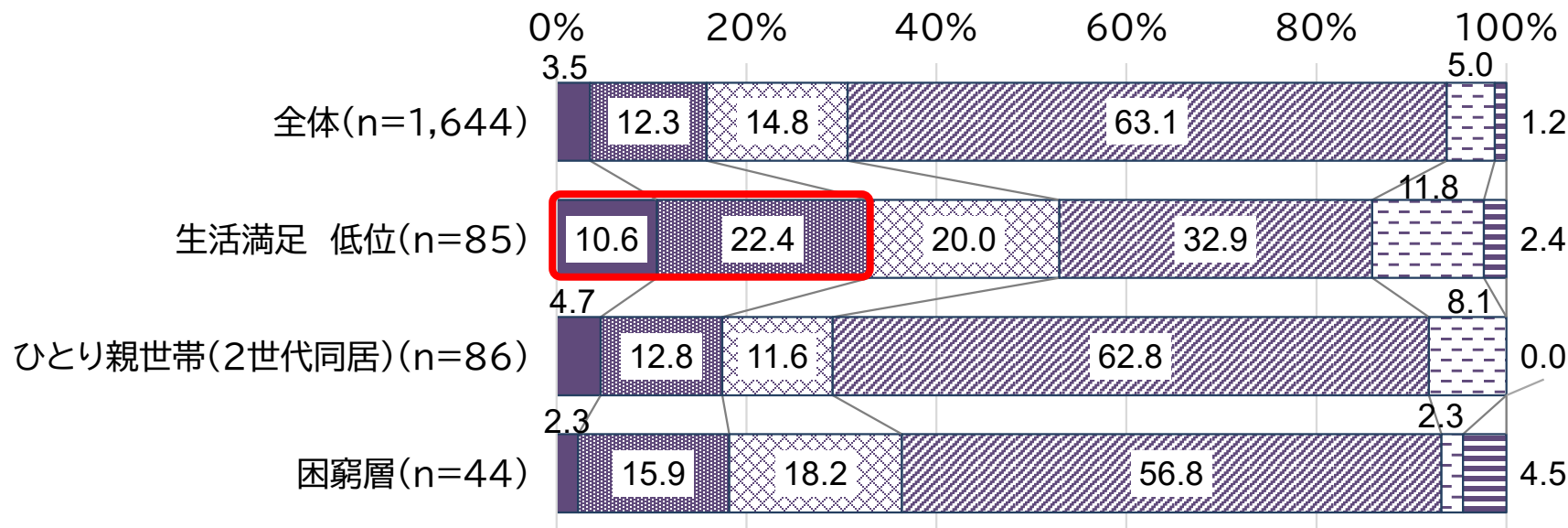


- いじめられたことが「よくあった」「時々あった」と回答した割合は、小学5年生の子どもの2割弱、中学2年生の子どもの約1割

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



いじめられた経験 (小5子Q27C)



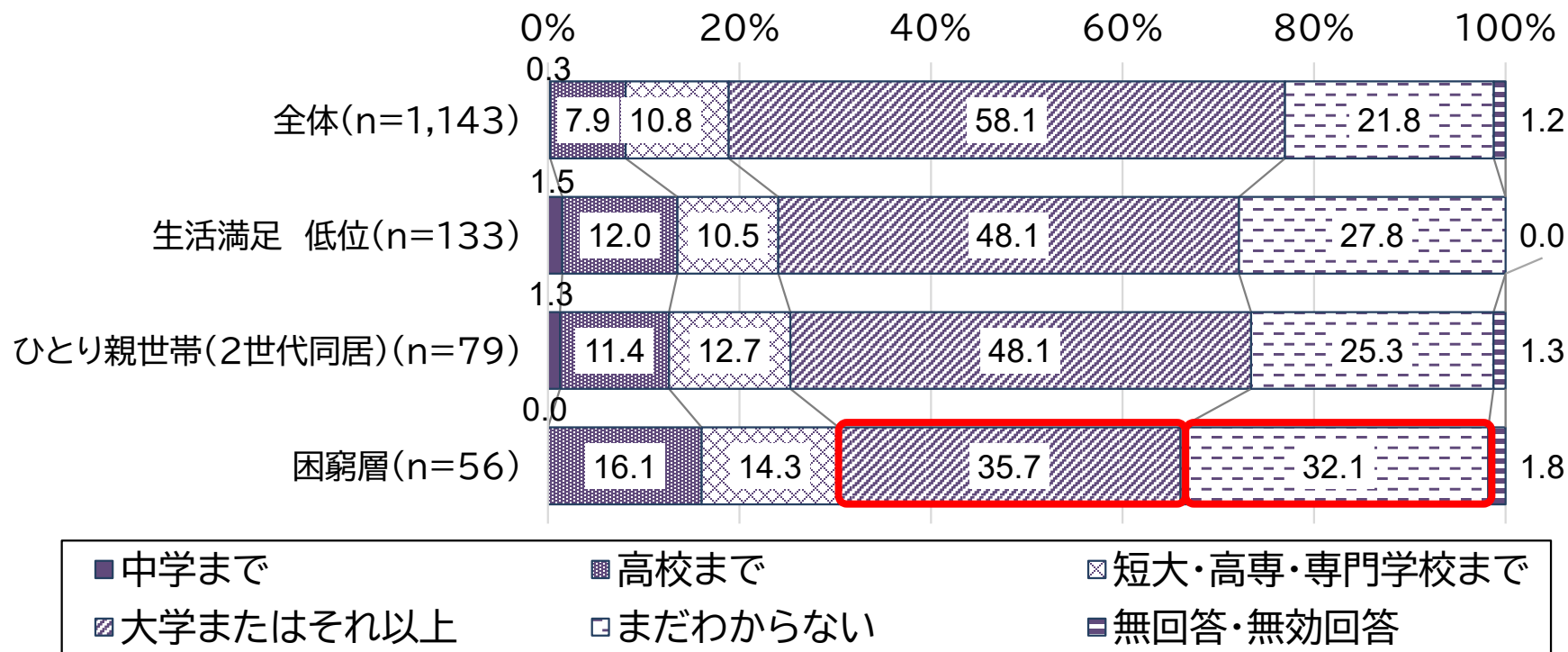
■よくあった ■時々あった ■あまりなかった ■なかった □わからない ■無回答・無効回答

- 生活満足度が低い小学5年生の子どもの3割強が、いじめられたことが「よくあった」「時々あった」と回答

2-⑤ 子どもの学校生活・学習状況



将来の進学希望（中2子Q23）



- 困窮層に該当する中学2年生の子どもは「大学又はそれ以上」の進学を希望する割合が35.7%と相対的に低く、「まだわからない」が32.1%で相対的に高い傾向

2-⑥ 子どもの悩み・相談相手

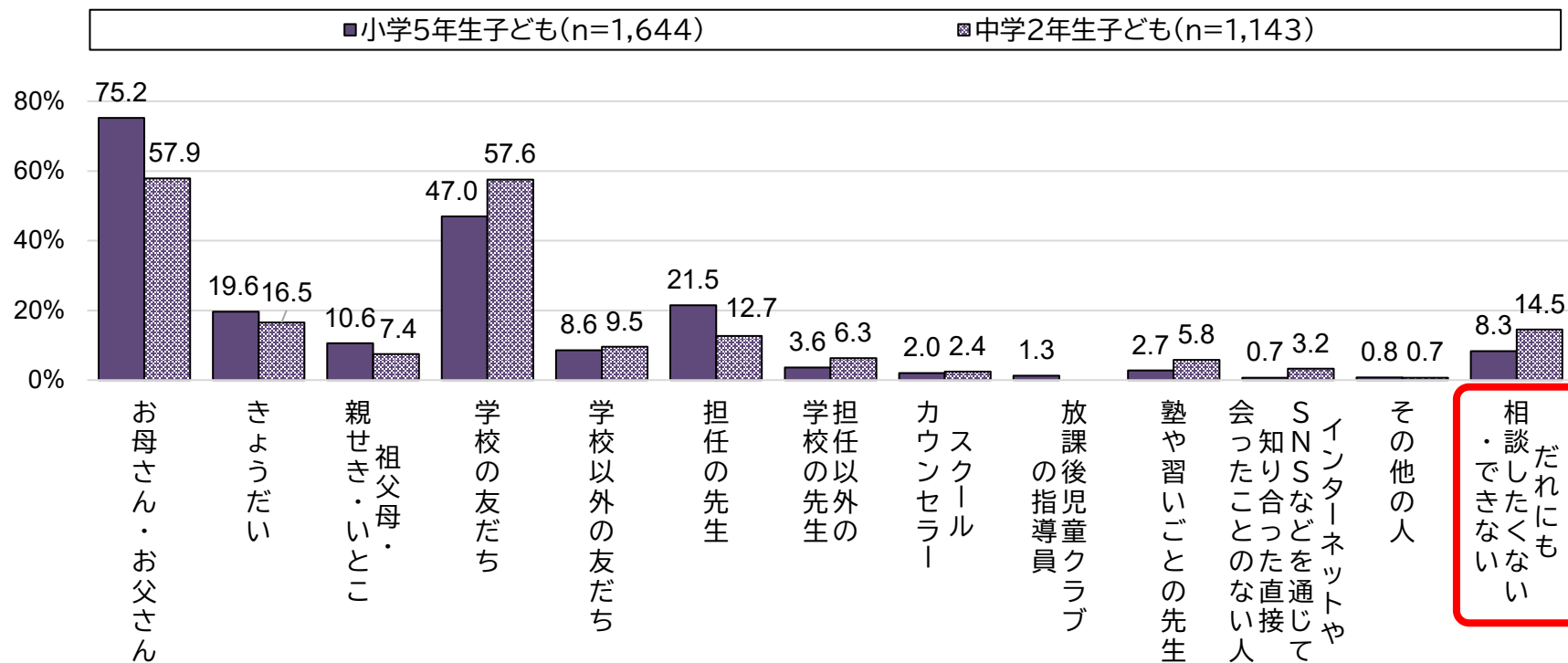
調査結果の概要

- 悩みごとを誰にも相談したくない・できないと回答した割合は、小学5年生の子どもの約8%、中学2年生の子どもの約15%。生活満足度が低い子どもは相談したくない・できない割合が高い傾向。
- 生活満足度が低い子どもは、家族の仲が良くない、家で落ち着いて勉強できないと回答した割合が相対的に高い。
- 生活満足度が低い子どもは学校で困っていることを選択数が多い。困窮層に該当する子どもの25%は勉強がよくわからないことに困っている
- 中学2年生の子どもの約34%が将来（進路）のことが不安、約16%が勉強がよくわからないと回答。
- 小学5年生の約3割、中学2年生の5割強は将来の夢がないと回答。中学2年生は、前回調査と比較して夢がない割合が約11ポイント増加。

2-⑥ 子どもの悩み・相談相手



悩みごとの相談相手(小5Q25、中2子Q26)

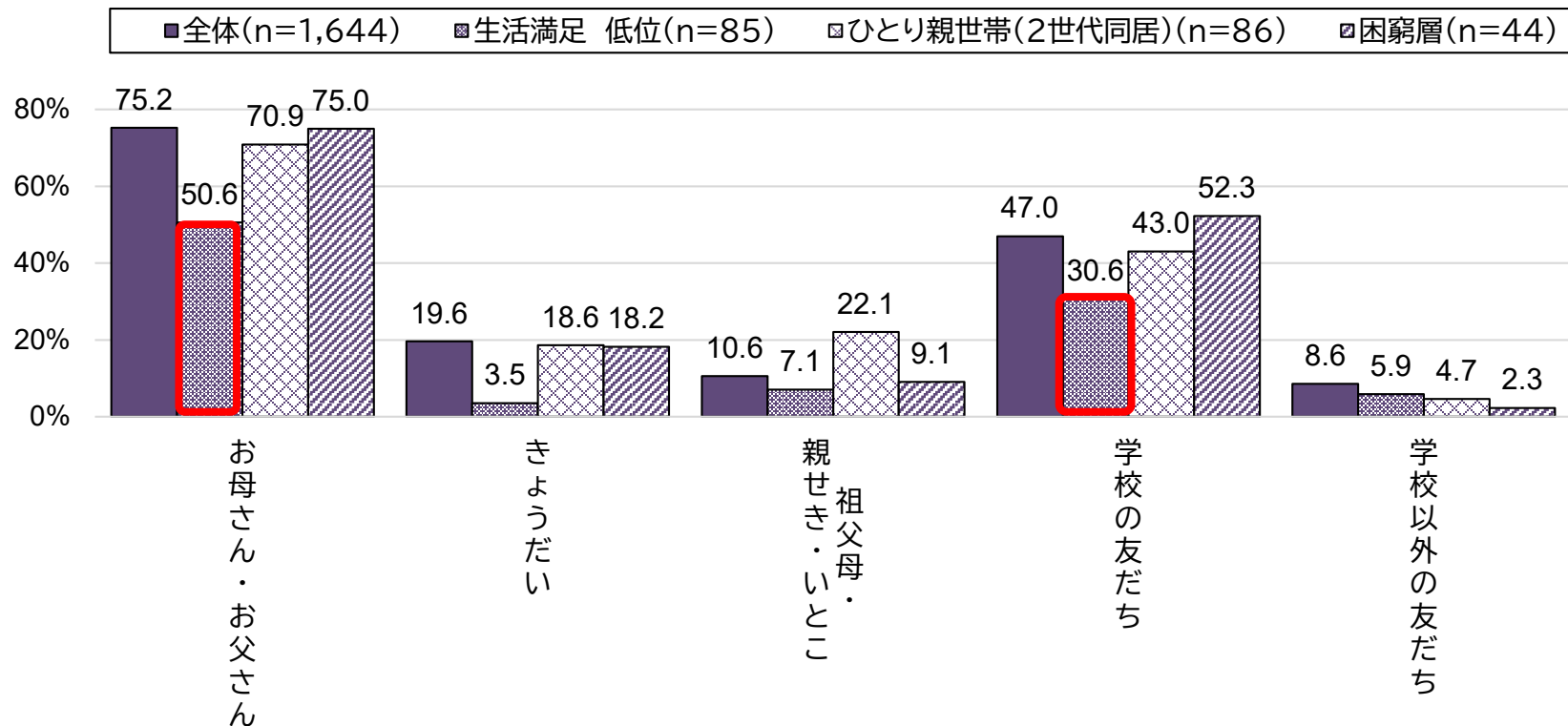


- 悩みごとを誰にも相談したくない・できないと回答した割合は、小学5年生の子ども8.3%、中学2年生の子ども14.5%

2-⑥ 子どもの悩み・相談相手



悩みごとの相談相手（家族・親族・友達）（小5Q25）

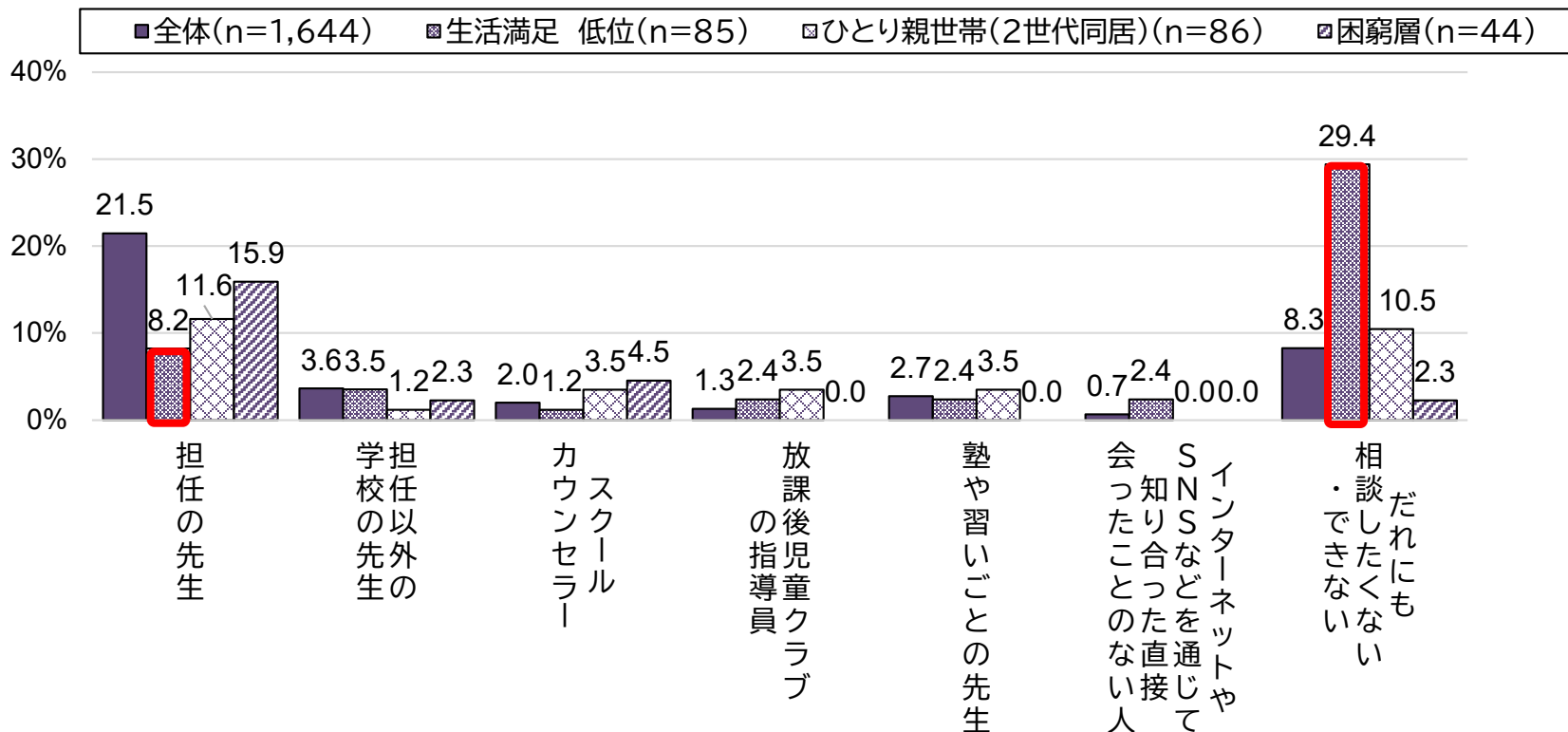


- 生活満足度が低い小学5年生の子どもは、父母や学校の友だちなど身近な人を相談相手と回答した割合が全体と比較して低い

2-⑥ 子どもの悩み・相談相手



悩みごとの相談相手（学校、その他）（小5Q25）

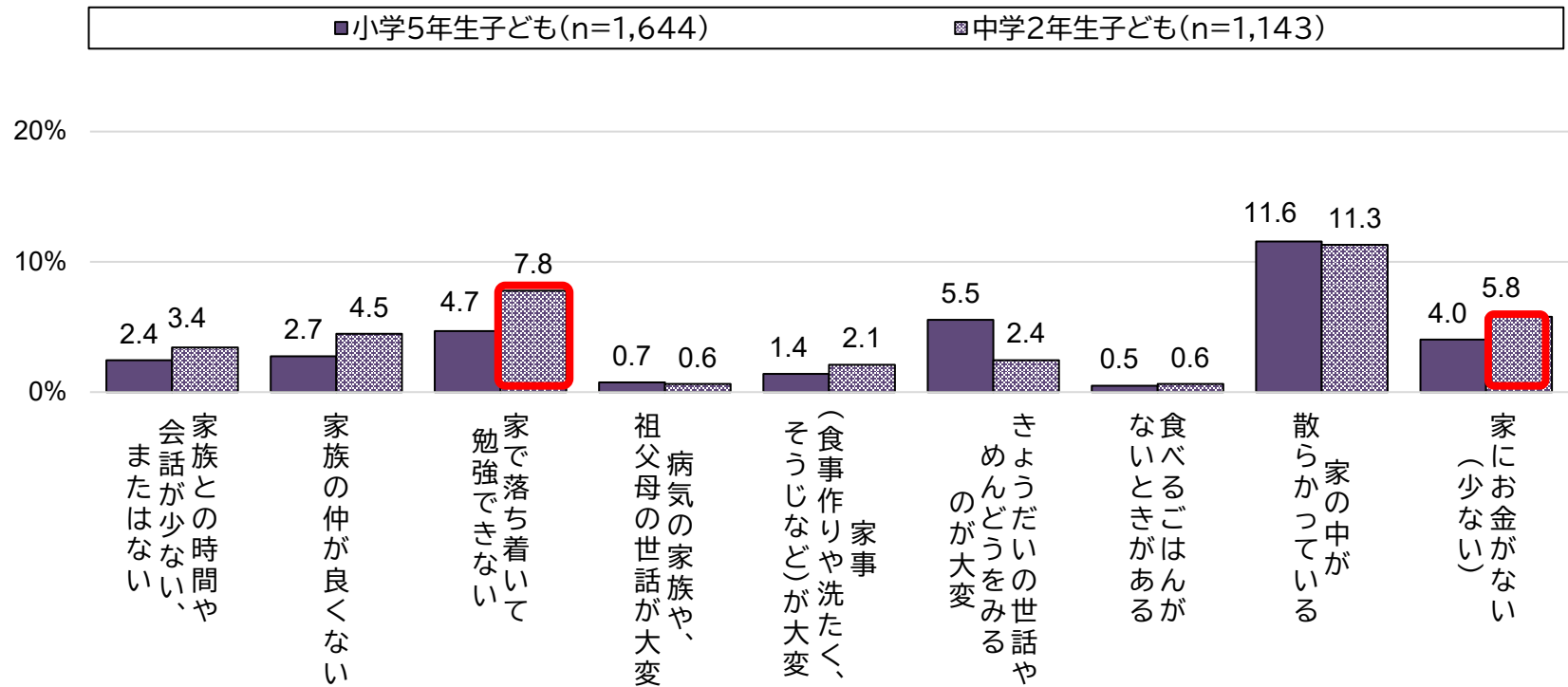


- 生活満足度が低い小学5年生の子どもの29.4%が、悩みごとを誰にも相談したくない・できないと回答

2-⑥ 子どもの悩み・相談相手



自分や家族のことで心配・困っていること(小子Q28、中子Q29)

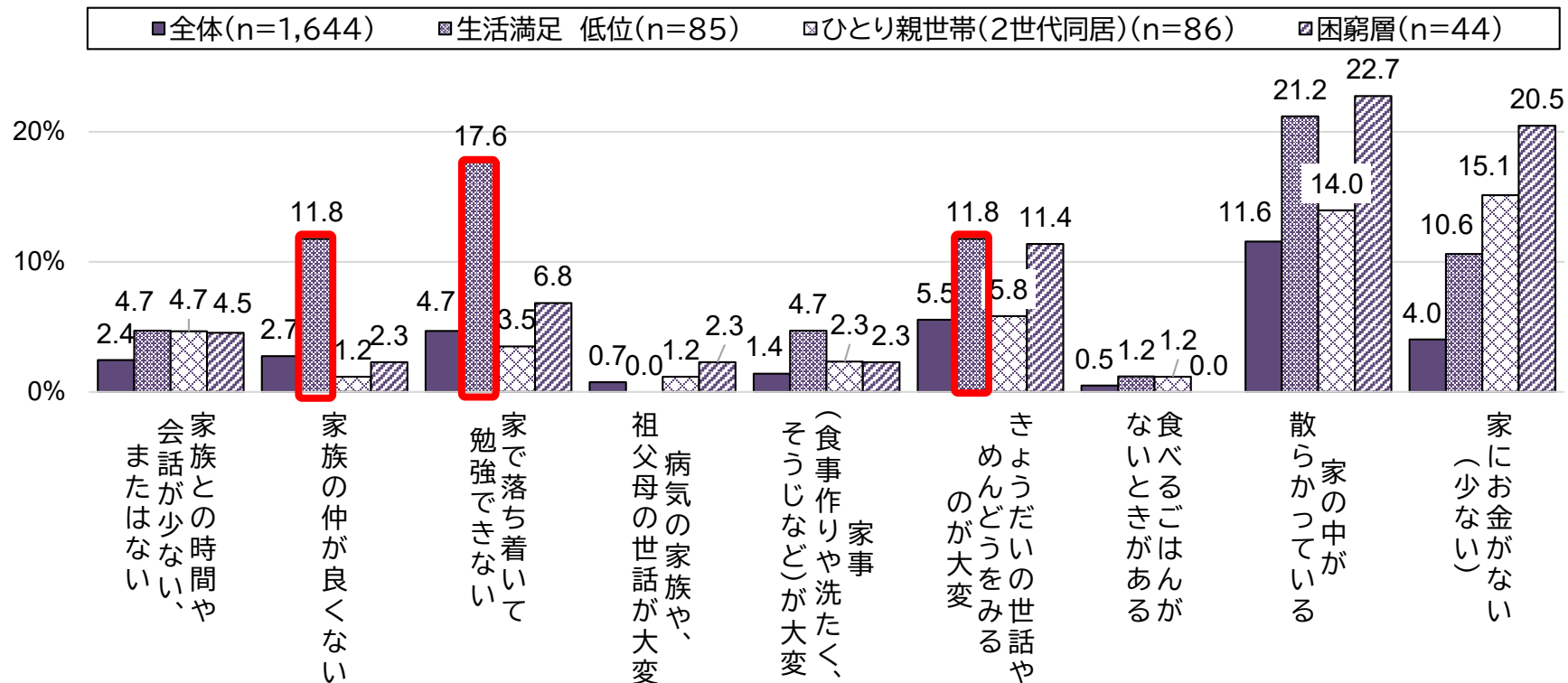


- 自分や家族のことで心配・困っていることとして、中学2年生の子どもの7.8%が家で落ち着いて勉強できない、5.8%が家にお金がないと回答

2-⑥ 子どもの悩み・相談相手



自分や家族のことで心配なこと・困っていること(小5子Q28)

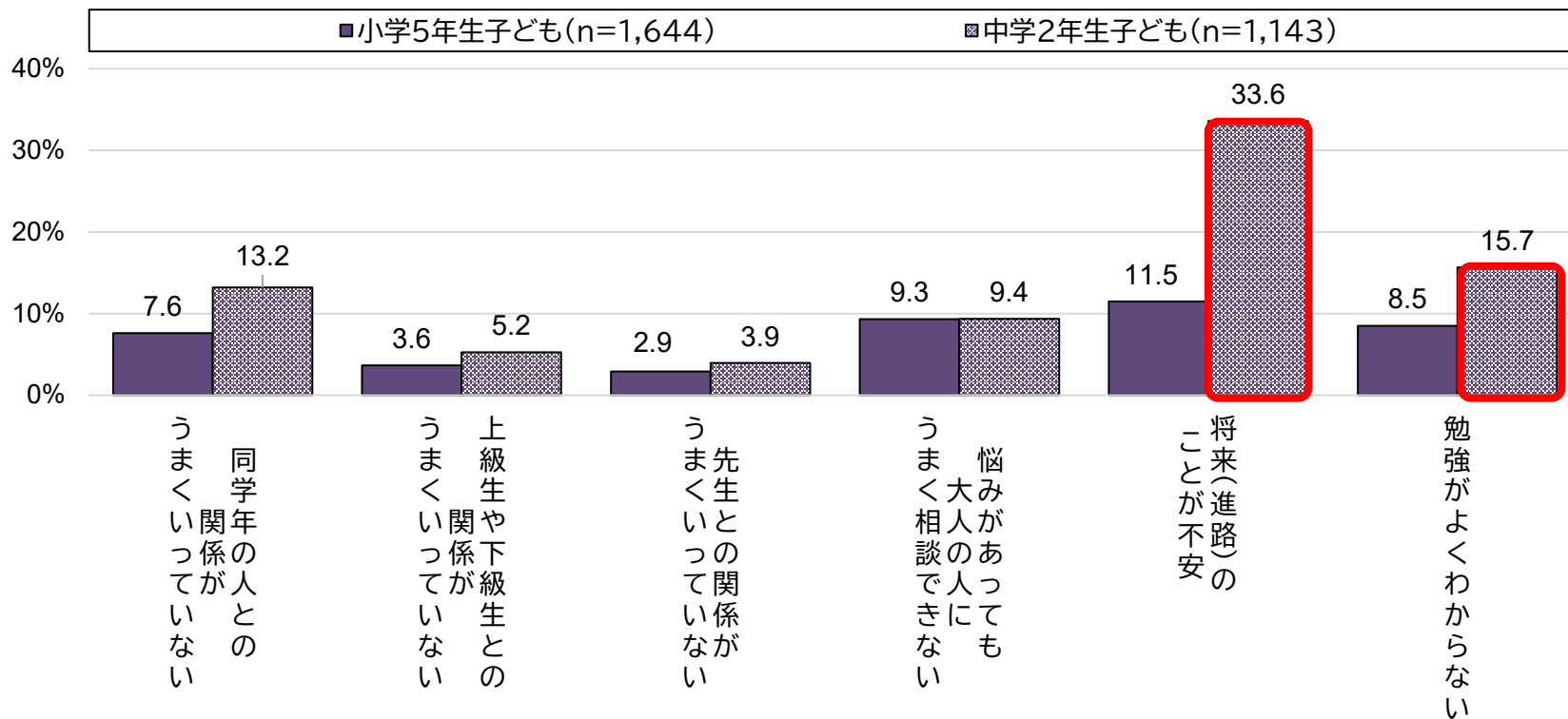


- 生活満足度が低い子どもは、家族の仲が良くない、家で落ち着いて勉強できないと回答した割合が相対的に高い

2-⑥ 子どもの悩み・相談相手



学校のことで困っていること (小5子Q29、中2小Q30)

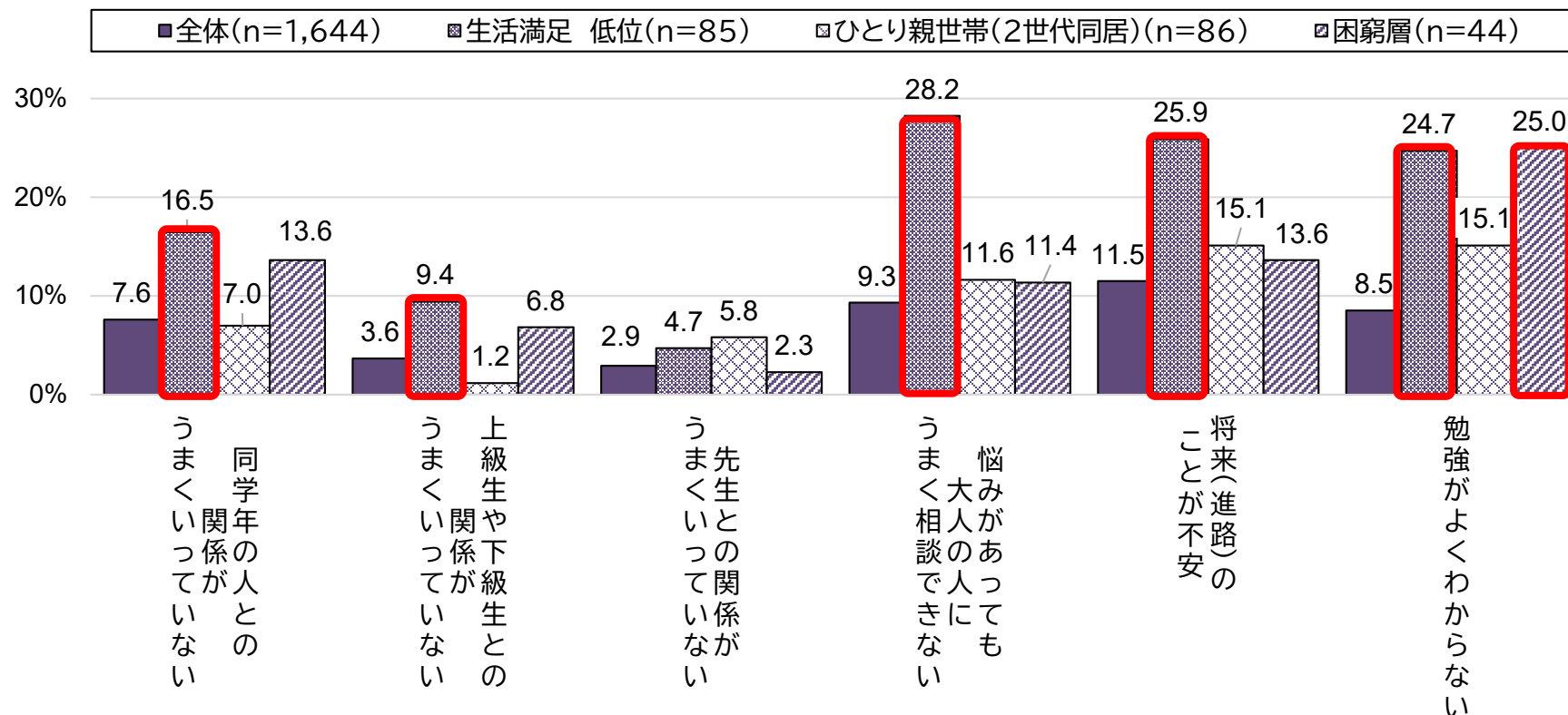


- 学校のことで心配・困っていることとして、中学2年生の子どもの33.6%が将来（進路）のことが不安、15.7%が勉強がよくわからないと回答

2-⑥ 子どもの悩み・相談相手



学校のことで困っていること (小5子Q29)



- 生活満足度が低い子どもは、学校で困っていることの選択数が多い傾向
- 困窮層に該当する子どもの25%は勉強がよくわからないことに困っている

2-⑦ 子どものウェルビーイング

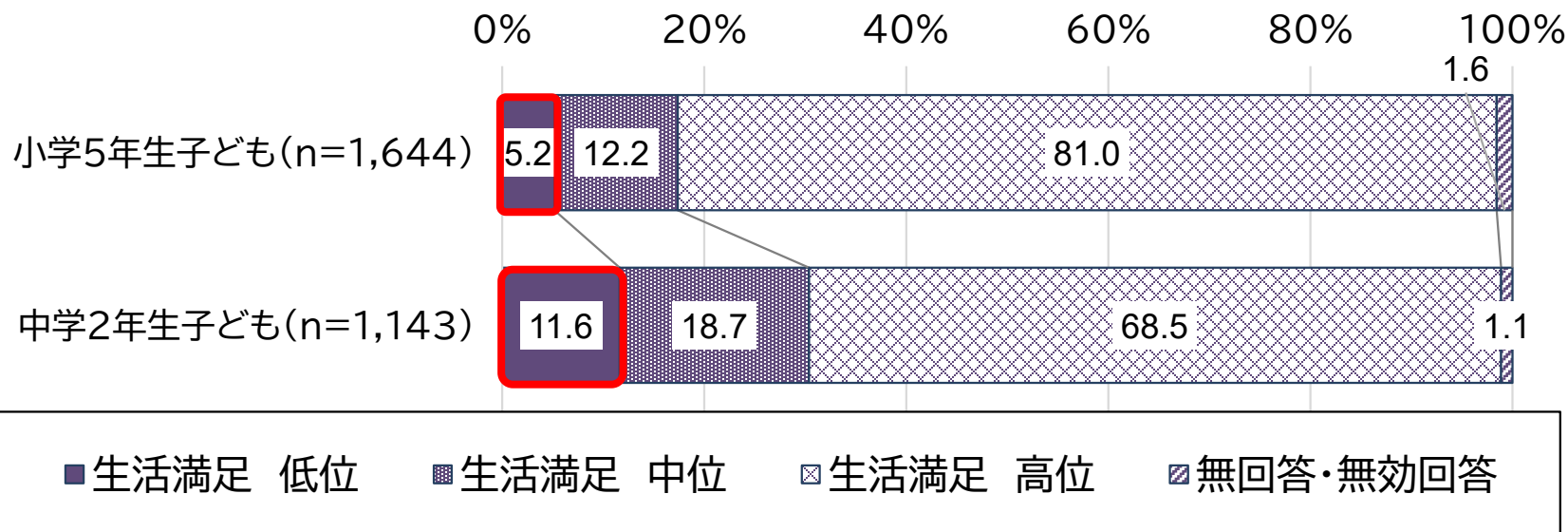
調査結果の概要

- 生活満足度が低い（10点満点中0～4点と回答）割合は、小学5年生の子どもの約5%、中学2年生の子どもの約12%。
- 健康状態が「よくない」「あまりよくない」割合は、小学5年生の子どもで約3%、中学2年生の子どもで約7%。
- 自分のことが好きだと「思わない」「あまり思わない」と回答した割合は、小学5年生の3割強、中学2年生の4割強。生活満足度が低い子どもは自分のことが好きだと思わない割合が相対的に高い傾向。
- ひとりぼっちだと感じるかどうかについて「とても思う」「思う」と回答した割合は、小学5年生の約2割、中学2年生の3割弱。生活満足度が低い子どもはひとりぼっちだと感じる割合が相対的に高い傾向。

2-⑦ 子どものウェルビーイング



生活満足度（再掲）

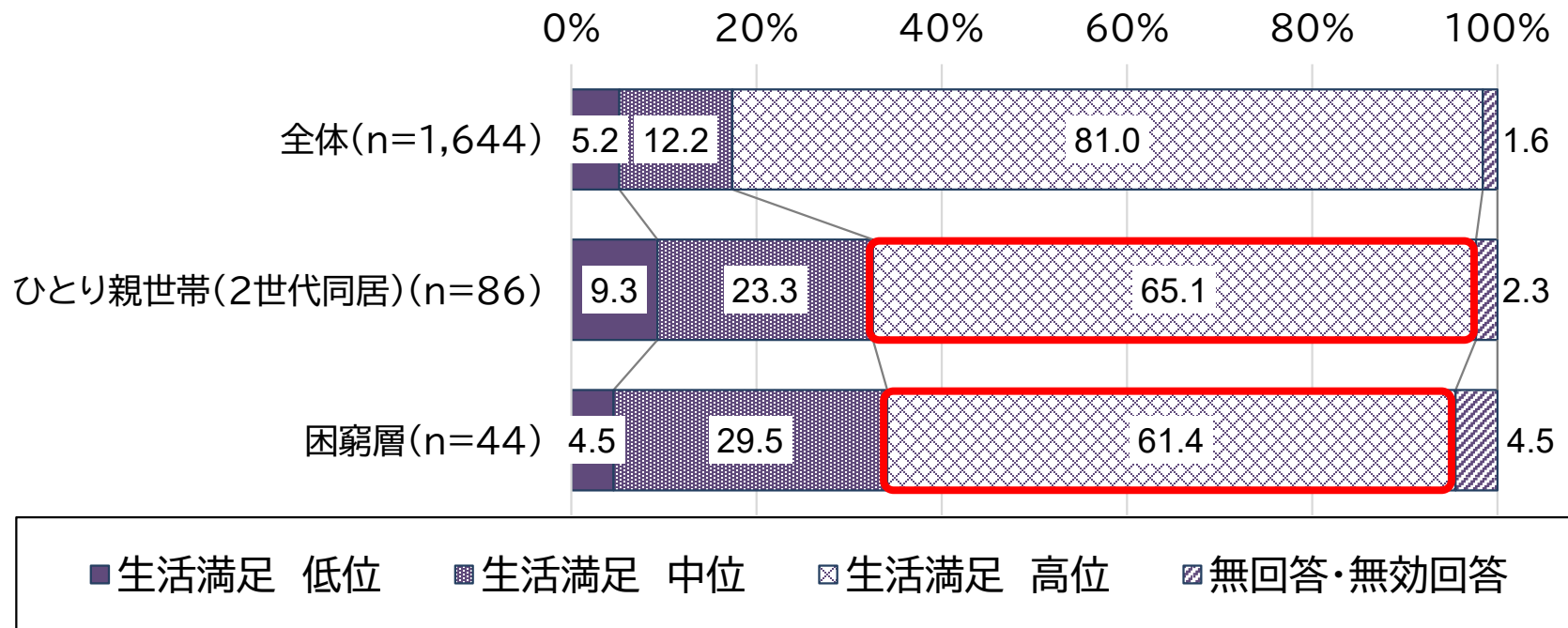


- 生活満足度が低い（10点満点中0～4点と回答）割合は、小学5年生が5.2%、中学2年生が11.6%

2-⑦ 子どものウェルビーイング



生活満足度（小5クロス集計）

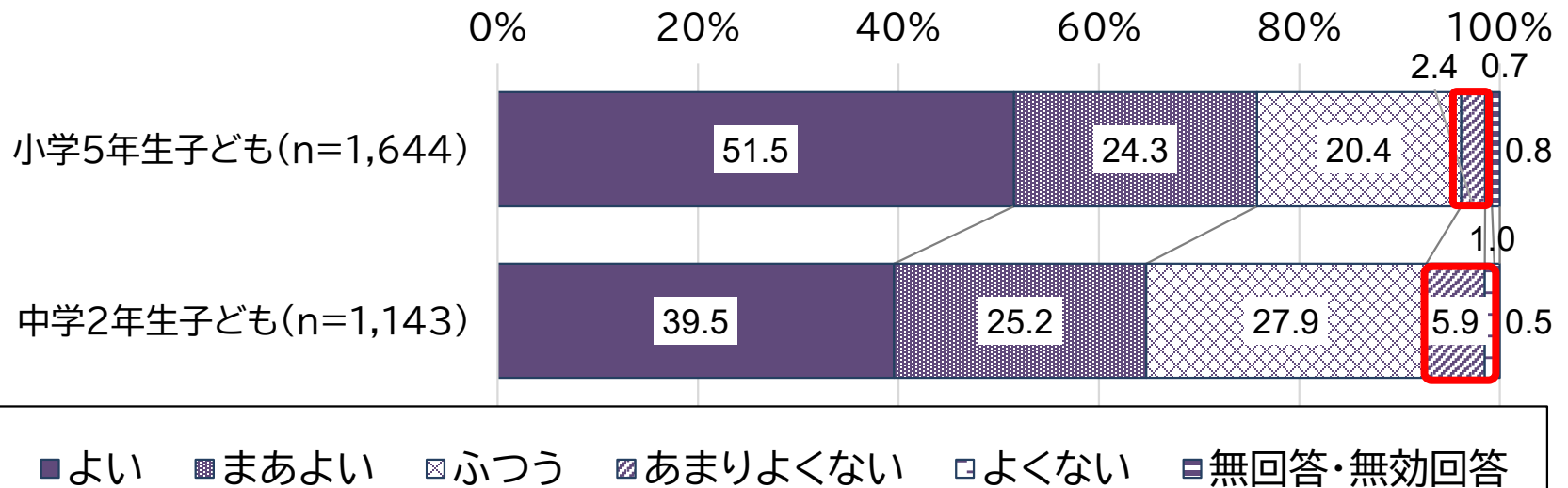


- 小学5年生のひとり親世帯（2世代同居）の子ども、困窮層に該当する子どもは、生活満足が高い（7～10点）割合が全体と比較して低い

2-⑦ 子どものウェルビーイング



健康状態（小中子Q10）

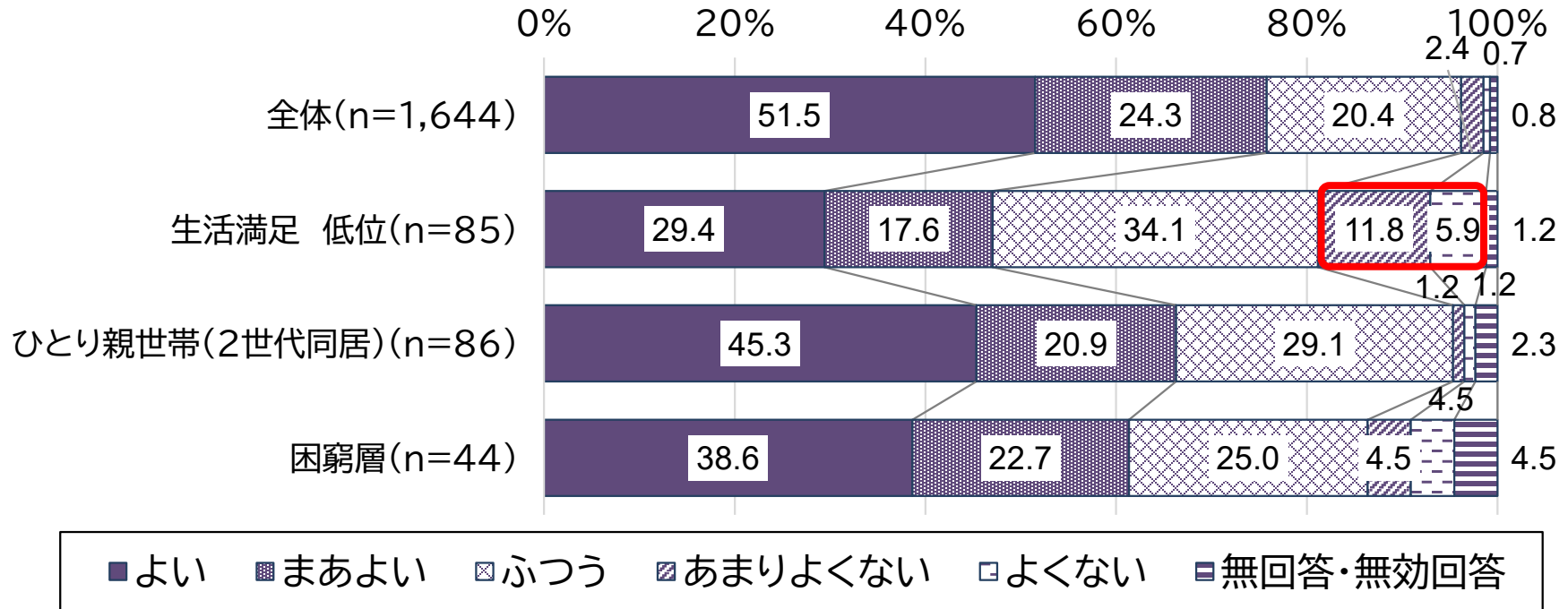


- 健康状態が「よくない」「あまりよくない」と回答した割合は、小学5年生の子どもで約3%、中学2年生の子どもで約7%

2-⑦ 子どものウェルビーイング



健康状態 (小5子Q10)

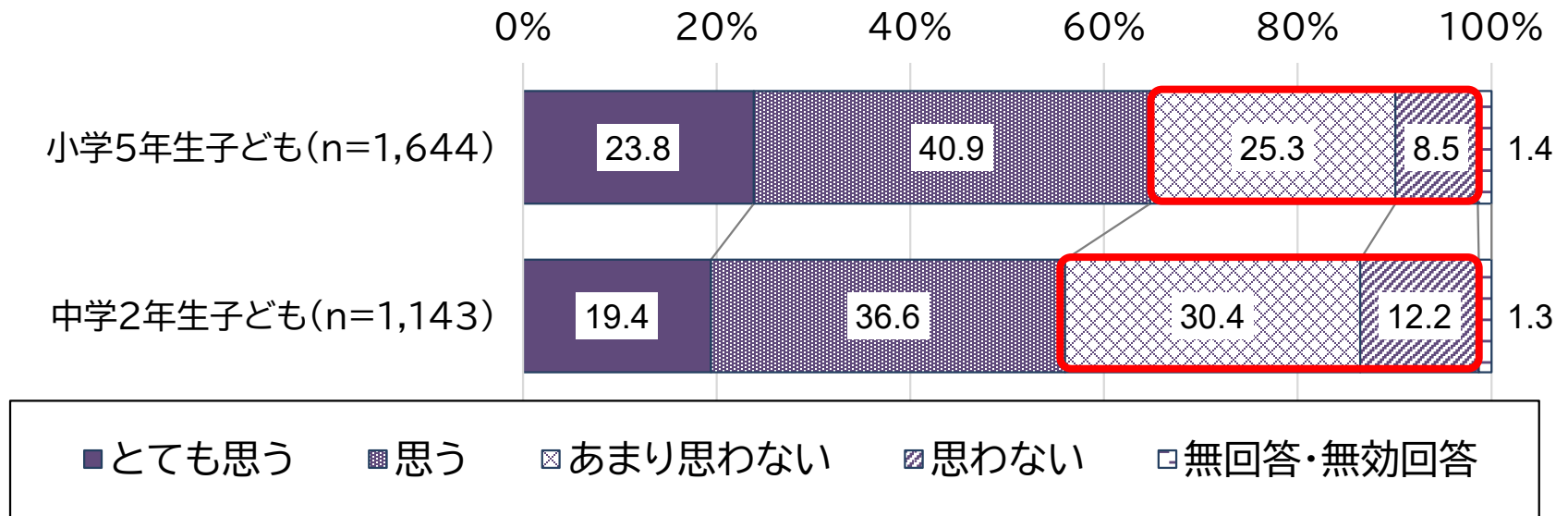


- 生活満足度が低い小学5年生の子どもの2割弱が、健康状態が「よくない」「あまりよくない」と回答

2-⑦ 子どものウェルビーイング



心理面（自分のことが好きだ）（小5子Q24A、中2子Q25A）

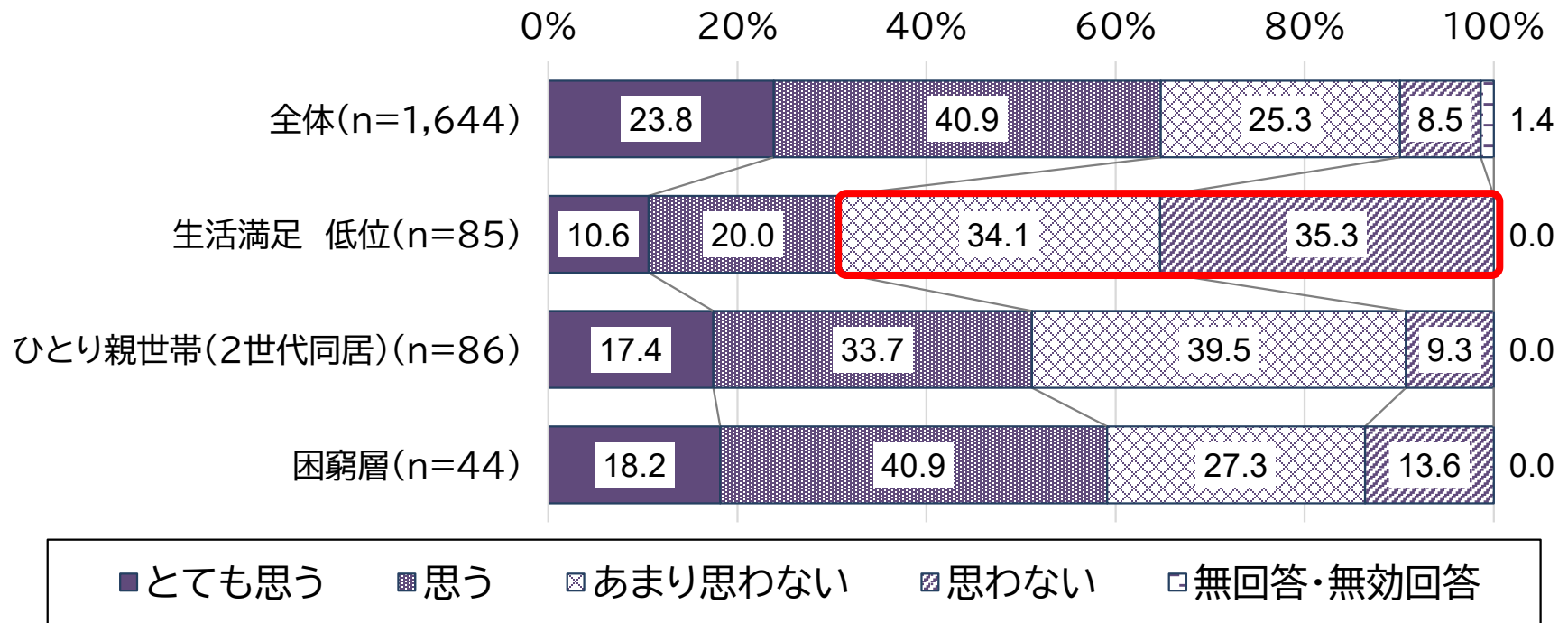


- 自分のことが好きだと「思わない」「あまり思わない」と回答した割合は、小学5年生の3割強、中学2年生の4割強

2-⑦ 子どものウェルビーイング



心理面（自分のことが好きだ）（小5子Q24A）



- 生活満足度が低い小学5年生の子どもの約7割が、自分のことが好きだと「思わない」「あまり思わない」と回答



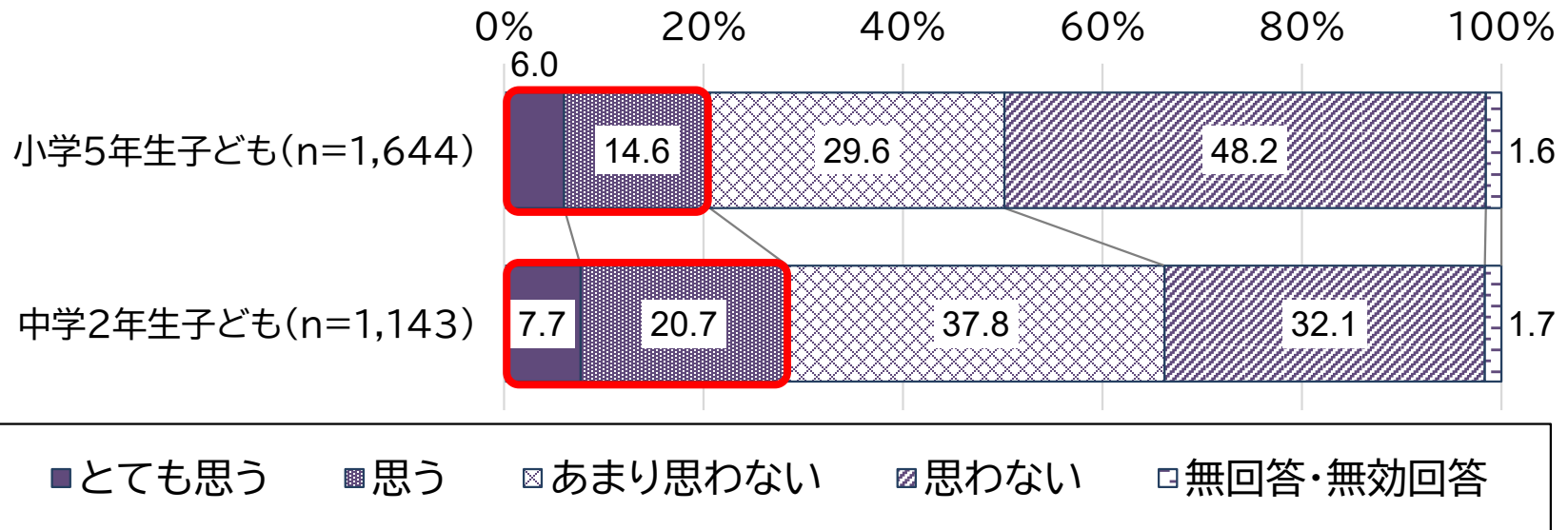
用語解説 自己肯定感

- 教育再生実行会議の第十次提言「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上」
(平成29年6月)によると、自己肯定感を以下の二つの側面から捉えられるとされている。
 - ① 勉強やスポーツ等を通じて他者と競い合うなど、自らの力の向上に向けて努力することで得られる達成感や他者からの評価等を通じて育まれる自己肯定感
 - ② 自らのアイデンティティに目を向け、自分の長所のみならず短所を含めた自分らしさや個性を冷静に受け止めることで身に付けられる自己肯定感

2-⑦ 子どものウェルビーイング



ひとりぼっちだと感じることもある（小5子Q24E、中2子Q25E）

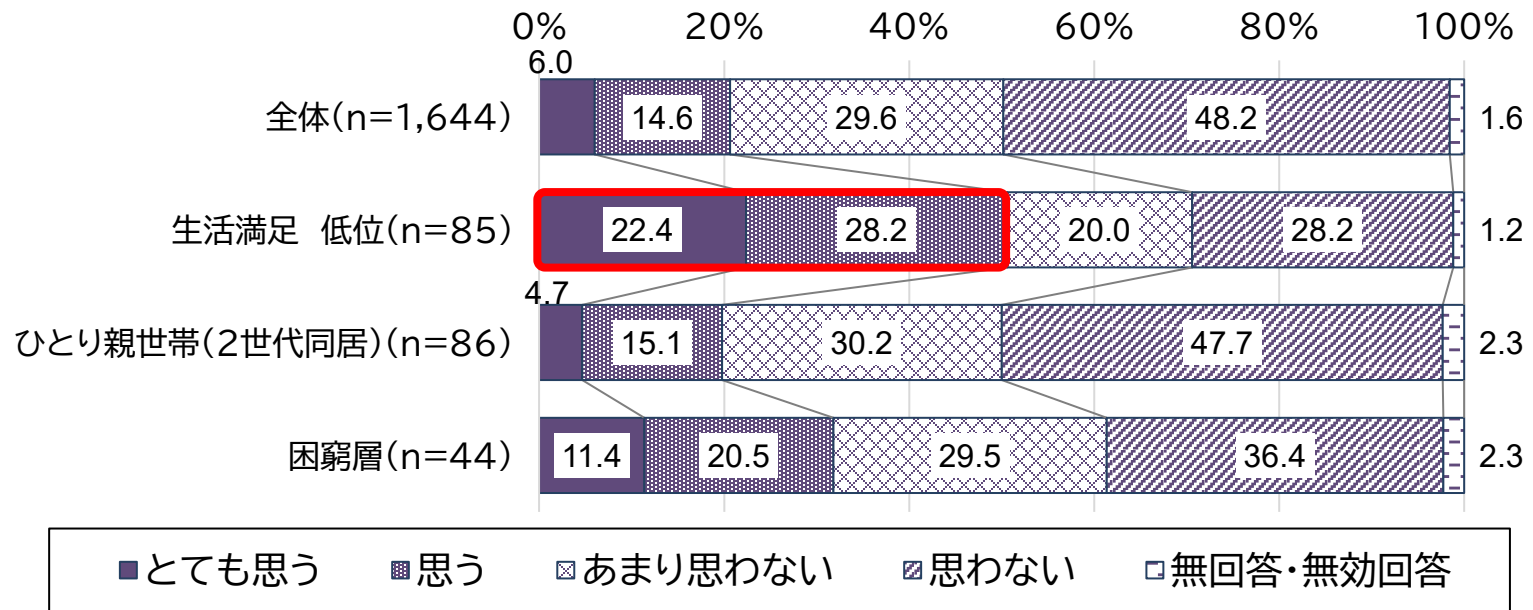


- ひとりぼっちだと感じることもあるかについて「とても思う」「思う」と回答した割合は、小学5年生の約2割、中学2年生の3割弱

2-⑦ 子どものウェルビーイング



ひとりぼっちだと感じることもある (小5子Q24E)



- 生活満足度が低い小学5年生の子どもの約5割が、ひとりぼっちだと感じることもあるかについて、「とても思う」「思う」と回答

2-⑧ 子どもの意見

調査結果の概要

- こども基本法では、こども施策の基本理念として、こども・若者の年齢及び発達の程度に応じた意見表明機会と社会参画機会の確保、その意見の尊重等が定められている。
- 「悩んでいる子どものために必要なこと」に関して、小学5年生・中学2年生の子どもに自由記述の方法で意見を求めた。
- 自由記述の分類結果によると、「気軽に悩み相談できる場所・工夫」、「学校内（先生・スクールカウンセラー等）の相談・いじめ・不登校対策」、「居場所・安らげる場」、「周囲が気付く・寄り添う・声を掛ける」等が、悩んでいる子どものために必要なこととして多く挙げられた。



用語解説

こども・若者の社会参画・意見反映

- こども基本法では、こども施策の基本理念として、こども・若者の年齢及び発達の程度に応じた意見表明機会と社会参画機会の確保、その意見の尊重等が定められている。
- こどもや若者の意見を聴き、社会参画を進める意義として、
 - ①こどもや若者のニーズを的確に踏まえて施策の実効性を高めること、
 - ②こどもや若者自らの意見によって社会に影響を与え、変化をもたらす経験は、自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高めること、につながるとされている。

2-⑧ 子どもの意見



悩んでいる子どものために必要なこと（小5子Q30）

順位	自由記述の分類（全体331件）	件数 (件)	割合 (%)
1	気軽に悩み相談できる場所・工夫	50	15.1%
2	学校内（先生・スクールカウンセラー等） の相談・いじめ・不登校対策	45	13.6%
3	居場所・安らげる場	26	7.9%
4	子ども同士の相談・友達が話を聞く	21	6.3%
5	周囲が気付く・寄り添う・声を掛ける	19	5.7%
6	家族・身近な大人への相談	15	4.5%

- 小学5年生の自由記述では、気軽に悩み相談が出来る場所・工夫、学校内の相談・いじめ・不登校対策、居場所・安らげる場所を求める意見が寄せられた

2-⑧ 子どもの意見



悩んでいる子どものために必要なこと（中2子Q31）

順位	自由記述の分類（全体353件）	件数 (件)	割合 (%)
1	学校内（先生・スクールカウンセラー等） の相談・いじめ・不登校対策	81	22.9%
2	気軽に悩み相談できる場所・工夫	65	18.4%
3	周囲が気付く・寄り添う・声を掛ける	41	11.6%
4	居場所・安らげる場	34	9.6%
5	家族・身近な大人への相談	29	8.2%
6	子ども同士の相談・友達が話を聞く	14	4.0%

- 中学2年生の自由記述では、学校内の相談・いじめ・不登校対策、気軽に悩み相談ができる場所・工夫、周囲が気付く・寄り添う等を求める意見が寄せられた

小学5年生の意見の紹介

気軽に悩み相談できる場所・工夫

自分の困っていることなど、気持ちを言葉にして人に言うのはとても難しいので、紙に名前と伝えたいことを書いて、学校、市民センターなどの公共の場に回収ボックスを置いてみたら、言葉にできなくても伝えられるかなと思う。

相談する人の性別を選べる。家にいたくなくなった時に、いつでもいける所。

悩んでいる子のためには、1対1で話せる、リラックスできる場所。

「子ども相談窓口」の電話番号が書かれたプリントを配られるが、電話ではなくお店みたいな形にしたらいいと思う。それを学校の近くにつくり、みんながわかる場所にしたらいいと思う。

中学2年生の意見の紹介

気軽に悩み相談できる場所・工夫

「周りに相談したら悪いことはないし、気持ちが軽くなることが多いよ」ということを、つらかったり、悩んでいる人に教えてあげると良いと思う。「言う相手がいない」「言う勇気がない」という子は、勇気を出して誰かに相談すればいいんだよと伝えれば、話しやすいと思う。

気軽に相談できる無料の電話やメールを作る。元々あったとしても、まだ知らない人もいると思うから、ポスターの提示やプリントで存在を知ってもらうことが良いと思う。

匿名で悩みを相談して、その話を誰かに聞いてもらうこと。でも話を聞いている人はメッセージ、コメントなどで反応してくれると悩みを相談しやすいから、そういうシステムを作ってほしい。

気軽にただ自分の話や悩み、考えを1対1で話せる場所があったらいいと思う。愚痴をたくさん聞いてもらいたい。何かあったらスマホとかでパッと話せて、その話を聞いて共感してもらえるような制度があっても良いように思う。

小学5年生の意見の紹介

学校内の相談・いじめ・不登校対策

つらい子には保健室での相談や、気持ちを落ち着かせるボックスを置いて、そのボックスに〇年〇組・名前〇〇〇、いじめられていることを紙に書いて、ボックスに入れたらいいと思う。ボックスは保健室の中に置くのが良いと思う。

自分が困っていることを発信できる人（子ども）はあまりいないと思う。定期的に子ども全てがカウンセリング（対話）できる仕組みがあるとよい。

いじめられている子が無料で受けられる相談所、オンライン学校とか、そういうことが必要だと思う。

学校などに、いつでも相談できる「お悩み相談委員会」があったらいいと思う。低学年でも高学年でも関係なく、小さなことでも気軽に相談できる委員会があればなと思う。

中学2年生の意見の紹介

学校内の相談・いじめ・不登校対策

学校で、一人ずつ先生と一対一で話す機会を設ける。先生は希望があれば担任でなくても、どの先生でも選べる。放課後に時間を作ること、時間を気にせず相談できる。この面談は、私の学校にあります。全ての学校がこの制度を取り入れてほしい。

もし悩みができたときに、スクールカウンセラーを利用しようと思ったとしても、使い方やどういうものなのかがよくわからないため、全体に説明が必要だと思う。

加害者のいじめを起こした原因を探してほしい。例えば家庭環境や親との関係。先生ではなく、心のケアのプロにお願いしたい。

みんなでいじめなどについて考える機会を増やすと良いと思う。いじめや他の困ったことで悩んでいる人がいるならば、私はその人の話を聞いてあげたい。あるスクールカウンセラーさんが「話を聞いてあげるだけでも、困っている人の心の支えになる」ということを教えてくれた。



3 調査結果から把握した課題

- ・ 今後の方向性**

3. 支援者ヒアリング 市が力を入れるべき支援 その1

- **相談体制の充実**：子ども分野のワンストップの相談体制、保護者にとって気軽にアクセスしやすい相談、アウトリーチ 等
- **不登校対策・支援**：学校内の居場所・配置人員の拡充、不登校児向けの地域の居場所、公設の不登校児を対象とした拠点の充実、学校外やオンラインを活用した支援 等
- **関係機関・団体の連携**：学校と福祉の連携、子どもや家庭に合わせた連携支援、支援者の連絡会 等
- **民間団体に対する支援**：活動資金、活動拠点の確保、ボランティアの育成に関する支援 等

3. 支援者ヒアリング 市が力を入れるべき支援 その2

- **子育て世帯への経済・生活支援**：乳幼児期の育児・生活支援、子育て世帯への経済的支援 等
- **子どもの預かり、保育に関する支援**：保育所の利用条件の緩和、多様な保育ニーズへの対応 等
- **居場所の拡充**：身近で、安心できる居場所 等
- **公園や遊具の整備**：子どもにとって魅力ある公園の整備 等
- **学びの環境整備・学習支援**：オンラインを活用した学習支援、理解度に沿った学習支援 等
- **障がい・発達障がい児に関連する支援**：支援にかかわる人材の充実 等

3. 社会資源調査 今後、市が力を入れるべき支援

■ 子ども・若者の居場所の充実


- 放課後や休日に子どもたちが自由に遊べる場所
- 中学卒業後以降に学校・家庭以外の無料で利用できる居場所 等

■ 不登校の子どもに関する支援

- 学校内の教室以外の居場所（校内居場所カフェ、別室登校）
- 不登校になった場合に多様な学びを選択できるための支援 等

■ 関係者の連携

- 団体・市・学校などの横のつながりで子どもを見守る
- 民間の支援活動の紹介
- 空き家活用等、活動場所の支援 等



令和5年度 藤沢市子どもと子育て家庭の
生活実態調査・ニーズ調査結果の概要
2024年（令和6年）3月

発行：藤沢市 子ども青少年部 子育て企画課